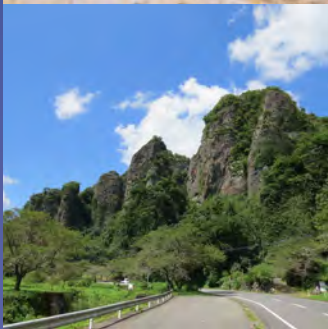
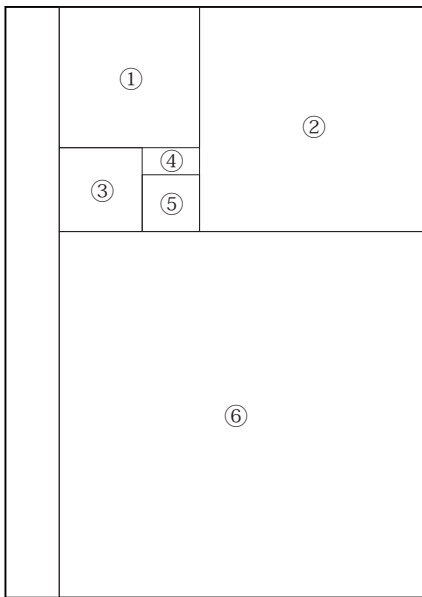


宇佐市 文化財保存活用 地域計画





表紙写真

- ①特別天然記念物 オオサンショウウオ
- ②重要文化財 木造弥勒仏及両脇侍像(大楽寺)
- ③名勝 耶馬溪(仙ノ岩の景)
- ④史跡 川部・高森古墳群(赤塚古墳)
- ⑤重要無形民俗文化財 豊前神楽(十ヶ平神楽)
- ⑥国宝 宇佐神宮本殿

序章 計画の目的と位置づけ

第1節 地域計画作成の背景と目的

現在の宇佐市は、平成 17(2005) 年に旧宇佐市・旧安心院町・旧院内町の 1 市 2 町が合併して誕生した。市の面積は 439.05km²あり、市内には宇佐神宮や宇佐海軍航空隊跡、院内の石橋群、安心院の饅頭群、オオサンショウウオ、東椎屋の滝、神楽、祭等、数多くの文化財が残る。

文化財保護法第 3 条には「文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすもの」と明記されており、宇佐市でも文化財を保護するための各種取り組みを実施してきた。一方で、建造物や美術工芸品等の有形文化財の劣化・き損や、地域住民の高齢化や過疎化による習俗や祭り等の民俗文化財の担い手が不足し継承への不安がある、活用が充分に行えていない文化財がある等、様々な問題が浮かび上がっている。

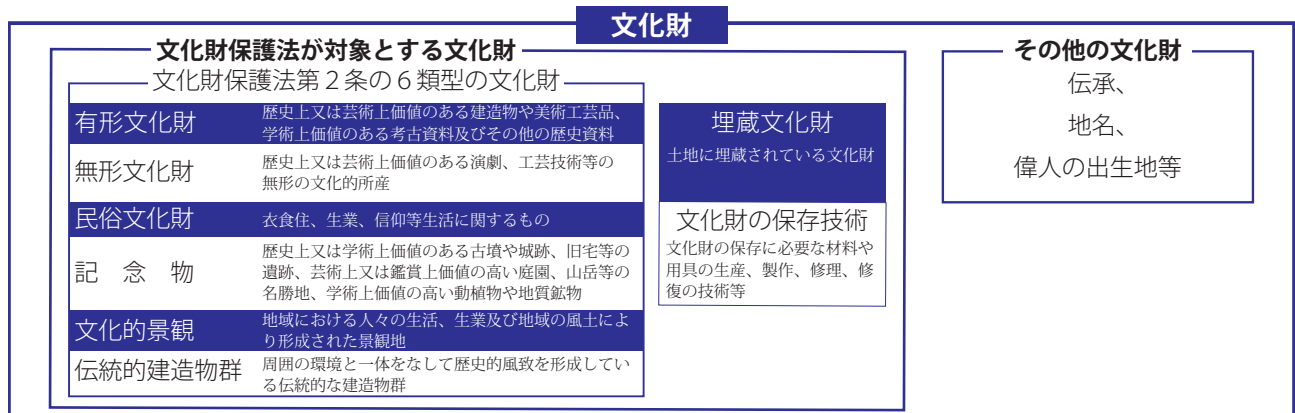
宇佐市の最上位計画である『第二次宇佐市総合計画後期基本計画』では、定住満足度日本一・交流満足度日本一という宇佐市のまちづくりの目標達成のための基本戦略の一つとして「歴史文化、人物、農林水産物など地域の潜在力の活用」を掲げている。

本計画は、文化財を保存し活用していくうえでの現状と課題を整理し、宇佐市が目指すべき文化財保護の将来像を設定するマスタープランであり、かつ、その実現に向けて具体的な事業や期間を定めるアクションプランとして作成する。計画に定める取り組みの推進により、宇佐の歴史文化等についての地域住民の関心を高めるだけでなく、文化財をまちづくりや観光等の地域振興に活かすことで住民の誇りや郷土愛の醸成につながり、文化財を将来にわたって継承するための取り組みにつながる事が期待される。

第2節 計画対象

本計画の中で使用する用語とその対象範囲を以下の様に定義する。

用語	定義
歴史文化	地域に固有の風土の下、先人によって生み育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総合的に把握した概念 (文化庁地域文化創生本部『地域総がかりでつくる文化財保存活用地域計画』)
文化財	歴史上または芸術上価値が高いあるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産(『文化審議会文化財分科会企画調査会報告書』平成 19(2007) 年 10 月)であり、本計画では指定等・未指定の区分にかかわらず文化財として扱う
指定等文化財	文化財の中で文化財保護法第 2 条の 6 類型に基づいて指定・登録等の措置を取られているもの
未指定文化財	文化財の中で指定・登録等の措置がなされていないもので、文化財保護法の 6 類型以外のもの(埋蔵文化財、保存技術、伝承、地名等)も含む

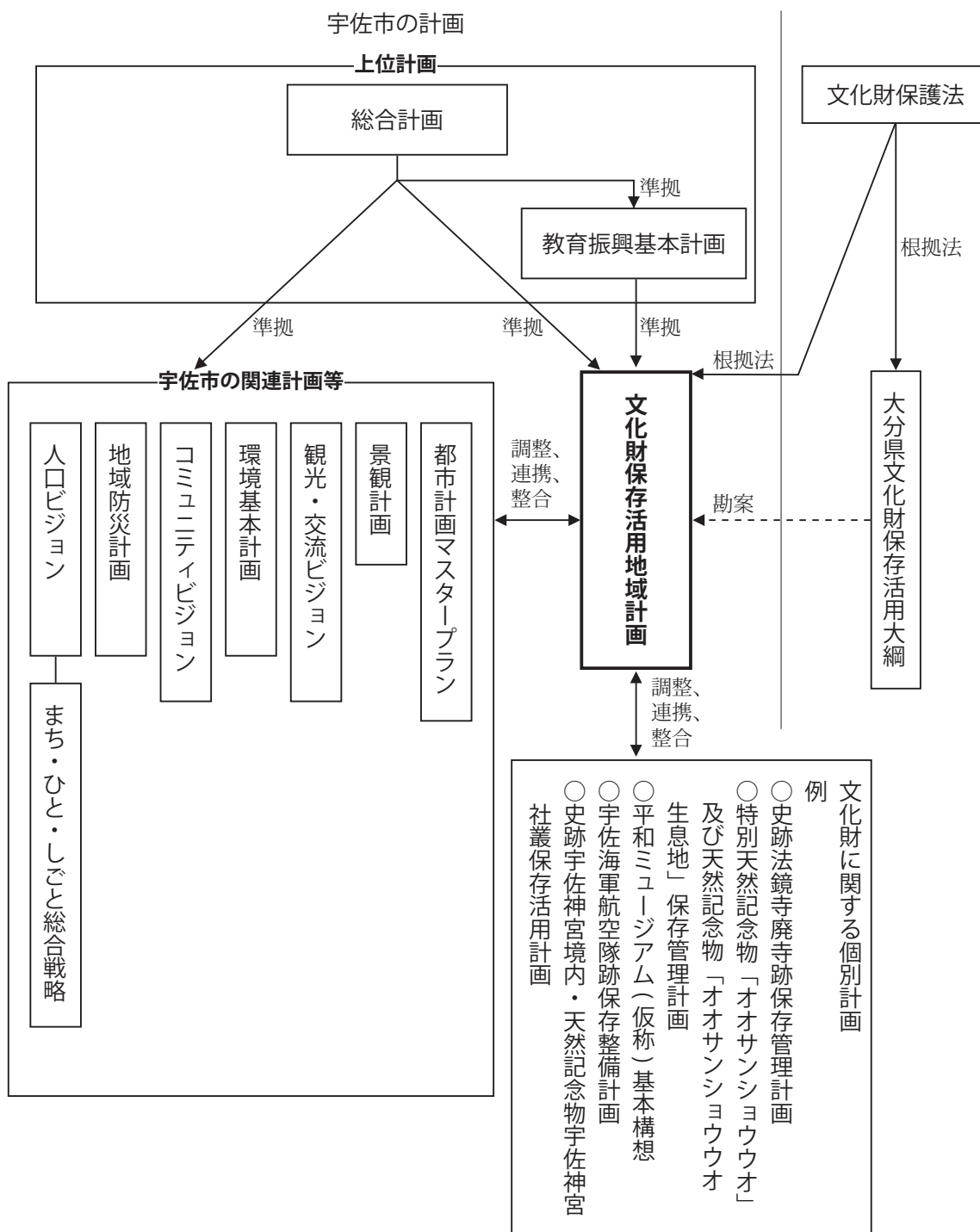


第3節 地域計画の位置づけ

(1) 文化財保存活用地域計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法第183条の3に明記されている「当該市町村の区域における文化財の保存活用に関する総合的な計画」である。宇佐市総合計画や大分県文化財保存活用大綱に加えて、関連する個別計画を勘案しつつ作成し、計画期間内における文化財保護行政のマスタープランかつアクションプランとして位置付ける。

なお、本計画作成までの経緯、宇佐市文化財保存活用地域計画協議会要綱等は巻末資料に掲載する。



(2) 関連する行政計画等

①宇佐市の上位計画

【第二次宇佐市総合計画後期基本計画】

策定主体：宇佐市

策定年月〔計画期間〕：令和2(2020)年3月〔令和2(2015)年度～令和6(2024)年度〕

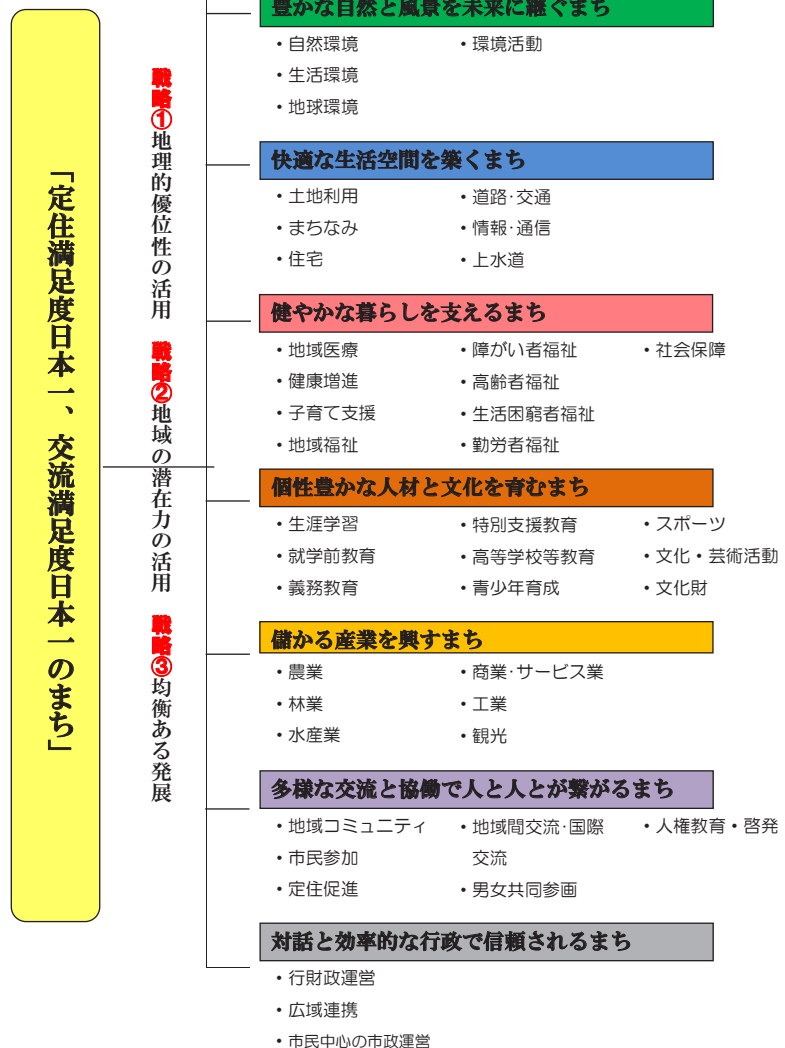
宇佐市のまちづくりの目標や長期的な市行政の基本的な方向を定めるものとして、「第二次宇佐市総合計画」がある。令和6年度までの基本構想に基づき、5年毎に基本計画を更新することで実行性の確保を図っている。計画の中で「定住満足度日本一、交流満足度日本一のまち」を基本理念として掲げており、次の3つを基本戦略として設定している。

基本戦略1：地理的優位性の活用

基本戦略2：歴史文化、人物、農林水産等地域の潜在力の活用

基本戦略3：周辺部を含む地域の均衡ある発展

上記の基本戦略を達成するために、宇佐市八策として施策体系を8つに分類してそれぞれの基本方針を定めており、方針に則った基本計画が明示されている。次ページに文化財の保存や活用に関連する施策を示す。



第二次宇佐市総合計画後期基本計画の内、文化財の保存・活用等に関連する施策一覧

章	節	項	主管課
1 安全・安心な生活を守るまち	1 防災	1 防災体制の充実	危機管理課
		2 防災活動の推進	
	4 消防・救急・救助	2 火災予防等の推進	消防本部総務課
2 豊かな自然と風景を未来に継ぐまち	1 自然環境	1 森林の保全	林業水産課
		3 生態系の保全	生活環境課
		4 自然景観の保全	都市計画課
	4 環境活動	2 環境学習の充実	生活環境課
3 快適な生活空間を築くまち	2 まちなみ	1 特性に応じた都市機能の整備	都市計画課
		2 地域生活拠点の充実	都市計画課
		3 新たなまちなみの形成	都市計画課
	4 道路・交通	1 幹線道路網の整備促進	土木課
	6 上水道	1 水道未普及地域の解消	上下水道課
4 健やかな暮らしを支えるまち	2 健康増進	3 食育の推進	健康課
	6 高齢者福祉	2 生きがい対策の充実	介護保険課
5 個性豊かな人材と文化を育むまち	1 生涯学習	2 生涯学習活動の機会充実	社会教育課
		3 図書館サービスの充実	図書館
		2 学校施設・設備の充実	教育総務課
	3 義務教育	4 大学等高等教育の充実	まちづくり推進課
	5 高等学校等教育	2 地域「協育力」向上支援の充実	社会教育課
	6 青少年育成	1 地域資源の活用	文化・スポーツ振興課
		2 活動支援の充実	文化・スポーツ振興課
	8 文化・芸術活動	1 文化財の調査と保護	社会教育課
		2 平和ツーリズムの推進	社会教育課
		3 文化財の整備と活用	社会教育課
		4 郷土資料の収集と保存	社会教育課
		5 伝統文化の保存と継承	社会教育課
		6 文化財愛護の啓発と普及	社会教育課
6 儲かる産業を興すまち	1 農業	1 6次産業化の推進	観光・ブランド課
		2 生産基盤の整備	耕地課
		6 世界農業遺産の推進	観光・ブランド課
	2 林業	1 森林の適正管理・緑化推進	林業水産課
		5 世界農業遺産の保全啓発	林業水産課
	3 水産業	2 流通基盤の推進	林業水産課
		3 漁業推進体制の強化と活動の円滑化	林業水産課
	4 商業・サービス業	1 関係団体との連携強化	商工振興課
	6 観光	1 情報発信の強化	観光・ブランド課
		2 受入体制の強化	観光・ブランド課
		3 資源活用の強化	観光・ブランド課
		4 人材・組織の強化	観光・ブランド課
7 多様な交流と協働で人と人が繋がるまち	1 地域コミュニティ	1 地域コミュニティ組織の設立	まちづくり推進課
		2 コミュニティ活動の活性化	まちづくり推進課
	2 市民参加	1 意識の高揚	秘書広報課
		2 人材の育成	まちづくり推進課
		3 活動支援の充実	まちづくり推進課
	3 定住促進	5 郷土愛の醸成	総合政策課
	4 地域間交流・国際交流	1 地域間交流の促進	秘書広報課
		2 国際交流の促進	秘書広報課

【宇佐市教育振興基本計画（改訂版）】

策定主体：宇佐市教育委員会

策定年月〔計画期間〕：平成 27(2015) 年 3 月〔平成 27(2015) 年度～令和 6 (2024) 年度〕

宇佐市が目指す教育を実現するための基本的方針を示した計画であり、全体で 30 の重点施策が掲げられており、そのうちの歴史・文化に関連する施策としては以下の 8 つがある。

- 23 平和ツーリズムの推進
- 24 資料館の機能拡充
- 25 戦争遺構の保存整備
- 26 文化財の調査と保護
- 27 文化財の整備と活用
- 28 郷土資料の収集と保存
- 29 伝統文化の保存と継承
- 30 文化財愛護の啓発と普及

②宇佐市の関連計画

【宇佐市人口ビジョン（改訂版）】

策定主体：宇佐市

策定年月：令和 2 (2020) 年 3 月（改訂）

人口減少社会に対して地方の活力を維持発展させるために、人口の動向等を分析し、将来の展望として 2050 年以降に 45,000 人規模の維持を目標として設定した。目標達成のために、「将来の成長・発展の素となるような地域資源を活用し、地域の外からも稼ぐ力を高め、地域内経済循環の実現に取り組むことが重要」と明記された。

【第 2 期宇佐市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

策定主体：宇佐市

策定年月〔計画期間〕：令和 2 (2020) 年 3 月〔令和 2 (2020) 年度～令和 6 (2024) 年度〕

人口ビジョンを達成し、少子高齢化や人口減少といった大きな課題に対して地方創生を進めるための基本戦略として以下の 4 つの基本目標を設定しており、その中でも特に文化財に関連のある施策を示す。

宇佐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の内、文化財の保存・活用等に関連する施策一覧

基本目標	具体的施策	施策の内容
Ⅱ 新しいひとの流れをつくる	国内誘客の推進と海外誘客（インバウンド）の加速	観光ガイドの研修や幅広い人材の育成、ガイドのネットワーク化
		観光標識、案内板、トイレ、駐車場等の整備、充実
		外国語表示の導入など外国人観光客の受け入れ体制整備
		メディアやインターネット、パンフレットなど各種媒体を活用した情報発信
		まちなみや酒蔵など観光資源の活用、国宝や世界農業遺産など歴史文化財を活用した広域観光ルートの設定
		宇佐・安心院・院内地域の観光素材を活かした周遊ルートを構築、新しい魅力の発信
		ニューツーリズムの推進、イベント等の観光資源化やツアーの造成支援など誘客活動
Ⅳ 安心して暮らせる地域づくり	地域の元気の創造	農業や土地利用、生態系や景観、伝統文化などの要素を含めた普及・啓発
		グリーンツーリズムと平和学習、ブルーツーリズム等との連携強化
		文化的価値の高い石橋の活用や自然がもたらす癒しの空間の整備とリニューアルした交流施設等との融合による魅力ある田舎暮らしの構築

IV	安心して暮らせる地域づくり	文化財・伝統文化の保存・活用・継承	地域の特色を活かした歴史的資源を活用した文化財愛護意識の普及
			友好・姉妹都市との交流を通じた多文化共生の推進
			地域の特色を活かした歴史的資源の保存・文化振興、固有の伝統芸能の文化継承活動や後継者の育成等を行う団体の支援
			拠点施設となる資料館の機能拡充、効果的な活動の展開
			遺構めぐり等の活動に対応したフィールドミュージアムの充実

【宇佐市地域防災計画】

策定主体：宇佐市

策定年月：地震・津波対策編 平成 27(2015) 年 3 月

風水害等その他の災害対策編 平成 28(2016) 年 3 月

宇佐市における防災活動体制の整備確立や、郷土の保全と市民の生命、身体及び財産を災害から保護する目的で、『地震・津波対策編』と『風水害等その他の災害対策編』がある。災害予防のために「文化財構造物及び公開・収蔵施設の耐震性確保」や「文化財防火施設の設置促進」、災害発生時の応急対策を迅速かつ円滑に実施するための事前措置として、「文化財の所有者または管理者に対する防災体制の確立指導並びに文化財の耐震調査の指導」等が必要と明記している。また、災害発生後の応急対策では、「被災した文化財は、文化財的価値を最大限に維持するよう所有者又は管理者が措置する」とした上で、市の役割として「文化財の被害状況の調査」を設定している。

【宇佐市コミュニティビジョン】

策定主体：宇佐市

策定年月：平成 21(2009) 年 8 月

住民の結びつきが強い小学校区単位で集落を超えて支え合う、新たな地域コミュニティ組織を構築し、協働による住民主体の地域づくりの在り方とその形成に向けての条件整備や方向性を示したもの。計画に基づき、地域コミュニティ組織（まちづくり協議会等）が組織されており、それぞれの協議会が独自にまちづくり計画を作成している。

【宇佐市環境基本計画】

策定主体：宇佐市

策定年月：平成 24(2016) 年 3 月

宇佐市民が生活のあらゆる場面において環境に配慮した取り組みを進めていくための指針として設定されたもので、「自然環境」「生活環境」「地球環境」「環境活動」「環境を活用した地域の活性化」という 5 つに環境を分類してそれぞれの施策を示した。「自然環境」に関する基本施策の内に「多様な生物と豊かな“生態系”の保全」としてオオサンショウウオや宇佐神宮社叢等の「生態系のバランスを崩すことのないよう次世代へ継承していくことが私たちの責務である」と明記された。

【第 3 次宇佐市観光・交流ビジョン】

策定主体：宇佐市

策定年月〔計画期間〕：令和 2 (2020) 年 3 月〔令和 2 (2020) 年度～令和 6 (2024) 年度〕

宇佐市における観光振興の方向性を明確にし、計画的な事業展開による地域資源を生かした交流人口や地域経済の活性化を目的として 5 つの基本方針を定めた。「基本方針 1 資源の活用と磨きの強化」では、「宇佐の代表的観光地である「宇佐神宮」をはじめ、東・西本願寺別院、鰻絵、石橋等多数ある歴史・文化遺産や東椎屋の滝、岳切溪谷等の観光資源を活かした周遊ルートの策定や体験プログラムの開発」が明記された。

【宇佐市都市計画マスタープラン】

策定主体：宇佐市

策定年月（計画期間）：令和 5（2023）年 3 月〔令和 5（2023）年度～令和 27（2045）年〕

大分県が策定した「宇佐都市計画区域マスタープラン」に則して、市の都市計画に関する基本的な方針を定めた計画。宇佐地域、安心院地域、院内地域のそれぞれについて以下のように地域別構想を設定した。

宇佐市都市計画マスタープランにおける地域づくりの目標

地域	地域づくりの目標
宇佐地域	宇佐八幡文化が薫る、安心して暮らせる持続可能な都市づくり
安心院地域	歴史と農業を活かした、賑わいと交流が生まれるまちづくり
院内地域	雄大な自然と文化が息づく、ゆとりと潤いのあるまちづくり

【宇佐市景観計画】

策定主体：宇佐市

策定年月：平成 27（2015）年 1 月（改定）

景観法に基づき宇佐市の優れた景観づくりを総合的かつ計画的に推進するための計画。基本理念として「豊かな自然に囲まれ、神仏、史跡、伝統文化と調和した新しい宇佐の景観づくり」を掲げ、四日市門前地区、宇佐神宮勅使街道地区、下毛・折敷田地区、善光寺地区を景観形成重点区域として定めた。

③宇佐市の文化財に関連する個別計画（策定年順）

【史跡法鏡寺廃寺跡保存管理計画】

策定主体：宇佐市教育委員会

策定年月：平成 26（2014）年 3 月

史跡法鏡寺廃寺跡の保存の経緯、本質的価値等を明記し、保存管理の方針を定めた。

【特別天然記念物「オオサンショウウオ」及び天然記念物「オオサンショウウオ生息地」保存管理計画】

策定主体：宇佐市教育委員会

策定年月：平成 27（2015）年 3 月

特別天然記念物オオサンショウウオとその生息地について、本質的価値等を明記し、ゾーニング等による保存管理の方針を定めた。

【宇佐市平和ミュージアム（仮称）基本構想・基本計画】

策定主体：宇佐市

策定年月（計画年度）：平成 26（2014）年 3 月

宇佐海軍航空隊の歴史等を伝える資料館を建設するだけでなく、掩体壕等の戦争遺構も屋外展示物として捉えるフィールドミュージアムとして一体的に整備するという宇佐市平和ミュージアム（仮称）構想の実現に向けた基本方針等を定めた。

【第2次宇佐海軍航空隊跡保存整備計画(改訂版)】

策定主体：宇佐市教育委員会

策定年月：令和2(2020)年7月(改訂)

宇佐海軍航空隊跡の戦争遺構の現況等を整理し、保存整備の方針と具体的な実施手法等を示した。

【史跡宇佐神宮境内・天然記念物宇佐神宮社叢保存活用計画】

策定主体：宇佐市教育委員会

策定年月〔計画期間〕：令和4(2022)年3月〔令和4(2022)年度～令和13(2031)年度〕

平成4(1992)年に策定された『史跡宇佐神宮境内保存管理計画』を基として、史跡宇佐神宮境内と天然記念物宇佐神宮社叢の適正な保存と活用の方針を定めるため、指定地周辺の地域を含めたゾーニング、現状変更取扱基準等を定めた。

④大分県が策定した文化財に関する計画

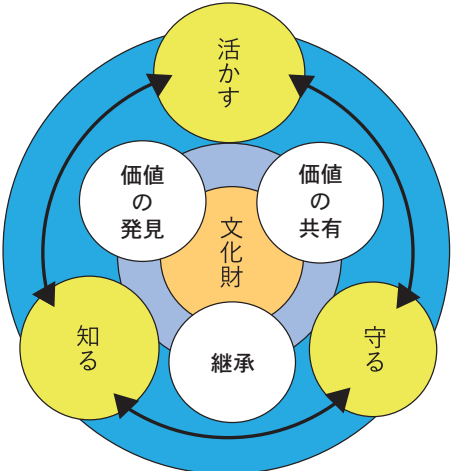
【大分県文化財保存活用大綱】

策定主体：大分県教育委員会

策定年月：令和3(2021)年3月

過疎化や少子高齢化等による人口減少が進み文化財を取り巻く社会情勢が大きく変化する昨今の状況を受け、大分県内の文化財について、「調査や探究活動を通してその価値を発見し、さまざまな地域資源として活用することで地域を豊かにし、その価値を共有することを通して保護体制の構築を図り、持続可能な地域社会の構築に寄与する」目的で策定された。「地域とともに活かして守る 大分の文化財」という将来像を掲げ、文化財を「知る」「活かす」「守る」というサイクルを構築し、持続可能な文化財の継承が図られる社会を目指すとした。

大綱の中で整理された、大分県を特徴づけるストーリーとして設定された10の関連文化財群は下記のとおりである。



文化財を持続させるためのサイクル
(『大分県文化財保存活用大綱』より)

大分県文化財保存活用大綱に示された関連文化財群一覧

番号	関連文化財群の名称	宇佐市内の主な関連文化財
1	火山活動の影響を受けた風致景観と動植物	耶馬溪(国名勝)、オオサンショウウオ(国特天)、ほか
2	瀬戸内海を通じた古墳文化の交流	川部・高森古墳群、小部遺跡、葛原古墳(いずれも国史跡)、ほか
3	八幡神の信仰と六郷山	宇佐神宮本殿、孔雀文磐(ともに国宝)、宇佐神宮境内(国史跡)、ほか
4	石造文化財の宝庫	鳥居橋(県有形文化財)、下市磨崖仏、檜本磨崖仏(県史跡)、ほか
5	大友氏による交易の推進とキリシタン文化	該当なし
6	多彩な文化を生み出した小藩分立	四日市陣屋跡(市史跡)
7	温泉を資源とした観光	該当なし
8	各地を彩る伝統芸能と祭礼行事	豊前神楽(国指定無形民俗)、長洲の初盆行事(国選択無形民俗)、ほか
9	江戸時代にはじまる地域ごとの食文化	ほうとう、団子汁、宇佐飴、ほか(いずれも未指定)
10	近代の伝統工芸	該当なし

【名勝耶馬溪保存管理計画報告書】

策定主体：大分県教育委員会

策定年月：平成23(2011)年3月

名勝耶馬溪の指定範囲とその周辺をゾーニングし、保存管理に関する基本の方針を定めた。

第4節 計画期間

本計画の適用期間は令和 5 (2023) 年度から令和 14(2032) 年度の 10 年間とし、最上位計画である宇佐市総合計画の改定時期に合わせて、前期〔令和 5 (2023) 年度～令和 6 (2024) 年度〕、中期〔令和 7 (2025) 年度～令和 11(2029) 年度〕、後期〔令和 12(2030) 年度～令和 14(2032) 年度〕に区分する。なお、計画期間が完了する令和 14 年度を目途に事業効果を検証し、次期計画に反映することとする。

計画の内容について、進捗状況や社会情勢等により修正や追加項目等が生じた場合は適宜見直しを行うこととする。計画の変更が必要な場合は文化庁長官による変更の認定を受け、また、軽微な変更※の場合は大分県及び文化庁へ報告する。

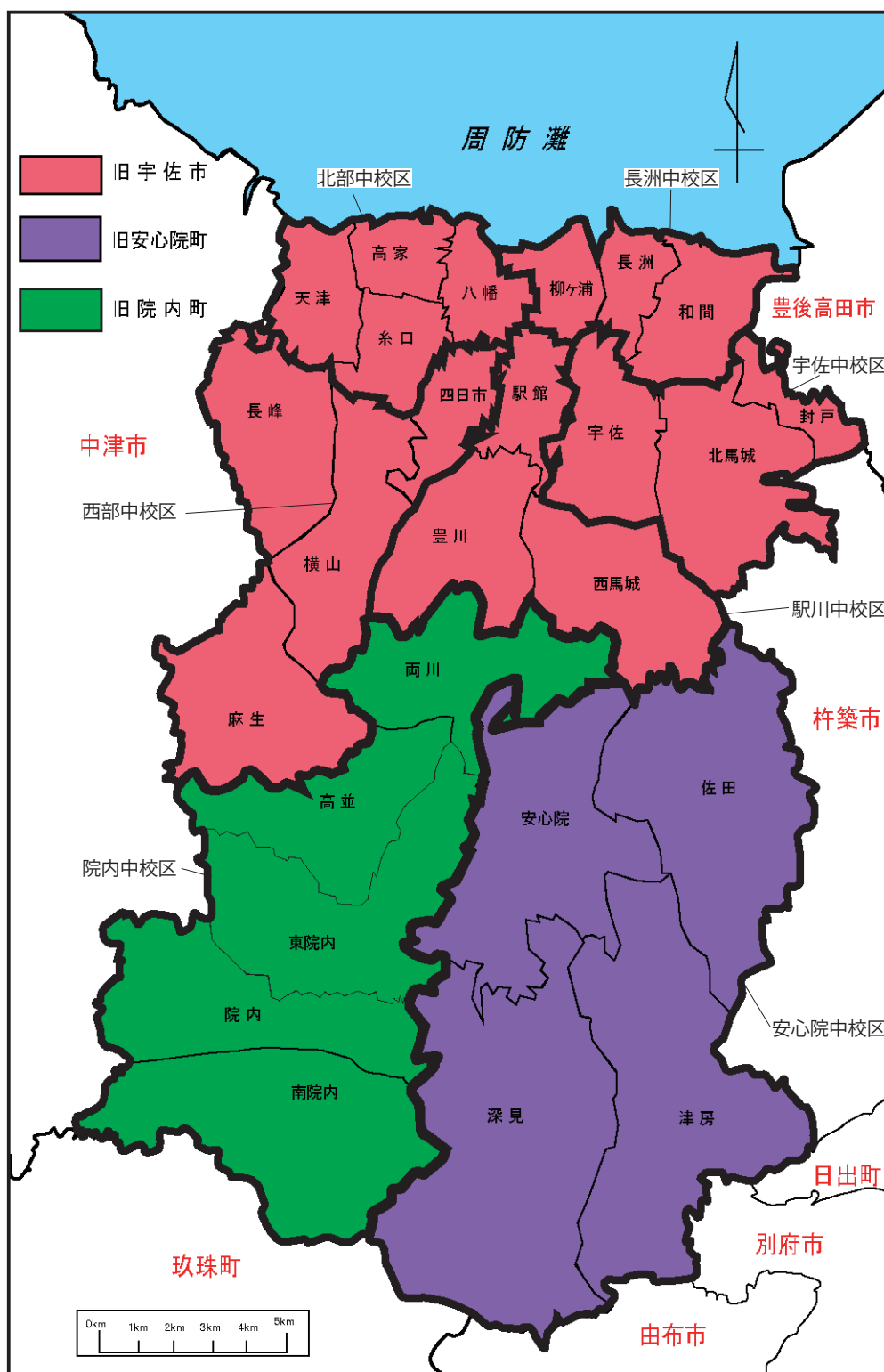
計画名		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
第二次 宇佐市総合計画	後期												
	前期												
第三次 宇佐市総合計画 (予定)	前期												
	後期												
宇佐市 文化財保存活用 地域計画	前期												
	中期												
	後期												
												次期計画	

※ 軽微な変更とは、下記に掲げる以外の変更である。

- ・計画期間の変更
- ・市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

第5節 計画範囲、地区区分

本計画の対象範囲は宇佐市全域である。平成 17(2005) 年の合併前の旧市町を基に、宇佐・安心院・院内の大きく 3つの地域に大別し、その中を中学校区(北部・西部・駅川・宇佐・長洲・安心院・院内)を基に細分する。なお、文化財の所在等で詳細な区域を述べる場合等は、地形や近世以前の集落のまとまりから構成された明治時代から昭和 20 年代までの町村単位を基本として下図のように地区を区分する。



地区区分図

第1章 宇佐市の概要

第1節 自然的・地理的環境

(1) 面積・位置

面積：439.05km²（南北約30km、東西約15km、標高差約1,000m）

位置：北緯33°31′、東経131°21′（宇佐市役所本庁舎）

宇佐市は大分県北部に位置する。市の南は玖珠町・由布市に、西は中津市に、東は豊後高田市・杵築市・日出町・別府市にそれぞれ接しており、北は全域が周防灘に面している。海岸線から直線距離で約40～50km北には瀬戸内海を隔てて山口県があり、晴天の日には遠望することができる。



宇佐市の位置

(2) 地形

市の南部は九重山系に連なる標高1,000m級の森林地域である。中部は標高500～600m程の山々が多く、河川の開析による河岸段丘が多くみられ、安心院盆地等が形成されている。北部には中部の山地から延びる標高40～200mの台地と、県内でも有数の平野である宇佐平野が広がる。

宇佐平野には平安時代の開墾された宇佐地区条里跡が残り、昭和14年から昭和20年まで宇佐海軍航空隊の飛行場として利用された時期を除いて、現在でも大部分が水田として利用されている。海岸部は近世以降の新田開発等による干拓が盛んに行われた場所で、水田としての利用のほかに、長洲地区は漁港として利用されている。

河川としては森林地域から中山間地域を流れる恵良川・津房川・深見川等が合流する駅館川が、市の南北を縦断している。この他に、伊呂波川と寄藻川、その間を流れる小河川がそれぞれ周防灘へとつながる。

海岸部としては、古墳時代等は駅館川や寄藻川の下流に入り江が発達していたと考えられるが、上述した条里として開発や近世以降の新田開発で海岸線が北上しており、現在は遠浅な海岸が市の北側全体に広がる。



駅館川河口上空から見た宇佐市

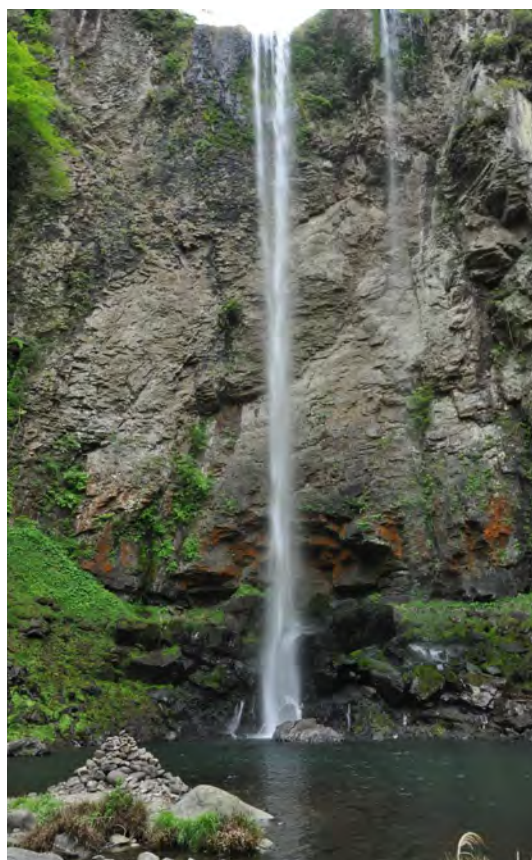
(3) 地質

先カンブリア紀から新生代第四紀の火成岩や堆積岩、変成岩が分布し、複雑な地質構造を示す。新生代第三紀以降に阿蘇・耶馬溪等の火山から放出された溶結凝灰岩や軽石層、安山岩溶岩等で覆われている。

安心院地域や院内地域にかけて広がる鮮新世前期の津房川層下部(約350万年前)の動植物化石が多数産出した。深見川で発見されたミエゾウやヨウスコウアリゲーター、オオサンショウウオ、鳥類等の動物化石は、当時の宇佐市中部に広大な淡水域があったこと等を示している。

洪積世前半の耶馬溪層・駅館川層・新第三紀火山噴出物の地層とそれを覆う筑紫溶岩や火山岩等からなり、中部～南部の山地には溶岩に由来する仙岩山の景、仙ノ岩の景といった凝灰岩の露頭や、東椎屋の滝の景、龍泉寺の滝の景(別名福貴野の滝)、西椎屋の滝の景といった滝等は山水画の様な独特の風景を形成し、名勝耶馬溪の一部になっている。北部の宇佐平野の地質は、沖積地の内礫を主とする地域、台地のローム・礫・基盤の地域によって構成される。

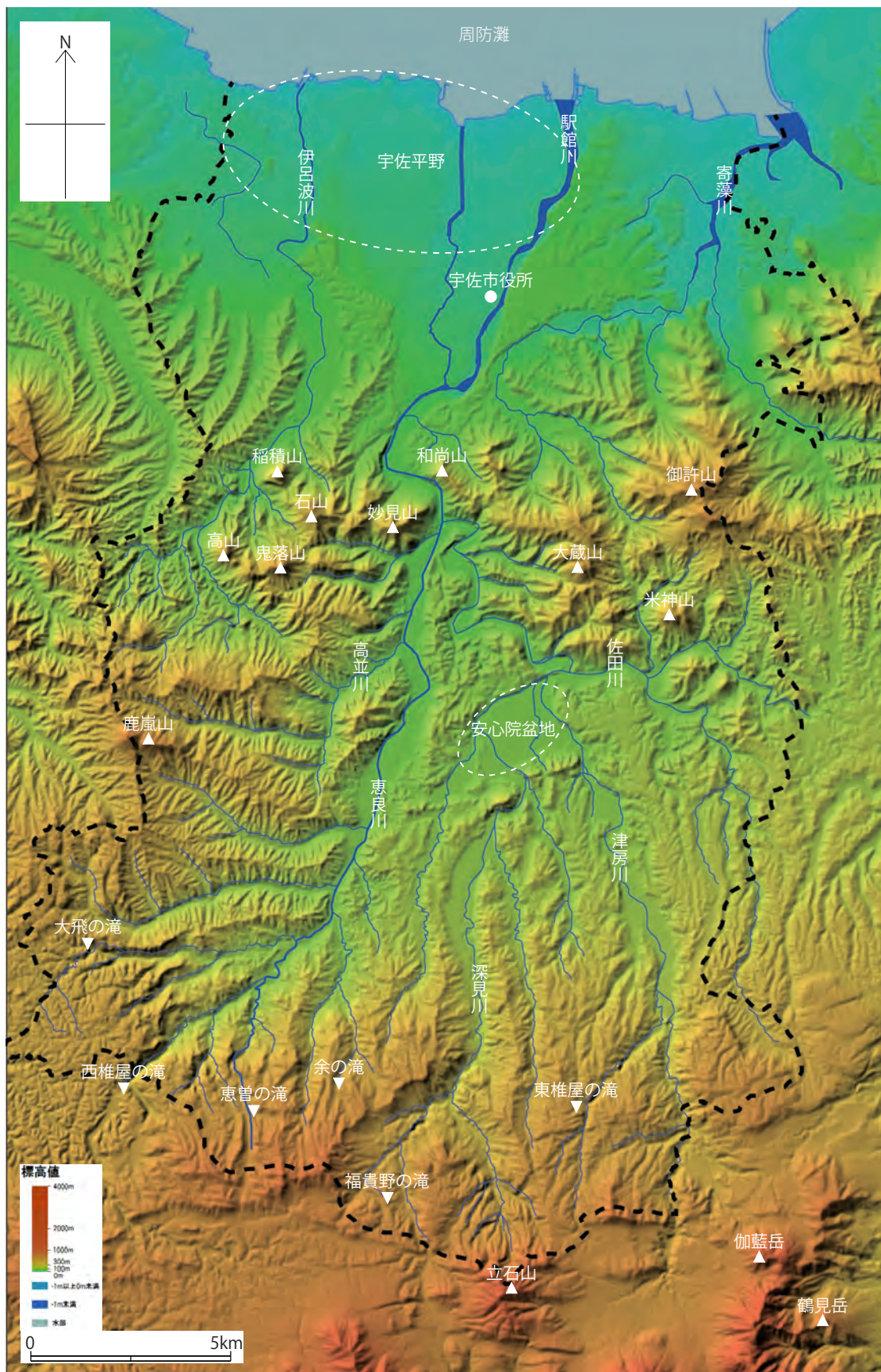
駅館川や伊呂波川の中流域では、河床の岩盤を渦流が削ってきた鰐穴等もあり、河川の歴史を感じられる。



名勝耶馬溪 龍泉寺の滝の景
(別名：福貴野の滝)



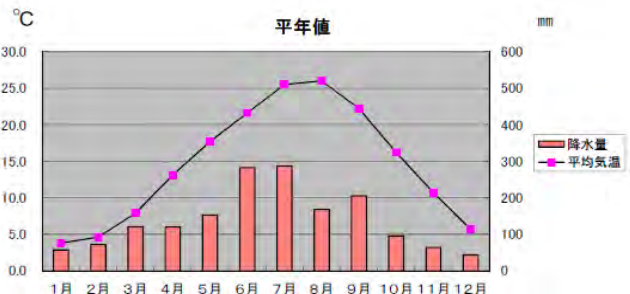
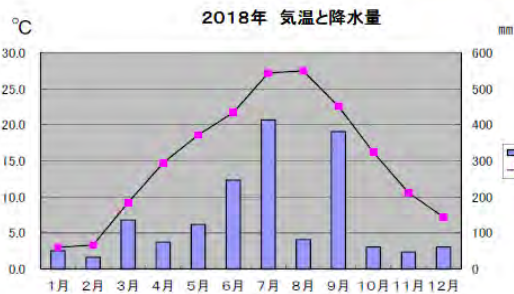
名勝耶馬溪 仙岩山の景



宇佐市の地形
(S=1/150,000、国土地理院色別標高図の一部を加工、海域部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成)

(4) 気候

市の北部は瀬戸内気候区に属し、比較的温暖で降水量が少ない。一方、南部は山地型気候区に属し、気温が低く降霜・降雪が比較的多い。年平均気温は 15℃前後、年間降水量は 1,700 mm前後である。



気象概況

2018年気温と降水量

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
平均気温	3.0	3.3	9.2	14.7	18.6	21.7	27.2	27.5	22.6	16.2	10.6	7.2	15.2
降水量	50.5	32.0	136.0	74.5	123.5	246.5	414.0	81.5	381.0	60.5	47.0	60.5	1,707.5

平年値(1981~2010年)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
平均気温	3.8	4.6	7.9	13.1	17.7	21.6	25.5	26.0	22.2	16.2	10.7	5.7	14.6
降水量	57.0	71.7	120.3	119.8	152.7	282.2	287.1	168.0	205.2	95.3	63.9	43.4	1,666.8

宇佐市の気温と降水量(第二次宇佐市総合計画より)

(5) 動植物

駅館川最上流の一つである岡川(恵良川水系)周辺では、生きた化石といわれるオオサンショウウオが生息している。正確な数は不明だが、岡川では卵塊や幼生個体も含め、多数の個体が確認されており安定した生息状況と考えられている。なお、恵良川・駅館川では下流の汽水域を除くほぼ全域でオオサンショウウオの個体が確認されている。

人類による大規模な伐採が行われる以前に成立した植生(潜在植生)の多くは、弥生時代以降の水田開発や近世・近代以降の伐採・植林・造成等により姿を消した。その中で、御許山(大字正覚寺ほか)の山頂付近に広がるアカガシ林は宇佐神宮の神域として守られた結果、常緑広葉樹林が分布する上限付近にできる潜在植生を現在でも残している。また、宇佐神宮社叢はイチイガシやクスノキを優占種とする常緑広葉樹林で、森林の階層構造が高木層・亜高木層・低木層・草本層の4つに分化し、それぞれの階層に特有の植物が生育するイチイガシ群集の典型である。宇佐神宮の神域として開発を免れた結果、市街地に近いにも関わらず原生林に近い状態が保たれており貴重である。宇佐神宮社叢周辺には、ヒメハルゼミやトンボ類といった昆虫、オオイタサンショウウオ等も確認されており、生物多様性の一端も感じられる。このほかに、市の南部には畳石のオトメクジャクやエヒメアヤメといった希少植物が自生するほか、イチイガシ(安心院町山蔵、同東椎屋)やイチョウ(院内町西椎屋)、ムクノキ(安心院町寒水)等の巨木も散見される。



オオサンショウウオ



宇佐神宮社叢のイチイガシ群集



西椎屋の大イチョウ

(6) 災害

①地震

宇佐市周辺の活断層としては、南部では別府湾 - 日出生断層帯、大分平野 - 湯布院断層帯と野稲岳 - 万年山断層帯、北部では周防灘断層帯がそれぞれ確認されている。また、市の北側全域が豊前海に面している関係上、南海トラフや日向灘、安芸灘から豊後水道等を震源とする海溝型地震からの影響も想定されている。

近年発生した地震として、福岡県西方沖地震 (平成 17(2005) 年 3 月 20 日) や熊本地震本震 (平成 28(2016) 年 4 月 16 日)、日向灘地震 (令和 4 (2022) 年 1 月 22 日) があり、いずれも市内で震度 4 を記録した。

②豪雨災害・台風

近年市内に比較的大規模な被害をもたらした豪雨災害・台風は、平成 3 (1991) 年 9 月の台風第 19 号、平成 5 (1993) 年 9 月台風第 13 号、平成 16(2004) 年においては 5 月の豪雨に始まり台風 6 号、16 号、18 号、21 号、23 号と 6 回の豪雨、平成 24(2012) 年 7 月の九州北部豪雨等で浸水等の大きな被害があったが、ともに人的被害 (死者) はなかった。平成 9(1997) 年 9 月に発生した洪水では、市内だけで 65ha を超える範囲で浸水被害が発生した。

既往の風水害と同程度の災害に加え、近年では大分県域においても線状降水帯による局地的集中豪雨による洪水、土砂崩れ等の被害が発生しており、本市においても警戒が必要である。

河川の氾濫や急傾斜地や溜池周辺の土砂災害への警戒が必要な区域を示すハザードマップが作成されており、インターネット上でも見ることが可能となっている。

③高潮・津波

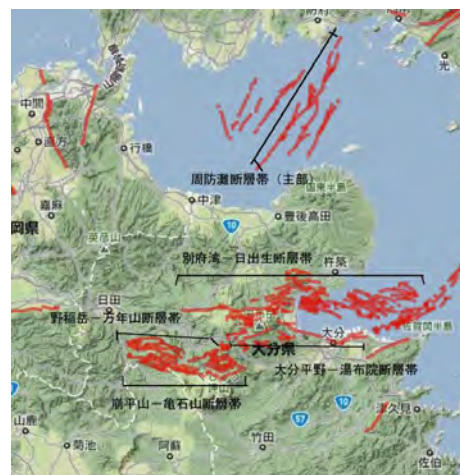
市域の北側全体が豊前海に面しているが、大部分は近世以降の新田開発で埋め立てられた場所で、海拔 1 m 以下の箇所も多い。

『大分県津波浸水予測調査』によれば、宇佐市内では最大波高 2.2 m ～ 2.8 程度の津波が想定されており、海浜部については警戒が必要である。上述のハザードマップは津波・高潮についても作成された。

④その他

【火山】

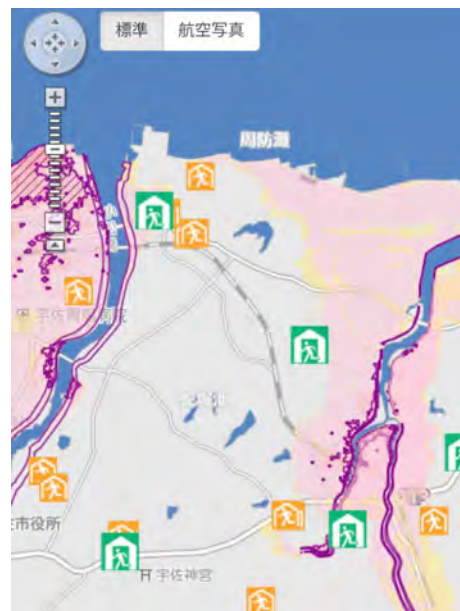
宇佐市内には火山はないが、南側に隣接する別府市と由布市には鶴見岳・伽藍岳という活火山がある。令和 4 (2022) 年 7 月には伽藍岳の活動が活発化し、一時噴火警戒レベルが 2 に引き上げられたが、現在は沈静化している。上記の火山が噴火した場合は、



宇佐市周辺の活断層
(産業技術総合研究所断層 DB 図を引用編集)



平成 5 年の豪雨時 荒瀬橋付近



宇佐市 WEB 版ハザードマップ



安心院地域からみた由布岳

安心院地域等で降灰の可能性があるので、警戒が必要である。

【雪害】

山間部にある安心院・院内地域等では厳冬期の降雪により、農作物や耕地等に被害が生じる場合もある。文化財への被害は現状では発生していない。

【日照り、干ばつ】

江戸時代に記された『豊前国宇佐郡四日市村年代記』（市指定有形文化財）には、災害についても記されている。その中で、多くみられるのが日照りや干ばつについての記載である。近現代に至っても昭和 40(1965) 年代に実施された駅館川総合開発整備事業以前は水不足でポンプによるくみ上げが必要となる事態も稀に発生していた。

【危険物災害】

第二次世界大戦中に、宇佐海軍航空隊の飛行場があった宇佐では米軍機による度重なる空襲が行われたため、飛行場やその関連施設があった場所では不発弾が発見されることがある。

直近では、平成 31(2019) 年、令和 4 (2022) 年に柳ヶ浦^{やなぎがうら}小学校校区で不発弾が発見された。発見された爆弾はいずれも自衛隊が出動して撤去した。

【獣害】

山間部を中心に、シカ・イノシシ等による樹木や農作物への被害が生じており、鉄線柵や電柵等の設置が行われている。また、アライグマ等の特定外来生物も山間部では確認されている。



雪の積もった鳥居橋



干ばつ時の揚水（『幾年の悲願』より）

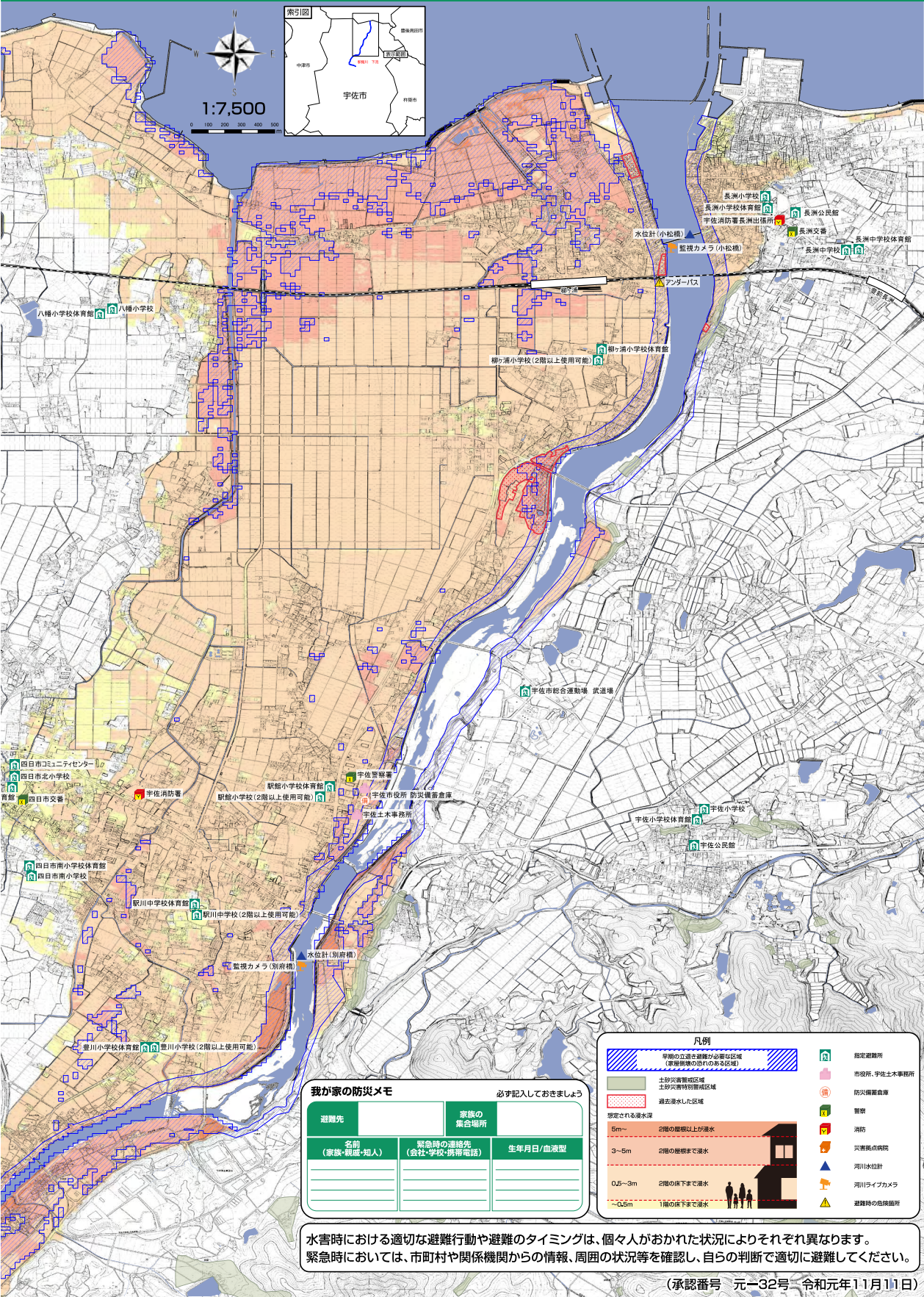


柳ヶ浦地区で発見された 250kg爆弾

宇佐市洪水ハザードマップ③

＜駅館川 下流＞
696mm/12時間

想定される最大規模の降雨により 駅館川が氾濫した場合 に想定される浸水の深さを示しています



宇佐市洪水ハザードマップの一例（駅館川下流）

第2節 社会的状況

(1) 人口・世帯数

昭和 20(1945) 年に約 10 万人のピークに達した後、高度経済成長期には、大都市圏への労働力流出によって減少した。昭和 50(1975) 年からは、一旦減少が緩やかになるものの、平成 2(1990) 年からは、減少のスピードが加速しはじめ、令和 4(2022) 年 10 月 1 日時点で 51,228 人(令和 2(2020) 年実施国勢調査に基づく推計値)である。一方で、核家族化や単身世帯の増加により、世帯数は増加し、令和 4(2022) 年 10 月 1 日で 21,975 世帯(同上)である。

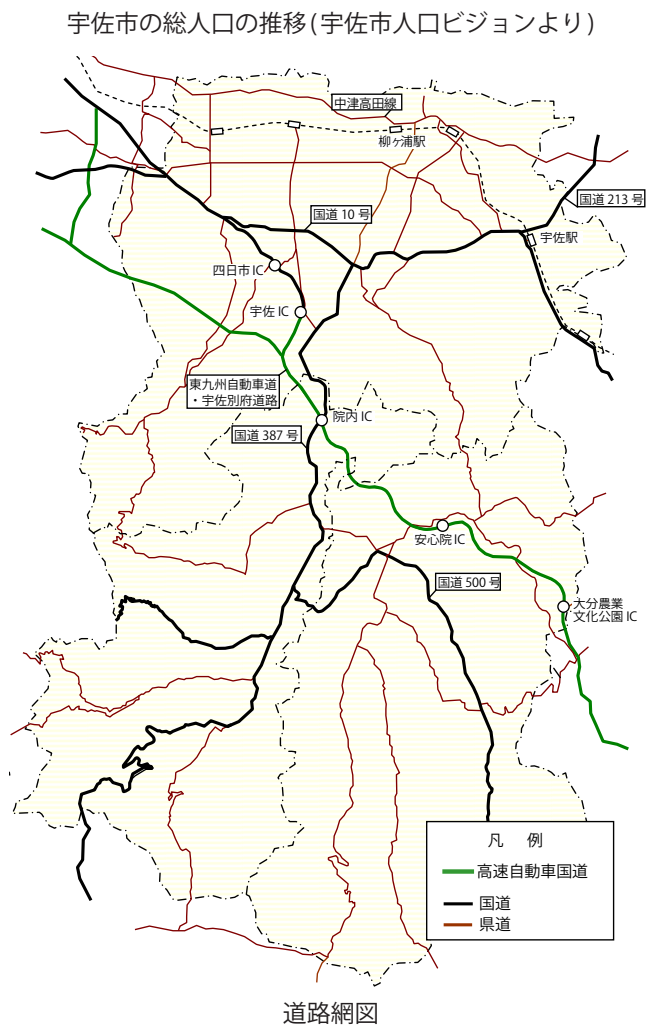
『宇佐市人口ビジョン(改訂版)』策定時(令和 2(2020) 年)の国立社会保障・人口問題研究所が公表している人口シュミレーションでは、2040 年に 40,635 人、2065 年には 27,403 人まで人口が減少する見込みである。

(2) 交通条件

道路体系は、東九州自動車道(宇佐別府道路)・国道 10 号線・国道 213 号線・県道中津高田線により東西方向の骨格が形成され、国道 387 号線により南北方向の骨格が形成されている。安心院地域・院内地域では国道 500 号線・国道 387 号線・県道・両院広域農道が骨格となっている。

J R 日豊本線の天津駅・豊前善光寺駅・柳ヶ浦駅・豊前長洲駅・宇佐駅・西屋敷駅の 6 駅があり、柳ヶ浦駅と宇佐駅は特急の停車駅として多数の人々に利用される。

公共交通として、民間企業による路線バスが上記の駅や主要幹線に沿って運行される他、宇佐市が運営するコミュニティバスの路線が市内一円に整備されている。



(3) 生業・産業・観光

① 生業・産業

令和2(2020)年の国勢調査に基づく就業者の割合をみると、第1次産業が約9%・第2次産業が約31%・第3次産業が約59%・分類不能が1%未満である。産業別でみると、第1次産業就業者の約95%は農業、第2次産業の約76%は製造業、第3次産業の約28%が医療・福祉、約20%が卸売・小売業となる。

市の北側全域が豊前海に面しており、近代以前は塩田があり、製塩業も行われていた。また、漁業も盛んで現在は長洲^{ながす}小学校区を中心として行われている。豊前海の遠浅な地形に石積み等で囲いを造り、潮の満ち引きで魚介類を捕まえる伝統的な漁法である石ひびは昭和30年代まで行われており、石積の基底部等が海岸から数百mの位置に残る。遠浅な地形を利用して、現在はヒジキの養殖等が行われる。

平野部の広大な農地では麦と米の二毛作が行われ、麦を原料とした焼酎の醸造といった地産地消の取り組みも民間事業者が主体となって行われている。令和2(2020)年の農林業センサスによれば、宇佐市の耕地面積(7,890ha)の内6,810haが田耕地であり、大分県最大の穀倉地帯として機能している。水田の大部分を占める駅館川下流域の平野部や安心院地域の盆地部を中心として、稲作と麦作の二毛作が広く行われている。栽培された米と麦は、日本酒や麦焼酎の原料としても使用される。

安心院地域や院内地域では、急峻な地形に築かれた棚田等が近代には桑畑として利用され、養蚕が盛んに行われた。戦後は、斜面の多くは樹園地として造成され、現在ではブドウやユズといった果樹の栽培に利用されている。

市では第1次産業・第2次産業・第3次産業を結び付け農山漁村の総合産業化を図る目的で、6次産業も推進し、優良な6次産品をブランド認証する取り組みも実施している。

② 観光

宇佐神宮、院内地域の石橋群、安心院地域の^{こてえ}鍔絵の残る町並み、昭和の大横綱「^{ふたばやま}双葉山」関連資料といった豊富な文化財の見学や、宇佐からあげや安心院地域のブドウ・ワイン等の食文化、安心院地域で盛んにおこなわれるグリーンツーリズム(農村民泊)といった体験型観光等を主として、平成30(2018)年が約399万人、令和元(2019)年は約383万人の観光客があったが、長引くコロナ禍で、令和3(2021)年は約172万人まで減少した。

近年では、宇佐海軍航空隊跡を中心とした平和ツーリズムとグリーンツーリズム、ブルーツーリズム(漁村民泊)で連携した3WAYツーリズムの体制構築等を進めている。



稲穂の実る宇佐平野



長洲地区に残る石ひび



両合川橋と棚田



宇佐でつくられた日本酒と麦焼酎



グリーンツーリズム

(4) 地域間交流

①国内の交流

東大寺（奈良県）の大仏造立の際に八幡神が託宣して完成に至った経緯があり、大仏開眼供養から1,250年にあたる平成14(2002)年に宇佐八幡神輿フェスタを実施したことをきっかけに、奈良市（奈良県）との交流が続いている。平成30年には国民文化祭と合わせて宇佐神宮で東大寺サミットが開催され、東大寺にゆかりのある自治体が集まって意見交換等を行った。

奈良時代に起きた宇佐八幡宮神託事件（道鏡事件）で活躍した和気清麻呂の一族である和気氏の発祥地である和気町（岡山県）とは姉妹都市となっている。また、同事件の発端となった僧、道鏡の出生地である八尾市（大阪府）とも友好都市としてイベントへの相互参加といった交流を行っている。

宇佐市・加西市・姫路市（共に兵庫県）・鹿屋市（鹿児島県）・錦町（熊本県）はいずれも第二次世界対戦中に海軍航空隊に縁のある場所であり、戦争遺構が残る。この4市1町の行政と関係団体で「空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会」を設立し、それぞれの市の戦争遺構を紹介する映像や漫画本の作成、巡回パネル展といった取り組みを実施している。

②海外との交流

別府遺跡から出土した朝鮮式小銅鐸が入室里遺跡出土の小銅鐸と類似していること等を縁として慶州市（大韓民国）とは平成4(1992)年に友好親善都市を締結した。市民レベルでの文化交流として宇佐市・慶州市の民間の文化団体の交流美術展等も実施されており、令和4(2022)年には交流30周年を記念した行事も開催された。

アメリカ合衆国政府等が実施した「友好の木ハナミズキニシアチブ」に宇佐市も参加し、平成27(2015)年に30本のハナミズキの寄贈を受け、城井一号掩体壕で植樹式を実施したことをきっかけにホノルル市（ハワイ州）との交流が始まった。

真珠湾攻撃で第一弾を投下したとされる高橋赫一は宇佐海軍航空隊の初代飛行隊長であったことも知られており、ホノルル市にはこの時投下された爆弾の痕が今でも残る。宇佐市の中高生短期留学をホノルル市で実施する際に事前に宇佐海軍航空隊の歴史等について学習したうえで太平洋航空博物館（ホノルル市）等も見学し、日米双方で学ぶといった取り組みも行われ、令和元(2019)年にフレンドシップシティ協定を締結した。令和4(2022)年時点ではコロナ禍で直接訪問することはできていないものの、オンラインで中学生が交流するといった事業は継続している。



東大寺で行われた宇佐八幡神輿フェスタ



空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会



慶州市との交流30周年記念事業



日米友好の木ハナミズキの植樹式

(5) 芸術・文化振興・スポーツ・食文化

①芸術・文化振興

市内には宇佐文化会館・安心院文化会館・院内文化交流ホールという3か所の文化ホールがあり、それぞれの館を利用して宇佐市文化協会所属団体による美術展や公演、指定管理者による文化イベントの開催等に利用されている。

平成30(2018)年に大分県で行われた国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭では、宇佐神宮での光のアート、祈りのおとコンサート、大正琴の祭典といった様々な文化イベントが催された。

県営施設として大分県立歴史博物館と宇佐風土記の丘があり、宇佐・国東^{くにさき}地域をはじめとする大分県内の各種文化財が展示されている。博物館では企画展や特別展の他にも、年間を通じた歴史講座、体験型のワークショップ等が開催されている。

宇佐市の歴史・文化・芸術に関する資料の収集や作成への寄与を目的として、市内の企業である三和酒類株式会社から宇佐市へ、昭和60(1985)年から毎年寄付を受けている。三和文庫基金として運用しており、郷土史に関する資料の購入や書籍の刊行等に充てられている。

②スポーツ

昭和の大横綱双葉山の生誕地である宇佐は、相撲が非常に盛んである。高校・大学の全国選抜相撲の大会がそれぞれ毎年開催されるだけでなく、校庭に土俵が常設されている小中学校もある等、非常に身近なスポーツとなっている。選抜相撲大会の会場である宇佐市総合運動場は、市内外の各種スポーツ団体による競技会、市民による大型遊具やランニングコースの利用等で多くの人が訪れる。敷地内には、弥生時代から古墳時代の複合遺跡である川部遺跡があり、方形周溝墓等の復元整備等も行われている。

また、高低差があり地形の変化に富む山間部では、安心院地域では高等学校の駅伝大会、院内地域では「いんない石橋マラソン」が毎年開催されている。



国民文化祭 光のまつり (H30 年)



大分県立歴史博物館



全国選抜高校相撲大会



総合運動場古代ふれあい広場で遊ぶ子供



いんない石橋マラソン

③食文化

鎌倉時代末の1313年に編纂された『八幡宇佐宮御託宣集』で宇佐八箇社の一つである乙咩神社に関する部分に、「御行幸会の時、^{おとめ}御尊^{ごたぐせん}を奉る」という記載がある。また、江戸時代の行幸会の記録には「ほうてうとて^{ぎようこうえ}鰻^{うどん}の如きもの」といった記載があり、古くから食されていたことがうかがえる。

『蓑虫山人絵日記』には、宇佐飴という菓子が描かれている。宇佐飴は麦芽から作る飴であり現在でも宇佐神宮周辺の仲見世通り等で土産物として販売されている。

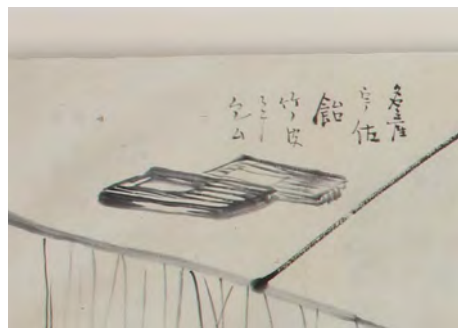
駅館川で採れるツガニを生きたまま殻ごとつぶして作るがん汁も郷土料理として残る。

大正14(1925)年に、安心院町出身の政治家木下謙次郎が記した『美味求真』には、安心院のスッポンが紹介されている。現在でもスッポンの養殖がおこなわれており、鍋として食べるだけでなく、ドリンクやジュレといった加工品も販売されている。

戦後、宇佐の代表的な食文化として根付いたものの一つがからあげである。高度経済成長期にブロイラーを主とした養鶏業が普及していく中で、からあげ専門店というテイクアウトを主体とした店舗が展開されていき、市内のいたる所で食べることが出来る。

その他に広大な平野で採れる米を利用した酒造業も盛んで、市内には現在酒造業者が7社ある。一村一品運動が展開されていく中で醸造が開始された麦焼酎のほか、安心院産のブドウから醸造した安心院ワイン等も注目されている。なお、令和2年に宇佐市全域が清酒特区となっており、日本酒の醸造体験施設等も建設された。

近年では、宇佐で採れた農作物や魚介類を、宇佐で加工し、宇佐で販売するという6次産業も推進している。6次産品の中でも優れたものについては宇佐市認証ブランドとして売り出す取り組みも進めている。



『蓑虫山人絵日記』に描かれた宇佐飴



現代の宇佐飴



宇佐からあげ



安心院ワイン

(6) 教育・人材育成・まちづくり

①教育

市内には、小学校 24 校、中学校 7 校、高等学校 4 校があり、総合的な学習の時間等を利用して、それぞれの学校で独自の取り組みも実施されている。昭和 50(1975) 年代に大分県内では全県的に文化財愛護少年団が設立された。市内では創設当初は 6 団体が活動していたが、現在では宇佐文化財愛護少年団と和間文化財愛護少年団の 2 団体のみである。これらの団体では、宇佐神宮の御神幸祭(夏越祭)や仲秋祭(放生会)の際に児童らが参列し、文化の継承に努めている。

宇佐市内の小中学校では学校ごとに特色のある地域学習等も行われる。校区内が空襲された日に合わせた平和学習の開催(駅館小、柳ヶ浦小)や、自転車で市内の戦争遺構をめぐる親子サイクリング(駅館小、長洲小、ほか)等、市内に残る戦争遺構を活用した平和学習の取り組みは非常に盛んである。

安心院・院内地区では、小学校 7 校・中学校 2 校・高校 1 校の小中高で一貫して地域の課題について調べ、発表等を行う地球未来科というカリキュラムが採用されている。オオサンショウウオについて調べた成果を劇にして発表するといった斬新な取り組みが行われたこともあり、今後も注目される。

宇佐産業科学高校では 3D プリンターを利用した実習等も行っており、オオサンショウウオの死亡個体を CT スキャナで計測した 3 次元データを利用した模型の制作を市が委託し、電子機械科の生徒が制作した原型に美術部員が塗装する等、官学連携の取り組みを実施している。

②人材育成

昭和 46(1971) 年に設立された「宇佐の文化財を守る会」は、京徳遺跡や光岡城跡の保存に向けた取り組み等、宇佐市教育委員会と連携して様々な文化財保護に関する運動を展開している。現在でも、市内各所での文化財見学会、会報誌『宇佐の文化』年 3 回の刊行、文化財標柱の設置等、積極的に活動しており、文化財保護の普及・啓発に大きな役割を果たしている。

一村一品運動の一環として行われた、人材育成事業「豊の国づくり塾」に端を発する町おこし団体が、豊の国宇佐市塾である。南一郎平や双葉山といった郷土の偉人の調査や顕彰、宇佐海軍航空隊に関する証言・資料の収集等、地域の埋もれた歴史を掘り起こして『宇佐細見読本』として書籍化している。この他にも、毎年 5 月に開催する宇佐航空隊平和ウォークでは、戦争遺構が校区内に残る 4 つの小学校(柳ヶ浦、八幡、駅館、四日市北)の児童による子どもガイドの解説等も行われている。



院内北部小学校の地球未来科での発表



和間文化財愛護少年団の道行囃



高校生による模型の制作風景



宇佐の文化財を守る会が設置した標柱



宇佐航空隊平和ウォークの子どもガイド

安心院地域の住民を中心として平成元(1989)年に設立された安心院縄文会も地域の文化財のパトロールや説明板の設置、年間数回の講座、会報誌『安心院縄文』の発行といった取り組みを継続的に実施している。

宇佐神宮をはじめとする観光地を知ってもらうために、有志で結成されたのが宇佐観光ガイドの会である。ガイドの知識や技量の向上を目的として毎月2回程度の研修会を自発的に開催し、宇佐神宮や戦争遺構の見学に訪れた団体客への解説に活かしている。

大分県建築士会宇佐支部では、大分県が実施したヘリテージマネージャーの資格を有する建築士等を中心に、宇佐まちなみ修景隊として活動をしている。文化財建造物の防災マップ作成、宇佐海軍航空隊敷地跡の復元模型作成等幅広く取り組んでいる。

③まちづくり

昭和50年代から大分県で推進された地域振興施策として、一村一品運動がある。

農作物や魚介類のブランド化だけでなく、それぞれの地域ごとに特徴的な歴史や文化に関する資源の掘り起こし(一村一文化)、地域のリーダーとなりうる人材の育成(豊の国づくり塾)といった施策がすすめられた。その中で、旧宇佐市では八幡文化[※]、旧安心院町では鰻絵、旧院内町では石橋といった、地域に残る文化財を活用した取り組みが多数行われ、一部の活動は現在でも継続している。

一方、少子高齢化や過疎化等は周辺部でより深刻な問題となっており、従来は自治会等の比較的小規模な範囲で行えていた地域の運営やまちづくり等が困難な状況になりつつある。地域の抱える課題を協働で解決するために、現在、宇佐市では小学校単位を基本とした地域コミュニティ組織(まちづくり協議会)の活動を推進している。令和5(2023)年4月時点で、19地区で協議会が組織されており、それぞれの地区で歴史・文化的な資源の掘り起こし、文化財等を含めた清掃活動、ガイドマップ作成や説明版設置、地域の文化財や名所を巡るコースの整備やウォーキング大会の開催といった様々な取り組みが地域住民の手によって企画され、進められている。

※八幡文化：宇佐神宮や弥勒寺の仏教徒が国東半島六郷満山等へ進出する過程で生み出された神仏習合関連の文化財群の総称。宇佐八幡文化ともいう。



観光ガイドによる宇佐神宮の解説



大分県建築士会による調査



まちづくり協議会が作成した書籍等



児童が制作した文化財の紹介サイン



まちづくり協議会による環境整備

第3節 歴史的特徴

(1) 先史時代 (旧石器・縄文時代)

旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和	現代
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----

①旧石器時代

宇佐市域に人類が登場したのは、後期旧石器時代 (約 3 万 ～ 1 万 5 千年前) にさかのぼる。豊川地区から四日市地区の丘陵部や駅館川右岸台地等から後期旧石器時代の石器が出土している。



豊川地区出土の打製石器

②縄文時代

石器に加え、土器を人々が使用するようになった縄文時代は、市内で最古となる縄文時代草創期～早期 (約 1 万 3 千年～約 1 万年前) の押型文土器が出土した^{なかはる}中原遺跡 (大字 中原) や、早期の集石遺構等が見つかった^{はんだにたんだ}飯田二反田遺跡 (安心院町飯田) 等から読み取れる。

縄文時代の後期 (約 3000 年前) になると、石原貝塚 (大字 青森) や西和田貝塚 (大字 中敷田) 等、市内各所の丘陵部に貝塚が形成される。^{おぼた}尾畑遺跡 (大字 山下) や石原貝塚では、縄文土器とともに土偶も出土した。前述した飯田二反田遺跡では後期の竪穴建物も発見されており、当時の人々の生活に迫る重要な遺跡といえる。



中原遺跡出土 市内最古 (縄文時代早期) の土器



石原貝塚出土 土偶
(写真提供 : 大分県立埋蔵文化財センター)



飯田二反田遺跡
(写真提供 : 大分県立埋蔵文化財センター)

(2) 原始時代 (弥生・古墳時代)

旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和	現代
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----

①弥生時代

弥生時代前期 (紀元前 6 世紀～紀元前 3 世紀) に東上田遺跡 (大字上田) や台ノ原遺跡 (大字四日市)、宮ノ原遺跡 (安心院町下毛) といった台地上に環濠集落が形成された。前期に成立した環濠集落は、弥生時代中期 (紀元前 2 世紀～1 世紀前半) まで継続的に営まれた。集落に伴う墓域として、野口遺跡や樋尻道遺跡 (大字上田)、御幡遺跡 (大字北宇佐) 等がある。

弥生時代後期 (1 世紀後半～2 世紀前半) には別府遺跡の朝鮮式小銅鐸、下原遺跡 (大字法鏡寺) や谷迫遺跡 (安心院町上ノ原台地) 等で出土した銅矛といった、青銅器を使用した祭祀が行われた。

伊呂波川流域の遺跡では青銅器の出土が確認されず、駅館川流域と寄藻川流域に集中する。同様の状況は墓域にも表れており、伊呂波川流域にある後期の集団墓である京徳遺跡 (大字下敷田) では副葬品が出土していないが、駅館川右岸の本丸遺跡 (大字高森) の集団墓では副葬品の有無で明確な差異が生じており、有力者集団と一般集団で墓域を分けて築くといった階層分化が宇佐でも始まったことが分かる。



東上田遺跡で発見された環濠



別府遺跡出土朝鮮式小銅鐸

②古墳時代

古墳時代初頭 (2 世紀後半～3 世紀) に築かれた川部遺跡南西地区墳墓群 (大字川部) では、方形の溝の内外に墓があるが、舶載銅鏡等の豊富な副葬品をもつ墓とそうでない墓の差が明瞭で、階層分化がさらに進んだことが伺える。

古墳時代前期 (3 世紀末～4 世紀前半) に、小部遺跡 (大字荒木) に突出部を持つ環濠の内側に方形区画をもつ居館が形成されるのと同時期に、駅館川右岸の台地上 (大字川部、大字高森) に宇佐市で最初的前方後円墳である赤塚古墳が築かれ、続く時期には免ヶ平古墳や福勝寺古墳といった前方後円墳が連続的に築かれた。小部遺跡から出土した吉備系土器や赤塚古墳の三角縁神獣鏡等は、瀬戸内海を介して畿内等と交流があったことを示している。

中期 (4 世紀後半～5 世紀) には平野部に大型円墳の葛原古墳 (大字葛原) が築かれる。一方で、伊呂波川沿いの糸口丘陵上に築かれた糸口遺跡 (大字糸口) では方形周溝墓に剣



小部遺跡 (国史跡)



葛原古墳 (国史跡)

や鍬、刀子といった鉄器を副葬する等、前期とは状況が変化した。宗禅寺1号墳(安心院町新原)からは、市内で唯一の韓式系軟質土器も出土しており、朝鮮半島との関係も想定される

後期(6世紀～7世紀前半)の鶴見古墳築造を最後に宇佐では前方後円墳が築かれなくなり、糸口丘陵上の久々姥古墳(大字猿渡)、凶首塚古墳(大字南宇佐)、や直径20m程度の小規模な円墳が多く造られる。また、四日市地区や横山地区周辺の丘陵部では、四日市横穴墓(大字四日市)や貴船平・下裏山横穴墓(大字山下)、今成横穴墓群(大字今成)、水雲横穴古墳(院内町副)の様に、崖面を掘りくぼめて数十基あるいは百基を超えるような横穴墓群が多く築かれた。



鶴見古墳(国史跡 川部・高森古墳群)



四日市横穴墓(国史跡)



赤塚古墳と方形周溝墓(国史跡 川部・高森古墳群)

(3) 古代 (飛鳥・奈良・平安時代)

旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和	現代
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----

①飛鳥・奈良時代

8世紀には、虚空蔵寺(大字山本)や法鏡寺廃寺(大字法鏡寺)、小倉池廃寺(大字四日市)といった寺院が多数築かれた。この頃、駅館川に井堰が造られ、宇佐地区条里の原型を築かれたとされる。天福寺奥ノ院(大字黒)に残されていた塑像三尊仏残欠は、8世紀後半の仏像として貴重である。

8世紀に起こった「隼人の乱」の鎮圧や、聖武天皇による東大寺の大仏建立といった国家的な出来事に尽力した時期に国家鎮護の神として八幡信仰が広がり始め、小椋山に八幡宇佐宮(現、宇佐神宮)、境内地西側の寄藻川付近に弥勒寺が建立された。

弥勒寺は神社境内に建てられた神宮寺として最古級の事例と言われており、神仏習合の象徴的な存在でもあった。弥勒寺の初代別当として活躍した僧、法蓮等が中心となってはじめられた放生会は宇佐神宮の重要な祭典の一つであり、現在でも受け継がれている。

7世紀末から8世紀の初頭にかけて、律令制が整備されていく中で、国郡里制も導入される。豊前国宇佐郡として規定された範囲は、現在の宇佐市域とほぼ一致する。

②平安時代

律令制が広がる中で、九州には西海道等の街道も整備された。『延喜式』に古代の宇佐郡には宇佐駅、安覆駅があったと記されており、それぞれ駅館地区、安心院地区が比定される。別府遺跡で8世紀後半から9世紀ごろの郡衙の可能性のある大型建物が発見され、また、瓦塚遺跡(大字石田)や三口田遺跡(安心院町下毛)では当時の役人が身分を表示するために身に着けた帯飾り(跨帯金具、石帯)が出土している。

平安時代(8世紀末～12世紀末)に入ると天台宗の山岳仏教や末法思想が広がるのに伴って、経塚の埋納も始まる。12世紀前半に造営された妙楽寺経塚(大字木内)からは、「嚴」という墨書のある四耳壺が発見された。宇佐郡辛島郷に生まれ、求菩提山中興の祖ともいわれる僧、「頼嚴」との関連が想定される。龍岩寺奥院礼堂(院内町大門)に残る薬師如来・阿弥陀如来・不動明王の三尊像は寄木造りの一木彫だが、石造物を思わせるような造詣が特徴的である。



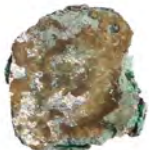
虚空蔵寺塔跡(県史跡)



天福寺奥の院 塑像残欠(重文)



宇佐神宮



三口田遺跡(上)、瓦塚遺跡(下)出土帯飾り

奈良時代以降、数々の託宣により国家鎮護の神として崇敬を集めた宇佐宮と弥勒寺は、平安時代には九州一円に莊園を所有する等、大きな影響力を発揮した。平家の庇護を受けた宇佐宮の大宮司、宇佐公通^{きんみち}が平田井路を築き、宇佐平野の大部分を水田として利用することを可能とした。この頃、宇佐宮と中央権力の結びつきを背景に当時では最先端の中央文化の流入があり、宇佐宮領田染莊（豊後高田市）に花開いた富貴寺大堂や真木大堂等の仏教文化にみることが出来る。

一方で、平安時代末には緒方惟栄等によって宇佐宮と弥勒寺が破却されるといった出来事も起きた。



龍岩寺奥院礼堂に残る三尊仏（重文）



安楽院 宇佐公通の墓



宇佐神宮境内と御許山（国史跡）

(4) 中世 (鎌倉・室町・戦国時代)

旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和	現代
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----

① 鎌倉時代

緒方惟栄らによって破却された宇佐宮の社殿や弥勒寺堂宇は鎌倉幕府等からの支援で再建された。建物の再建を目的に描かれた宇佐宮上宮仮殿地判指図や、再建後の弥勒寺に奉納された石清水八幡宮 (京都府) の別当である田中祐清を示す銘文がある孔雀文磬は鎌倉時代初期の宇佐宮に関する貴重な資料である。

武士の世の中を迎えた鎌倉時代 (12 世紀末～ 14 世紀前半) 以降、荘園の減少等により宇佐宮と弥勒寺の影響力も低下する。鎌倉時代から近代に至るまで、宇佐神宮の祭礼用に貢納された素焼きの土器が^{たかむらやき}高村焼 (大字下高) であり、その動向が高牟禮文書等に記されている。

一方で、禅宗寺院や浄土教寺院をはじめ、新仏教各派の寺院が建ち、円通寺 (大字南宇佐) や善光寺 (大字下時枝) 等を中心に信仰が広まった。南光寺 (安心院町松本) の金剛力士立像はこの時期の勇壮な仏像として知られている。

^{きつきゆう}吉久遺跡 (大字下敷田) では一辺が 50 m 近い方形の堀に囲まれた武士の館跡も発見された。堀の内外に井戸や鍛冶小屋、墓地等があり、当時の人々の暮らしが伺える。

② 室町時代 (南北朝時代を含む)

南北朝時代から室町時代 (14 世紀～ 15 世紀末) には、豊前国守護職となった大内氏の下で宇佐郡代を代々任じられた佐田氏の拠点である佐田城跡 (または青山城、安心院町佐田) には大規模な土塁や横壕等が良く残る。

大内氏は宇佐宮の社殿や弥勒寺の堂宇といった建物や仏像、^{ほうじょうえ}放生会や^{ぎょうこうえ}行幸会といった祭典の再興等に注力した。宇佐神宮の所蔵する古図の中でも特に古い絵図である応永年間の指図 (宇佐神宮造営図) や絵図 (豊前国宇佐宮絵図) はこの時期に描かれたもので、往時の宇佐神宮の姿を彷彿とさせる。弥勒寺にあった仏像の多くは、現在でも宇佐神宮周辺の寺院に安置されている。

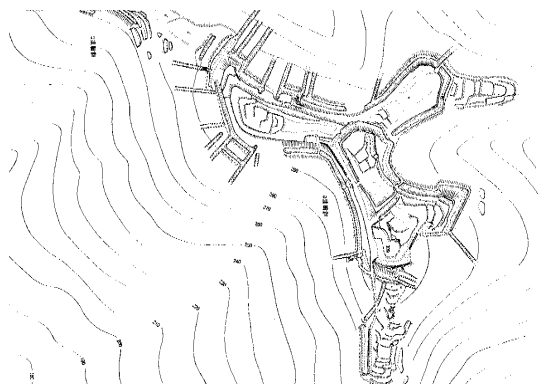
この頃、安心院地域では^{しもいち}下市磨崖仏や^{ならもと}檜本磨崖仏等の磨崖仏が造られ、山岳仏教も盛んに行われた。



孔雀文磬 (国宝)



善光寺本堂 (国重文)



佐田城跡 (市史跡) 縄張図
(『大分の中世城館 総括編』 より)



大内氏が寄進した宇佐神宮の神輿 (県有形)

③戦国時代

京都で起こった応仁の乱をきっかけに全国的に動乱期を迎える室町時代後半には、豊後国一帯を治めた大友氏と豊前国守護となった大内氏の争いが激化した。宇佐郡三十六人衆とも呼ばれる在地領主たちは、大友・大内双方に分かれ、土塁や濠で囲まれた屋敷や山城を多数築いた。

15世紀末から16世紀初頭にかけて^{みょうけんだけじょう}妙見岳城(院内町香下)で大友・大内両氏の攻防が何度も行われたことが佐田文書等に記録されている。^{りゅうおうじょう}龍王城(または^{かぐらだけ}神楽岳城、安心院町龍王)は難攻不落の山城で、大友軍や在地領主の安心院氏らの拠点として利用された。赤尾氏の詰城とされる光岡城(大字赤尾)からは、平野部に造られた時枝城跡(大字糸口)や高家城跡(大字東高家)だけでなく、晴天時には周防灘の奥に山口県域まで望むことが可能である。

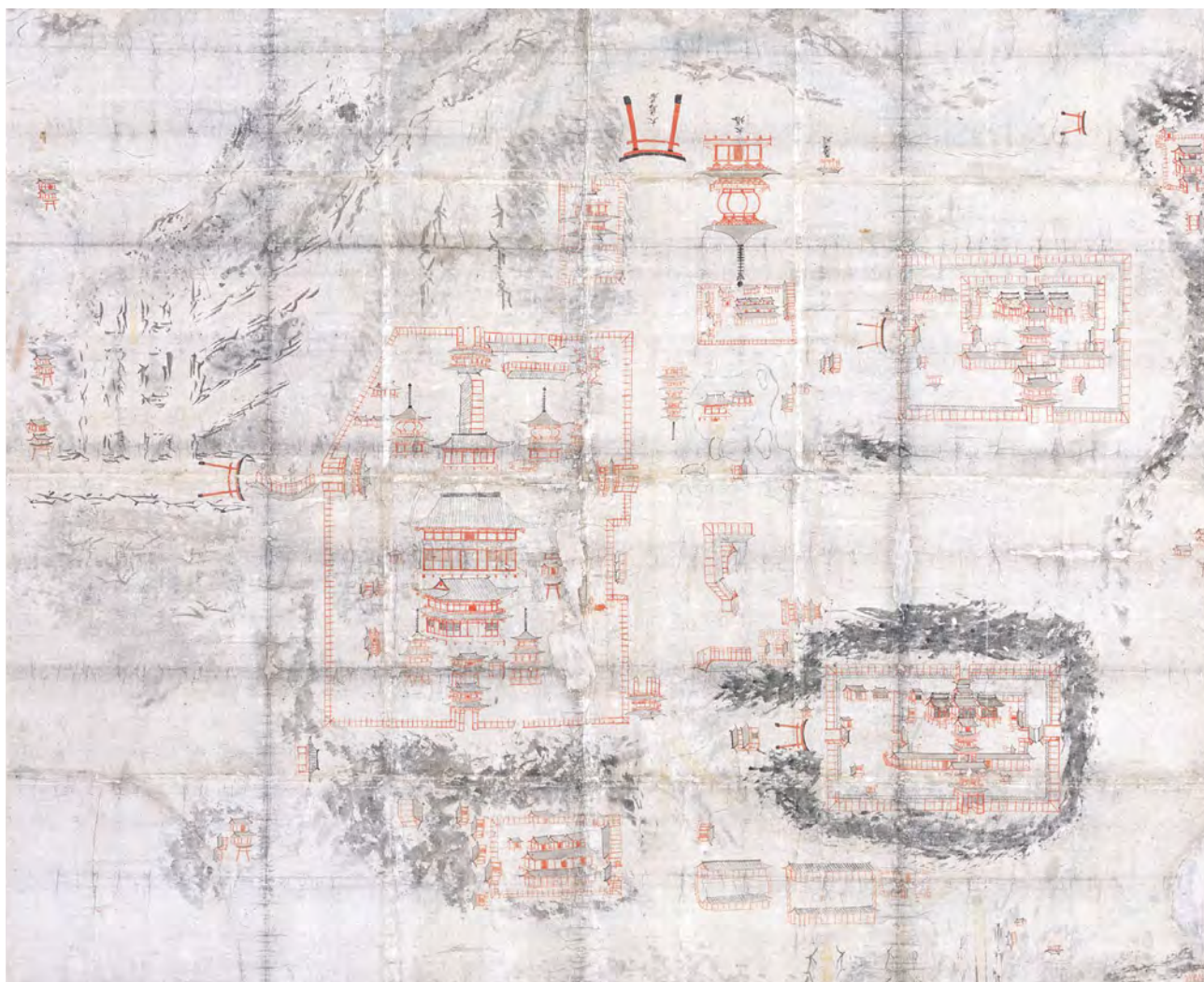
上記以外にも、戦国時代を通して山城や平地の館等中世城館が100か所以上造られた。この数は大分県内でも最大級であり、豊前国と豊後国の境界に位置した宇佐郡が戦略上も重要な場所だったことが伺える。



光岡城跡(県史跡)



龍王城跡付近から見た安心院盆地



豊前国宇佐宮絵図(国重文)

(5) 近世 (安土桃山・江戸時代)

旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和	現代
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----

①安土桃山時代

豊臣秀吉配下の黒田孝高が豊前六郡を下賜された後に行われた検地について、中島文書や元重文書に記録が残る。検地等へ反発して、在地の武士たちによる豊前国一揆も発生した。宇佐郡の勢力も二分され、黒田方と反黒田方に分かれて争った。高森城 (大字高森) は黒田利高の居城であり、中津城と同じ瓦を使用した建物が建てられていた。

②江戸時代

豊前国の領主が黒田氏から細川氏に変わった後、検地や小倉の池の造成、人畜改め等が行われた。前時代までの在地領主は、細川氏が領域支配のために村を集約した行政単位である手永における庄屋や大庄屋として組み込まれた。また、戦乱の世を経て荒廃していた宇佐宮に土地の寄進や社殿の再興、放生会・行幸会等の祭礼も復興した。

17 世紀中ごろから、宇佐郡は幕府領 (天領)、中津藩領、旗本時枝領、島原藩領、宇佐神宮領等に細かく分割統治され、いわゆる小藩分立の時代を迎えた。近世に分割された地域は近代以降も行政区として残り、現在の小学校区に対応する場所も多い。代官所の置かれた四日市には陣屋門が現在でも残る。

18 世紀を迎え、真勝寺の門徒が二分する真勝寺騒動が起こった結果、真勝寺は東本願寺の別院として九州一円の東本願寺派の寺院を統括した。その後、西本願寺の別院も建立された四日市は、東西別院が^{いらか}薨をならべる全国的にも珍しい町なみとなった。

同じころ桂掛井路や赤尾井路等の水路の掘削、小菊池やはなたて花立池等の溜池造成、岩保新田や^{いわほ}順風新田等の遠浅の豊前海沿岸を埋め立てた新田開発といった大規模な事業が盛んに行われ耕地面積は増大した。一方で、江戸時代の各時期に起きた飢饉や年貢の重税等が原因で、百姓の逃散や一揆が何度も発生した。文化 9 (1812) 年には、安心院や院内の百姓に加えて下赤尾村庄屋の赤尾丹治らも結託して大規模な一揆が発生した。



高森城跡



四日市陣屋跡 (市史跡)



真宗大谷派四日市別院本堂 (国登録)



浄土真宗本願寺派四日市別院本堂 (国登録)

(6) 近代 (幕末・明治・大正・昭和 20 年まで)

旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和	現代
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----

①幕末・明治時代

江戸時代末に日出藩からの要請を受けた賀来^{これたけ}惟熊を中心とする賀来一族による大砲の鋳造等の事業は、宇佐の近代化の幕開けの一つである。

一方、明治時代を迎える直前に起こった勤王の志士たちによる御許山騒動で四日市東別院や御許山の僧坊が焼かれる事件が起きた。さらには明治新政府が通達した神仏分離令に端を発する廃仏毀釈の流れは宇佐にも訪れ、弥勒寺や御許山で建物や仏像がいくつも打ち壊された。

行政面に目を向けると、廃藩置県により小倉県を経て明治 9 (1876) 年に大分県に編入された宇佐郡は、26 町村に分かれた。なお、この当時の町村の区分は現在の小学校区と概ね対応する。

江戸時代から何度も工事が行われた広瀬井路は、南一郎平らによる工事で明治 6 (1873) 年に完成し、^{やっかん}駅館川東側の台地が水田として利用できるようになった。

豊州本線 (現、^{につばう}日豊本線) が開通した明治 30 (1897) 年ごろには、安心院地域等で養蚕が盛んにおこなわれ、平野部では製糸工場ができる等、近代工業が広がり始めた。養蚕のために白壁造りの家を建てる時に、家内安全や商売繁盛といった祈りを込めて、多くの^{こてえ}鰻絵が作られた。

松田新之助を筆頭に、優秀な石工を輩出した院内地域では明治時代以降多数の石橋が架けられた。その中には、日出生台演習場への輸送路として利用されたものもあった。

明治時代から大正時代にかけて、全国的に自由民権運動が広がる中で活躍した大井憲太郎は、国民主権や普通選挙の実現に向けて尽力した。

②大正時代

大正 3 (1914) 年に豊州鉄道 (開通時は日出生鉄道) と宇佐参宮線が開通して宇佐市内の交通網はさらに充実した。鉄道を利用した人々の往来が活発になる中、同 9 (1920) 年には陸軍の大演習も実施された。

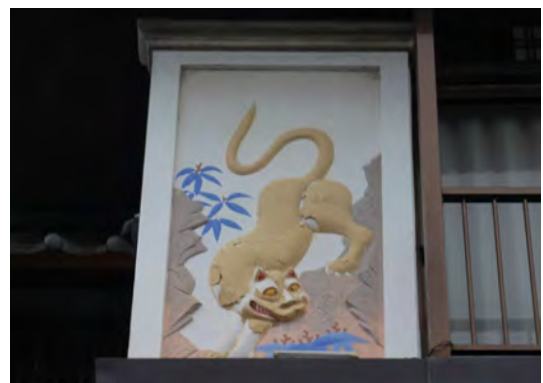
安心院町出身で主婦の友社を創業した石川^{たけよし}武美が大正 6 (1917) 年に創刊した雑誌『主婦の友』は、女性の地位向上に貢献し、婦人雑誌として多くの読者を獲得した。



反射炉碑 (市史跡) と反射炉から出た鉾滓



広瀬井路 (世界かんがい施設遺産)



安心院地区の鰻絵



宇佐参宮線の蒸気機関車

③昭和時代(昭和20年8月まで)

諸外国との緊張が高まる昭和初期には、国威発揚を目的とした全国的な主要な神社の整備に合わせて、宇佐神宮でも大造営が実施された。境内地の整備が行われ、社殿の修復・改築・移設・新築、菱形池等の拡張、境内の中にあった神明町や弥勒寺西大門の撤去といった工事が行われ、現在の宇佐神宮境内の姿が形成された。同じころ、宇佐市出身の大横綱^{ふたばやま}双葉山が69連勝という未だに破られていない大記録を打ち立てた。

航空機搭乗員の養成を目的として昭和14(1939)年10月に開隊した宇佐海軍航空隊は、宇佐平野にあった条里の大部分を造成し、新たに排水網を整備して建設された。戦局が悪化し、日本の都市部が空襲を受け始めた昭和19(1944)年には、飛行場の滑走路拡張や掩体壕^{えんたいごう}の建設といった工事が行われる中、宇佐でも特別攻撃隊が編成されその訓練が行われた。昭和20(1945)年3月の空襲を皮切りに終戦直前の8月まで、宇佐航空隊周辺は米軍による度重なる空襲を受けた。爆弾池や柳ヶ浦小学校の塀に残る空襲の傷痕等は、現在に空襲の激しさを伝えている。



横綱 双葉山



昭和の大造営前の宇佐神宮(正参道)

④古写真

近代においても宇佐神宮は宇佐で最大の名所で、観光客向けの絵はぎや写真入りの案内冊子等が多数発行された。昭和の大造営以前の社殿や参道、菱形池等の姿が写されており、境内地の移り変わりを知ることができる。

宇佐市内の各地を撮影した古写真も多くあり、戦前戦後の人々の暮らしの様子や町並み、祭の様子、学校や役場、鉄道、産業等が写っている。



宇佐海軍航空隊の正門と本部庁舎



終戦直後の宇佐海軍航空隊跡



米軍が終戦後に撮影した航空写真 (昭和 22 年 4 月)



柳ヶ浦にあった製糸工場 (昭和 10 年代)



宇佐郡役所 (大正 4 年)



安心院地域の酒蔵の杜氏 (大正初期)



分寺橋架橋時の支保工 (昭和 20 年)



宇佐参宮線 宇佐駅 (昭和 30 年代)



安心院の町並み (昭和 55 年)

(7) 現代 (昭和 20 年以降)

旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和	現代
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----

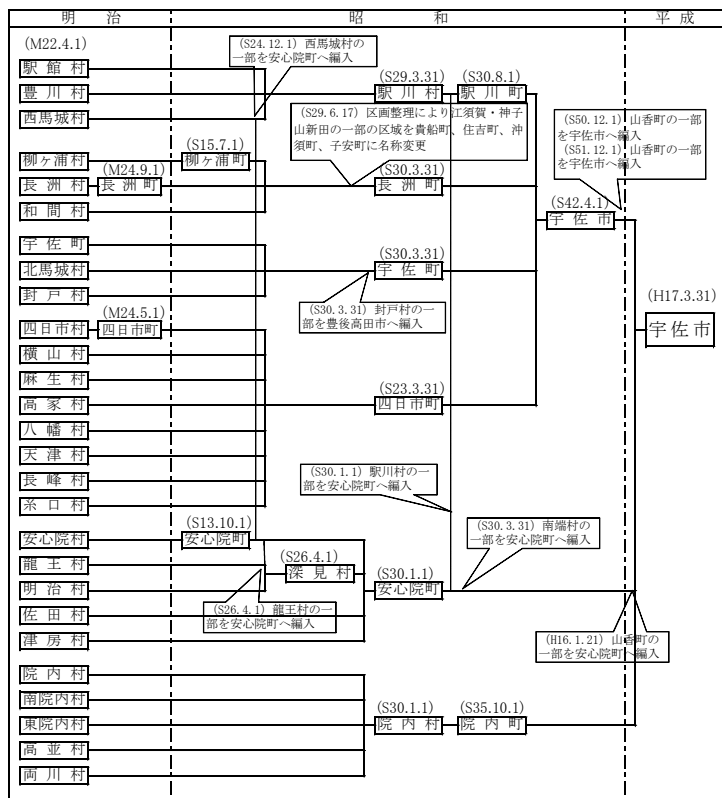
終戦後、宇佐海軍航空隊の跡地は地元住民の手で水田に戻された。町村合併により昭和 29(1954) 年に宇佐町・四日市町・^{えきせん}駅川町、同 30(1955) 年に^{ながす}長洲町と安心院町、昭和 35 年に院内町がそれぞれ誕生し、昭和 42(1967) 年に 4 町 (宇佐町・四日市町・駅川町・長洲町) が合併して宇佐市が誕生した。古代の官衙推定地の北側にあり、その名残がある^{やつかん}駅館川のほとりに宇佐市役所が建てられて新たな市制が始まった。

昭和 40 年ごろから、国営駅館川総合開発事業がすすめられ、駅館川の改修や大規模園場整備、樹園地の整備等が市内全域で実施された。園場整備で消失した遺跡もある一方で、発掘調査が行われた後に市民からの声を受けて部分的に保存された遺跡もあり、宇佐市における文化財保護行政の基礎がこの時期に形成された。

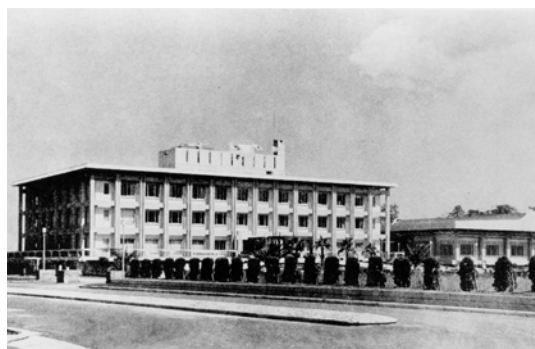
昭和 50 年代から平成にかけて大分県が推進した一村一品運動では、^{あじいち}麦焼酎や味一ネギ、院内のユズや安心院のブドウといった名産品の開発、鰻絵や石橋、八幡文化等について調査や普及啓発といった一村一文化の取り組みに加えて、「安心院グリーンツーリズム研究会」や、郷土の歴史を再発見する^{とよくに}「豊の国宇佐市塾」といった地域づくりの人材育成も進められた。これらの団体は現在でも積極的に活動している。

平成 17(2005) 年に宇佐市・安心院町・院内町の 1 市 2 町が合併し、現在の宇佐市の形となった。少子高齢化や過疎化等の影響で、集落単位での共同作業や地域活動、伝統行事等の実施が困難となる中で、小学校区を主な単位とした地域コミュニティ組織 (まちづくり協議会等) の設置を宇佐市では推進している。設立されたコミュニティ組織では、地域住民の手による地域資源 (歴史、文化、伝統等) の掘り起しも行われている。

令和 2(2020) 年には市役所本庁舎の建て替えが行われた。



宇佐市の変遷



合併直後の宇佐市役所



新しくなった宇佐市役所

(8) 人物

①近世以前

平安時代末に宇佐神宮の大宮司を務めた宇佐公通^{きんみち}は、駅館川から導水し、宇佐平野を水田とするための平田井路を開削した。平田井路の取水口やその主な経路は現在でも利用される。宇佐公通の墓は安楽院^{あんらくいん}に残る。

江戸時代に夫と死別したにもかかわらず義母のために尽くした孝行者として、中津藩主奥平昌邦^{おくだいら}から称えられた孝婦伊知^{こうじよいち}がおり、その墓が西馬城小学校^{にしまき}に残る。

文化9(1812)年には、安心院や院内の百姓に加えて大庄屋の赤尾丹治らも結託して大規模な一揆が発生した。中津藩により一揆は鎮圧され首謀者の赤尾丹治らは処刑されたが、一方で牛馬取引税の廃止や利子の免除等、要求の多くが受け入れられた。赤尾丹治の辞世の句が刻まれた石碑が赤尾神社(大字下赤尾)に残る。

八幡小学校区の出身で江戸時代末に力士として活躍した御用木雲右衛門^{ごようぼくくもえもん}は、花形力士として人気を集め、錦絵にも多く描かれた。慈眼寺(大字下乙女)にはその墓が残る。

目が不自由であるにも関わらず古事記や万葉集について学び、国学者として大成した柳田清雄^{すがお}の顕彰碑は柳ヶ浦小学校の校庭に2つ並んでおり、偉人の功績だけでなく戦争遺構としても重要である。

諸外国から開国を迫られ、海防強化が必要であった幕末に日出藩^{ひじ}からの要請を受けて大砲鑄造のために反射炉を建設した賀来惟熊^{これたけ}や、その従弟で本草学者として活躍した賀来飛霞^{ひか}等の賀来一族は佐田小学校区の出身である。賀来惟熊、飛霞等の墓、佐田神社に残る反射炉碑と鉾津^{しきだねんじ}等がその功績を伝えている。一方でこの頃、国学者の敷田年治^{しきだねんじ}が四日市郷校(通称、伊勢山塾^{いせやま})を創設し、宇佐の郷党に儒学、国学を教えた。伊勢山塾ではほかにも野本白岩、白石照山等が教鞭をとった。

②近代以降

【産業】

広瀬井路の工事は宝暦元(1751)年から開始されたが、大変な難工事であり5回の中断を経て明治6(1873)年によく開通した。この工事により駅館川東側の台地が水田として利用できるようになり、人々の暮らしを豊かにした。その開通に尽力した土木技術者が南一郎平^{いちろうべい}である。広瀬井路の開通後、南一郎平は那須・安積^{あさか}・琵琶湖という日本三大疎水の建設にも携わった。



宇佐公通の墓



御用木雲右衛門の墓



柳田清雄の碑



南一郎平の碑が残る高森の会所

院内地域には現在でも少なくとも 75 基の石橋が残る。これらの石橋の内、少なくとも 15 基の架橋に携わった技術者としてもっとも著名な石工が松田新之助である。鳥居橋や荒瀬橋といった石橋の多くは現在でも地域の人びとをつなぐ道として利用されている。

安心院地域出身の石川^{たけよし}武美は主婦の友社を創業し、大正時代に雑誌『主婦の友』を刊行した。

【政治】

封戸小学校区出身の横田^{くにおみ}国臣は青年期に咸宜園（日田市）で学び、明治時代には司法省で勤務し、後には当時の司法裁判所のなかで最上級の裁判所である大審院長も務めた。

明治時代から大正時代に政治家として活躍した木下謙次郎は安心院の出身で、明治 35 年に衆議院議員となった。美食家としても知られ、晩年に記した『美味求真^{びみぐしん}』では安心院をスッポンの名産地として紹介した。

明治時代を迎えた日本が近代化の一環として法整備を進める中で活躍したのが、院内地域出身の法律家で自由民権運動家の大井憲太郎である。

【スポーツ、芸術】

昭和 2 (1927) 年に角界入りした双葉山^{ふたばやま}は、昭和 11 (1936) 年から昭和 14 (1939) 年にかけて、大相撲で 69 連勝という大記録を打ち立てた。この連勝記録は未だに破られていない。双葉山を顕彰する資料館「双葉の里」では実際に使用した化粧まわしや映像等の各種資料が展示されている。

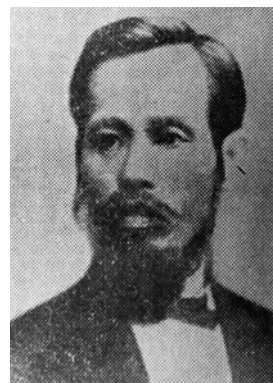
安心院地区出身の岩男^{このお}是命は、臼杵市出身の彫刻家日名子実三に師事して彫刻を学び、「シェパード」（市指定有形文化財）が帝展（現、日展）で特選となったが、日中戦争に召集されて戦死した。

麻生地区出身で大正時代から昭和 30 (1955) 年代まで活躍した漫画家の麻生豊は、『ノンキナトウサン』や『只野^{ただのぼんじ}凡児』等の 4 コマ漫画を新聞に連載し、関東大震災で被災した人々の心にユーモアを届けた。

四日市地区出身の作曲家である清瀬^{やすじ}保二は、洋楽と日本的な叙情性を調和させた曲を多く手がけ、代表作の「日本祭礼舞曲」は昭和 56 (1981) 年のノーベル化学賞授与式で演奏された。また、校歌も多く作曲し、横山小学校や宇佐小学校の校歌は今も歌い継がれている。



松田新之助が架けた荒瀬橋



大井憲太郎



双葉山



漫画ノンキナトウサン

第2章 宇佐市の文化財の概要

第1節 文化財の件数

(1) 指定等文化財の件数

総数

令和5年3月31日時点の宇佐市に所在する指定等文化財は383件である。

内訳は、国指定30件、大分県(以下、県)指定102件、宇佐市(以下、市)指定209件、国登録23件、国選択2件、県選択3件、県選定1件、市登録11件、市選択2件である。

(2) その他の認定制度

国、又は国際機関等が設けている制度による認定等を受けている文化財は以下のとおりである。

名称	制度名	認定機関等	認定年月
クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環	世界農業遺産	国際連合食糧農業機関	平成25(2013)年5月
六郷満山峰入りの道 (宇佐神宮～御許山)	歴史の道百選	文化庁	令和元(2019)年10月
宇佐のうまい酒製造体験特区	構造改革特別区域	内閣総理大臣	令和2(2020)年3月
宇佐のかんがい用水群 (平田井路・広瀬井路)	世界かんがい施設遺産	国際かんがい排水委員会	令和3(2021)年11月

(3) 未指定文化財の件数

令和5年3月31日時点で把握できている未指定文化財は1,829件である。

内訳は、有形文化財1,467件、無形文化財0件、民俗文化財12件、記念物339件、文化的景観6件、文化財の保存技術1件、その他(地名・伝承等)4件である。

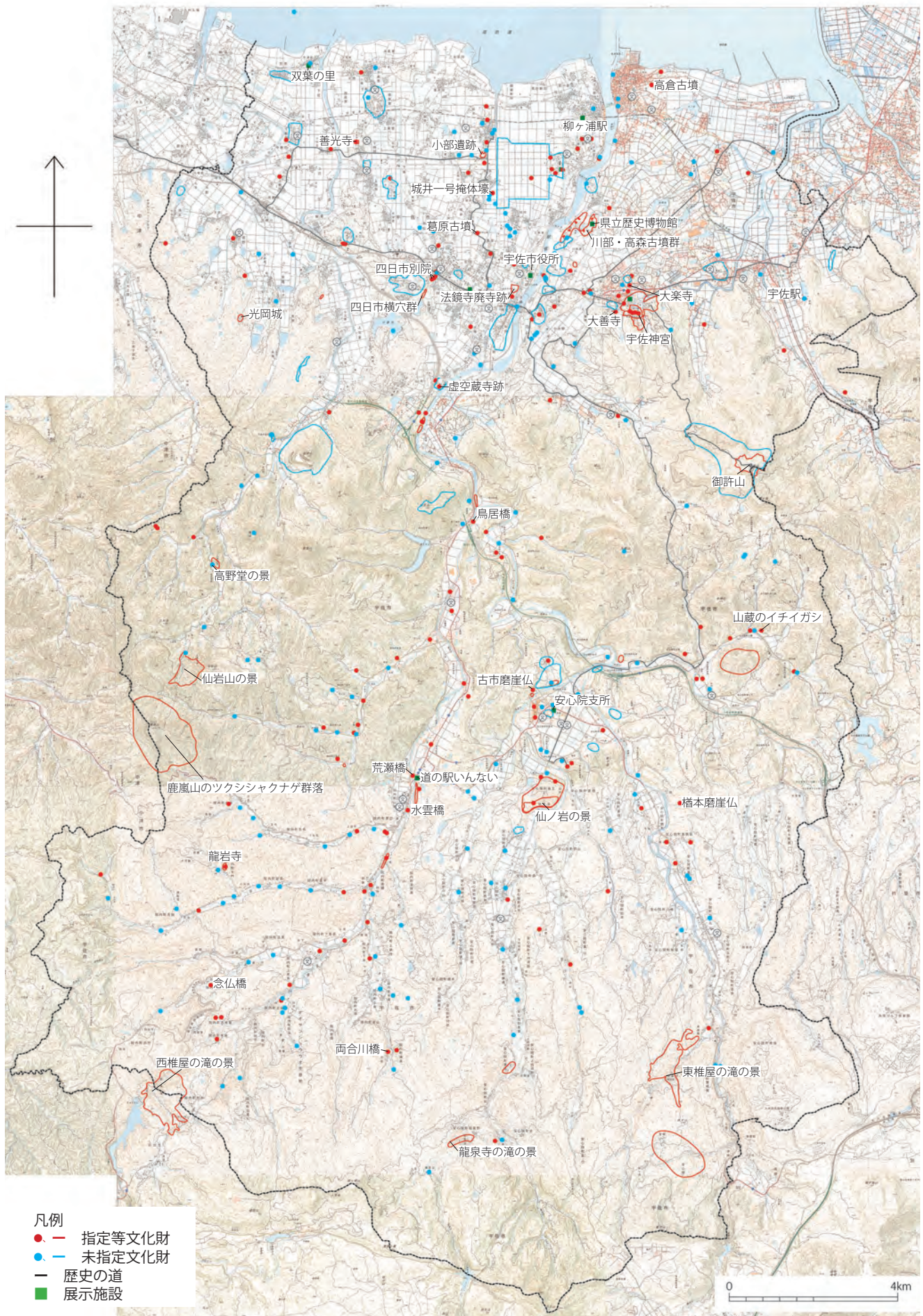
宇佐市の指定等文化財の件数（令和5年3月31日時点）

種類		国			県		市			合計
		指定 選定	選択	登録	指定 選定	選択	指定 選定	選択	登録	
有形文化財	建造物	3	-	23	21	-	48	-	5	100
	絵画	1	-	0	1	-	5	-	0	7
	彫刻	8	-	0	12	-	34	-	1	55
	工芸品	3	-	0	19	-	15	-	2	39
	書跡・典籍	2	-	0	1	-	2	-	0	5
	古文書	0	-	0	11	-	29	-	0	40
	考古資料	1	-	0	10	-	5	-	0	16
	歴史資料	1	-	0	4	-	12	-	0	17
	小計	19	-	23	79	-	150	-	8	279
無形文化財		0	-	0	1	-	0	-	0	1
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	-	0	2	-	9	-	0	11
	無形の民俗文化財	1	2	0	0	3	4	2	0	12
	小計	1	2	0	2	3	13	2	0	23
記念物	遺跡	6	-	0	17	-	38	-	3	64
	名勝地	1	-	0	0	-	0	-	0	1
	動物、植物、地質鉱物	3	-	0	3	-	8	-	0	14
	小計	10	-	0	20	-	46	-	3	79
文化的景観		0	-	0	-	-	-	-	-	0
伝統的建造物群		0	-	-	-	-	-	-	-	0
文化財の保存技術		0	-	0	※1	-	0	-	-	1
合計		30	2	23	103	3	209	2	11	383

※：選定、－：制度なし

宇佐市の未指定文化財の件数（令和5年3月31日時点）

種類		件数	種類		件数
有形文化財	建造物	476	記念物	遺跡	320
	絵画	390		名勝地	5
	彫刻	271		動物、植物、地質鉱物	14
	工芸品	42	小計		339
	書跡・典籍	42	文化的景観		6
	古文書	148	伝統的建造物群		0
	考古資料	24	文化財の保存技術		1
	歴史資料	74	その他（地名・伝承等）		4
	小計	1,467	合計		1,829
無形文化財		0			
民俗文化財	有形の民俗文化財	2			
	無形の民俗文化財	10			
小計		12			



宇佐市の主な文化財の位置 (S=1/125,000)

第2節 文化財の特徴

(1) 文化財保護法の対象となる文化財の特徴

① 有形文化財（建造物）

国指定3件、県指定21件、市指定48件、国登録23件、市登録5件の計100件が該当する。未指定文化財として把握されているのは476件である。

【建築物】

A 指定等文化財

社寺建築としては、宇佐神宮本殿（国宝）、善光寺本堂（重文）、龍岩寺奥院礼堂（重文）、四日市東別院山門（県有文）、真宗大谷派四日市別院本堂、浄土真宗本願寺派四日市別院本堂（共に国登録有文）等32件がある。この他に、住居建築として古荘邸（市有文）がある。

B 未指定文化財

宇佐神宮の創建に関連する宇佐八箇社（大根川神社、乙咩神社、酒井泉神社、郡瀬神社、小山田神社、妻垣神社）、放生会に関連する百体神社、和間神社等がある。

天福寺奥院礼堂、小坂不動堂、鷹栖観音堂等の断崖絶壁に建てられた懸造の寺院も鎌倉時代以降、随所に建てられる。現存する建造物の建築年代等は未調査である。

教覚寺本堂（18世紀末建立）は市内にある寺院建築の中でも四日市東西別院に次ぐ規模を持つ木造建築である。

大分県教育委員会が実施した近代和風建築の調査では、50件の調査が実施された。その中でも重要なものとして、山口家住宅、今井家住宅等の大庄屋の家系につながる住家や、萬寿軒等の商家が調査された。また、安心院・院内地域を中心に、鍔絵をもつ住家も多く残る。

C 特徴

現存する建造物の建築時期として、龍岩寺奥院礼堂や善光寺本堂は鎌倉時代から室町時代と考えられており、市内に残る木造建築物としては最古級である。

宇佐神宮境内にある社殿の大部分は江戸時代中期から幕末にかけて建替られたもので、昭和の大造営等で修理、改築、建替等が行われた。市内に残る社寺の大部分も近世または近代に建替えられたものである。

古荘家住宅や今井家住宅等には平面形や装飾等に近世から近代の農家建築の特徴が表れていると評価されている。鍔絵をもつ家屋・商家等も多くあり、市内一円に分布している。



国宝 宇佐神宮本殿



重文 善光寺本堂



重文 龍岩寺奥院礼堂



県有文 四日市東別院山門



国登録有文 本願寺四日市別院本堂

【土木構造物】

A 指定等文化財

鳥居橋（県有文）、荒瀬橋（市有文）、両合川橋（国登録有文）、宇佐海軍航空隊関係旧三洲国民学校コンクリート塀（市登録有文）等 23 件がある。

B 未指定文化財

市内に残る未指定の石橋として、北山水路橋、新太郎橋、記念橋、土岩屋橋等、89 基がある。

宇佐海軍航空隊関連の戦争遺構として、掩体壕群、電信室跡、弾薬庫、横穴式地下壕群等がある。

平田井路、広瀬井路等に関連する堰、水路等の大部分は昭和 40 年代以降に行われた駅館川総合開発事業でコンクリート製の水路に変わっているが、水路の間部が残る箇所もある。

C 特徴

土木構造物の大部分は明治時代以降に築かれた物であり、宇佐が歩んだ近代化の過程が表れている。



県有文 鳥居橋



市有文 荒瀬橋



市登録有文 旧三洲国民学校コンクリート塀



県有文 佐田社板碑



市有文 大弓家墓地石造宝塔群

【石造物】

A 指定等文化財

佐田社板碑、妙楽寺板碑、滝貞石幢（いずれも県有文）や、西原寺跡宝塔、春日神社層塔、岩本家石造宝塔（いずれも市有文）、宇佐海軍航空隊忠魂碑（市登録有文）等 42 件がある。

B 未指定文化財

大分県教育委員会が実施した中世石造物の悉皆調査では五輪塔、宝篋印塔、板碑等の石造物 349 件が把握された。

C 特徴

中世から近世にかけて、板碑や宝篋印塔、五輪塔等の仏教関連石造物が非常に多く造られており、滝貞石幢や佐田社板碑等の記念銘のある石造物を中心として指定されている。

② 有形文化財（美術工芸品）

国指定 16 件、県指定 58 件、市指定 102 件、市登録 3 件がある。
未指定文化財として 把握されているのは 991 件である。

【絵画・彫刻】

A 指定等文化財

綾本著色法華経絵（旧宇佐神宮神輿障子絵）四曲屏風附綾本著色法華経絵（同応永本）二曲屏風（重文）、絹本著色仏涅槃図（県有文）、金子自仏作品、髪繡浄土曼荼羅、西宝寺本方便法身尊影（いずれも市有文）等 7 件がある。

彫刻として、木造阿弥陀如来坐像ほか 2 体（龍岩寺）、木造弥勒仏及両脇侍像（大楽寺）、塑像三尊仏像残欠（天福寺奥院）、木造薬師如来坐像（大善寺）（いずれも重文）、木造金剛力士像（南光寺）、木造弥勒仏坐像（極楽寺）、虚空蔵寺木造仏像（いずれも市有文）等 55 件がある。

B 未指定文化財

大分県立風土記の丘歴史民俗資料館（現、歴史博物館）が実施した寺院関連文化財の調査では涅槃図、方便法身尊像、羅漢図等の仏教関連絵画、各寺院の本尊だけでなく所蔵する仏像の大部分が把握された。平安時代の作と考えられる木彫仏群や、室町時代頃の作と考えられる阿弥陀三尊来迎図等がある。

C 特徴

大楽寺所蔵の絹本著色仏涅槃図は室町時代に制作された物で洞昌寺や観音寺等にはその写しと考えられる涅槃図が残る。

真宗寺院で本願寺より下付される方便法身尊像も市内では散見される。西宝寺本方便法身尊影は 16 世紀初頭の制作であり、浄土真宗が普及し始めた時期がうかがえる。

市内に現存する最古の仏像は天福寺奥院の塑像群であり、その制作年代は 8 世紀代までさかのぼり、後述する虚空蔵寺跡等の古代寺院との関連性も指摘されている。

平安時代の仏像として龍岩寺の三尊像、天福寺奥院木彫仏群、大楽寺木造弥勒仏坐像、大巖寺木彫仏群、今成地区木彫仏群、神像として宇佐神宮の木造若宮神像等がある。この他にも、南光寺金剛力士像、大善寺木造薬師如来坐像（鎌倉時代）、極楽寺木造弥勒仏坐像、地蔵院木造不動明王像（室町時代）等、各時代の仏像や神像等が残る。

また、大善寺木造薬師如来坐像や極楽寺木造弥勒仏坐像等はいずれも宇佐神宮の弥勒寺に安置されていた仏像群であり、明治時代の神仏分離により市内の各所に分散して残されている。



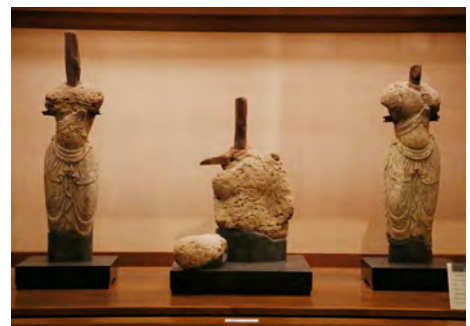
県有文 絹本著色仏涅槃図（大楽寺）



重文 木造阿弥陀如来坐像（龍岩寺）



重文 木造弥勒仏及両脇侍像（大楽寺）



重文 天福寺奥院塑像残欠



重文 木造薬師如来坐像（大善寺）

【工芸品】

A 指定等文化財

孔雀文磬^{くじゃくもんけい} (国宝)、白鞘入剣^{しらさやいりけん} (重文)、神輿附襖絵二枚^{ごしよ}、五所家刀 (県有文)、岩男是命作「シェパード」、来鉢^{くばち}の半鐘 (共に市有文)、沖の鍔絵 (市登録有文) 等 39 件がある。

B 未指定文化財

寺院関連文化財の調査で把握された仏宝類や、宇佐神宮に奉納された刀剣・武器等 42 件が把握されている。

C 特徴

宇佐神宮や大楽寺といった社寺が所蔵する神輿、仏具等が多数あり、それらの時代や種類は多岐にわたる。

刀剣類には南北朝時代に懐良親王^{かねよし}が宇佐宮に贈ったとされる白鞘入剣や、室町時代に活躍した刀匠である信国の銘をもつ五所家刀等が残る。



国宝 孔雀文磬

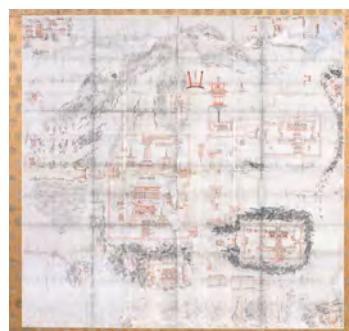


県有文 神輿附襖絵二枚 (宇佐神宮)

【書跡・典籍・古文書】

A 指定等文化財

宇佐宮神領大鏡、豊前国宇佐宮絵図 (ともに重文)、小山田文書^{おやまだ}、永弘文書^{たかむね}、高牟禮文書、大楽寺文書 (いずれも県有文)、佐田文書、検地帳 (写)、辛島文書、八幡縁起絵巻 (いずれも市有文) 等 45 件がある。



重文 豊前国宇佐宮絵図

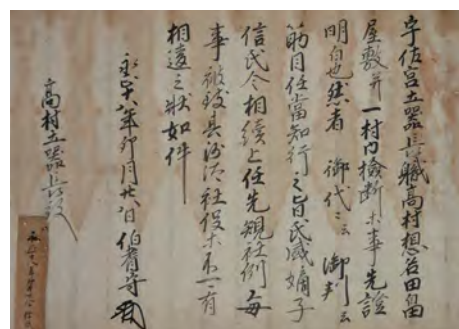
B 未指定文化財

山口家文書、今永文書^{いのみつ}、出光文書等の諸家文書や、禅源寺年代記、清水寺文書、西福寺文書等の寺院所蔵の古文書等が 190 件ある。

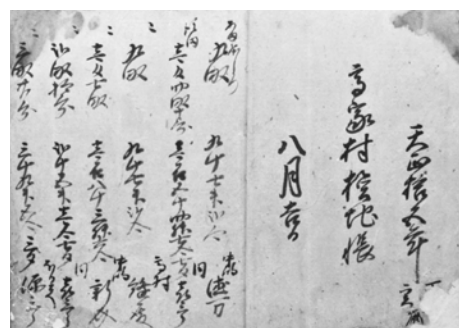
C 特徴

宇佐神宮や大楽寺等の社寺の由緒、祭事や建物の建立時の記録等は八幡宇佐宮御託宣集や大楽寺文書 (ともに県有文) 等に記されている。

宇佐郡三十六人衆とも呼ばれる戦国時代の諸家文書に残る大友氏と大内氏の戦乱に関する記述、江戸時代の庄屋が記した村々の石高や新田開発、災害、社寺の造営等の人びとの暮らしの様子等、様々な情報が古文書として残る。



県有文 高牟禮文書



市有文 検地帳 (写)

【考古資料】

A 指定等文化財

免ヶ平古墳出土遺物 (重文)、法鏡寺古瓦、弥勒寺古瓦、石戈、妙楽寺経塚出土遺物 (いずれも県有文)、葛原古墳出土遺物、塙仏^{せんぶつ}、銅戈^{どうか} (いずれも市有文) 等 16 件がある。

B 未指定文化財

弥生時代や古墳時代の遺跡から出土した重要遺物として、別府遺跡出土朝鮮式小銅鐸^{うえのはる}、上原遺跡出土内向花文鏡片^{ないこうかもんきょう}、宮ノ原遺跡出土三角縁神獸鏡片^{さんかくぶちしんじゅうきょう}等の青銅器、川部遺跡出土遺物（青銅鏡、鉄製武器類）、糸口遺跡出土鉄器類、御幡遺跡出土金銅製耳管^{おぼた}、鶴見古墳出土遺物等があり、古代の遺物として瓦塚遺跡出土金銅製帶金具^{みくちた}、三口田遺跡出土石帶、下林遺跡出土木製品（井戸杵、木簡）等が24件が把握されている。



重文 免ヶ平古墳出土遺物

C 特徴

駅館川流域を中心として出土する弥生・古墳時代の青銅器、鉄器等の金属器は、宇佐を治めた首長が存在したことを物語る。

古代寺院関連遺跡から出土する瓦は百済系、畿内系等のバリエーションが豊富で、また、虚空蔵寺跡から出土する埴^{くだら}仏等は宇佐の古代寺院が当時の先進的な文化をいち早く受け入れていたことの証である。帯飾り等は古代の官衙や駅家に関連する遺物で、文献に登場する宇佐駅・安覆^{あしぶ}駅といった記載と符合し、宇佐が交通の要衝であったことを示している。



市有文 葛原古墳出土遺物

【歴史資料】

A 指定等文化財

宇佐神宮造営図（重文）、御許山町石、宇佐参宮線26号蒸気機関車（ともに県有文）、大砲模型、賀来飛霞^{ひか}・採栗記、長洲村分間図、宇佐郡中津領矢頭組略絵図（いずれも市有文）等17件がある。



重文 宇佐神宮造営図

B 未指定文化財

74件が把握されている

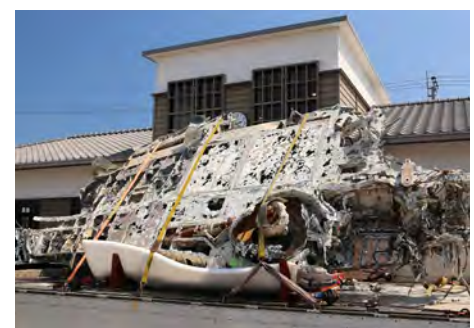
岩崎村絵図、豊前国山蔵組熊村絵図、豊前国山蔵組矢崎村絵図等の近世の村絵図や蓑虫山人絵日記等からは、村々の姿や宇佐に暮らした人々の生活の様子などを知ることができる。

宇佐宮八箇社瀬社八幡宮略絵図等の絵図は、社寺の変遷等を知る上で重要である。



中須賀村絵図（市指定）

宇佐市が収集した戦争関連資料は令和5(2023)年1月時点で4,000点以上あるが、勲章や書籍等の重複もあるため宇佐海軍航空隊に関連する34件を抽出した。種子島沖から引き揚げられた九七式艦上攻撃機は、世界に2機しか現存しない機体で、非常に貴重である。



未指定 引き揚げられた艦上攻撃機

C 特徴

宇佐神宮や社寺の境内図や近世以降の村絵図が豊富に残されており、地域の移り変わり等を知ることができる。

この他にも、宇佐参宮線26号機関車や宇佐海軍航空隊関連資料

等の近代化に関する資料や、賀来飛霞、双葉山、南一郎平等の郷土出身の偉人に関する資料等も残る。

③無形文化財

A 指定等文化財

宇佐神宮御神能^{ごしんのう} (県無形) 1 件のみが指定されている。

B 未指定文化財

把握調査が行われていない。

C 特徴

平安時代末に申楽として始まったとされる宇佐神宮御神能は、室町時代の大内氏の中興を経て、元和 5 (1619) 年に細川氏による再興されて以来 400 年近く続いており、現在も毎年 10 月に開催される。



県無民 宇佐神宮御神能



県有民 宇佐神宮能衣裳類

④有形の民俗文化財

県指定 2 件、市指定 9 件の合計 11 件である。未指定文化財として把握されているのは 2 件である。

A 指定等文化財

宇佐神宮能衣装類^{きつぎ}、杵築高等学校郷土研究部民俗資料コレクション (ともに県有民)、五百羅漢・仏足石、御許山茅刈入許可証、庚申塔 (いずれも市有民) 等がある。



市有民 五百羅漢

B 未指定文化財

石橋を建造するために使用した道具、高村焼生産道具類がある。

C 特徴

江戸時代末に造られた五百羅漢や庚申塔といった信仰に関連する文化財が多い。



重無民 豊前神楽 (日岳神楽)

⑤無形の民俗文化財

国指定 1 件、市指定 4 件、国選択 2 件、県選択 3 件、市選択 2 件の合計 12 件である。未指定文化財として 把握されているのは 10 件である。

A 指定等文化財

風俗慣習に関する文化財として大分県の鍬絵習俗^{こてえ}、長洲の初盆行事 (共に国選択無民)、庭入り (市無民) の 3 件がある。

民俗芸能に関する文化財として、豊前神楽 (国無民)、宇佐神宮の放生会、宇佐神宮の鎮疫祭^{ちんえき}、宇佐神宮御田植祭^{おたうえ} (いずれも県選



国選択無民 長洲の初盆行事

択無民)、北山神楽、麻生神楽(いずれも市無民)、鷹栖^{たかす}観音の鬼会、宮熊の虫送り(共に市選択無民)等9件がある。

B 未指定文化財

市内には、神社が200社以上あり、集落ごとに祭が行われる地域も多い。四日市地区の桜岡神社や長洲地区の長洲神社では、山車を使用した祭りが催される。

仏教の行事としては四日市の東西別院が中心となったお取越^{とりこ}し、弘法大師の命日の法要であるおせったい等の行事がある。

伝統芸能・行事として、高家^{たけい}神楽、安心院神楽、長峰子ども神楽等で継承されている。また、田植え前に行われる井手祭、収穫期に行われる祭事等がある。

食文化としては、宇佐飴がある。幕末に描かれた蓑虫山人絵日記にも描かれており、古くから宇佐で食べられていた菓子である。

C 特徴

宇佐神宮では、鎮疫^{ちんえきさい}祭(御心経会、2月)、御田植^{おたうえ}祭(6月)、御神幸^{なごし}祭(夏越祭、7月～8月)、仲秋^{ぼうじょうえ}祭(放生会、10月)等の各種祭事が年間を通じて行われる。

旧豊前国一帯に分布する里神楽が豊前神楽である。現在、宇佐市内では6つの神楽社(日岳神楽、十ヶ平神楽、北山神楽、麻生神楽、高家神楽、安心院神楽)が活動している。豊前神楽は修験道の流れを汲むといわれており、湯立、馳先^{ゆだて みさき}といった演目が特徴的である。

かつては様々な祭事が行われたが、現在では担い手が減少し衰退または消失した伝統行事等も多くある。現在にも受け継がれる代表的な習俗として、安心院地区や院内地区で行われる庭入り、長洲地区^{しやうりやう}の精霊^{すえどうろう}送り(据灯籠^{ごてんどうろう}または御殿灯籠)といった独特な盆行事がある。また、盆踊りが開催される地区も多く口説きも伝承される。

農耕に関する祭事・芸能として、神楽、宮熊の虫送り、井手祭等が一部地域で残り、どんど焼き等は市内の各所で実施される。

近代化する中で根付いた習俗として鰻絵がある。明治時代の殖産興業の中で製糸工場等が宇佐市内に作られ、山間部では養蚕業が盛んとなった。蚕を飼うため防湿性に優れた土壁の家や土蔵を建てる際に、恵比寿、虎、龍といった吉祥のモチーフの鰻絵で装飾し、家内安全や商売繁盛等を祈念した。安心院地域は特にその鰻絵が集中している。



県選択無民 宇佐神宮の放生会



市選択無民 鷹栖観音鬼会



市選択無民 宮熊の虫送り



鰻絵



どんど焼き

⑥記念物（遺跡）

国指定 6 件、県指定 17 件、市指定 38 件、市登録 3 件の合計 64 件である。未指定文化財（周知の埋蔵文化財包蔵地）としては 320 件が把握されている。

【貝塚・集落跡・古墳等】

A 指定等文化財

川部・高森古墳群、葛原古墳、四日市横穴墓群、小部遺跡（いずれも国史跡）、凶首塚古墳、高倉古墳、上原遺跡、京徳遺跡、野口遺跡（いずれも県史跡）、奥城石棺墓、扇塚古墳、水雲横穴墓群、宮ノ原遺跡（いずれも市史跡）等 20 件である。

B 未指定文化財

縄文時代以前の遺跡は少ないが、立石貝塚や石原貝塚等の貝塚、尾畑遺跡や飯田二反田遺跡等の集落が点在する。

弥生時代から古墳時代の集落遺跡として東上田遺跡、台ノ原遺跡、宮ノ原遺跡、上原遺跡、下原遺跡、川部遺跡、岩金遺跡、中屋敷遺跡、葛原遺跡、吉松遺跡、藤田遺跡、吉久遺跡等では発掘調査の成果がある程度蓄積されている。

糸口遺跡の方形周溝墓から刀や農耕具等の多量の鉄器が出土し、宗禅寺遺跡からは市内で唯一の韓式系土器が出土しているが、いずれの遺跡も報告書は未刊行である。今成横穴墓群は少なくとも 135 基の横穴が密集する市内でも最大規模の横穴墓群であり、内 1 基には顔料による装飾が確認されている。

古代から中世の遺跡としては、藤田遺跡、一木ノ上遺跡、吉久遺跡、下原遺跡、清水寺境内遺跡等がある。

C 特徴

弥生時代以降、宇佐平野部での遺跡が急増し、古墳時代には瀬戸内海を介した交流拠点の一つとして機能したことが、遺跡の変遷から見て取れる。

【都城跡・国郡庁跡・城跡・官公庁・戦跡・その他政治に関する遺跡】

A 指定等文化財

光岡城跡（県史跡）、龍王城跡、佐田城跡、四日市陣屋跡、城井一号掩体壕、高居地下壕、宇佐海軍航空隊落下傘整備所、宇佐海軍航空隊関係爆弾池（いずれも市史跡）等 13 件がある。

B 未指定文化財

古代官衙の可能性が考えられる遺跡として、別府遺跡、瓦塚遺跡、三口田遺跡で発掘調査が行われているが、いずれの遺跡も市街地化が著しい。



国史跡 川部・高森古墳群



国史跡 小部遺跡



国史跡 葛原古墳



国史跡 四日市横穴群



県史跡 光岡城跡

文献資料に記載が見られる城跡としては、高森城跡、時枝城跡、^{たけい}高家城跡、^{こさか}狐坂城跡、^{みょうけんだけ}妙見岳城跡、^{そい}副城跡、滝貞城跡等が挙げられる。妙見岳城跡や副城跡等では縄張図が作成されているが、構造等が不明な城跡も多い。

宇佐海軍航空隊関係の戦争遺構としては、電信室跡、城井地区・畑田地区の掩体壕群、中型掩体壕、弾薬庫跡、駅館川沿いの横穴壕群、海軍栈橋、^{みやぐま}宮熊沖の艦爆標的、今宮神社爆弾痕等がある。ほとんどの遺構で詳細な調査が出来ていないため、3次元計測等による記録作成が必要である。

C 特徴

古代以降、宇佐は豊前国と豊後国の境界にあり、交通の要衝としても機能したことが、古代官衙関連の遺物・遺構が出土した別府遺跡等から伺える。

国境に位置し戦略的にも重要であったため、中世には山城や在地領主の居館等が多数造られた。

近代に宇佐海軍航空隊があったことで、航空隊で使用した建物跡や滑走路、空襲の傷痕等の戦争遺構が多数残る。

【社寺跡又は旧境内・その他祭祀信仰に関する遺跡】

A 指定等文化財

法鏡寺廃寺跡、宇佐神宮境内（ともに国史跡）、^{ならもと}楢本磨崖仏、^{しもい}虚空蔵寺塔跡、^{しんいち}下市磨崖仏、^{いづれ}妙楽寺経塚（いずれも県史跡）、京石、^{つまがけ}妻垣神社奥宮巨石、^{たかす}鷹栖観音堂地域、^{ふくごんじ}福厳寺閻魔洞、栗ノ木磨崖仏（いずれも市史跡）、^{はくさん}白山神社遺跡（市登録史跡）等16件がある。

B 未指定文化財

^{こくぞうじ}虚空蔵寺跡は塔跡のみ指定されているものの、金堂・講堂等の推定地は指定に至っていない。

^{おぐらのいけ}小倉池の底にある小倉池廃寺跡では塔跡の礎石等が確認されているが、池の水が放流される時期しか遺構を見ることができないため、残存状況等の確認ができていない。

宇佐神宮八箇社の内、市内に所在する大根川神社・^{おとめ}乙咩神社・酒井泉神社・郡瀬神社・^{おやまだ}小山田神社・^{つまがき}妻垣神社については、いずれもその境内地は開発の可能性が低いため、周知の埋蔵文化財包蔵地としていないが、近隣での開発等については注意を要する。

C 特徴

法鏡寺廃寺跡や虚空蔵寺跡、小倉池廃寺跡等の奈良時代までさかのぼる古代寺院が多く、仏教文化が根付いていたことが伺える。



市史跡 城井一号掩体壕



市史跡 宇佐海軍航空隊関係爆弾池



未指定 瓦塚遺跡



国史跡 法鏡寺廃寺跡



国天記 宇佐神宮境内

【交通施設・通信施設・治山又は治水施設・生産施設・その他経済・生産活動に関する遺跡】

A 指定等文化財

虚空蔵寺一号瓦窯跡、切寄瓦窯跡（ともに県史跡）、重松家別邸（市史跡）の3件がある。

B 未指定文化財

古代の須恵器または瓦の窯と考えられる野森窯跡、中世以降に宇佐神宮が祭事で使用するかわらけを製作した高村焼生産遺跡等がある。

水田に関する条里遺構として、宇佐地区条里跡と安心院地区条里跡がある。

C 特徴

上記の信仰関連遺跡が展開するのとあわせて、それに伴う瓦窯跡や祭事で使用する土器の製作遺跡等が残る。

古代の水田である条里跡が宇佐、安心院に残るが、近現代の開発により失われた箇所も多い。

【墳墓・碑】

A 指定等文化財

孝婦伊知の墓、大弓家墓地石造宝塔群、反射炉碑、安心院千代松丸碑、賀来惟熊碑、帆足万里詩碑（いずれも市史跡）、法蓮法器塚、細川幸隆廟所（ともに市登録史跡）等の12件がある。

B 未指定文化財

御用木雲右衛門の墓、赤尾丹治の碑等がある。

C 特徴

大弓家墓地石塔群や安心院千代松丸碑等の石塔とその周辺を含めた指定と、賀来飛霞、孝婦伊知、御用木雲右衛門等の郷土の偉人の墓地、顕彰碑等がある。



県史跡 下市磨崖仏



県史跡 虚空蔵寺塔跡



県史跡 虚空蔵寺一号瓦窯跡



市史跡 孝婦伊知の墓



市史跡 大弓家墓地石造宝塔群

⑥記念物（名勝地）

A 指定等文化財

耶馬溪（国名勝）のみであるが、指定地として高野堂の景、仙岩山の景、龍泉寺の滝の景、仙ノ岩の景、東椎屋の滝の景、西椎屋の滝の景の6箇所分散している。

B 未指定文化財

余の滝、大飛の滝、須崎の滝、岳切溪谷等の景勝地の他、柱状節理の露頭として、西椎屋地区の岩山（通称、宇佐のマチュピチュ）等5件がある。

C 特徴

火山活動や河川の開析で形成された柱状節理、露頭等が多く、津房川の動植物化石群等から宇佐の古環境が推測できる。

⑦記念物（動物・植物・地質鉱物）

国指定3件、県指定3件、市指定8件の合計14件である。未指定文化財としては、14件が把握されている。

【動物】

A 指定等文化財

オオサンショウウオ（特天）、オオサンショウウオ生息地（国天記）、宇佐神宮のヒメハルゼミ（市天記）の3件である。

B 未指定文化財

オオイタサンショウウオやベッコウトンボ等が確認されている。

C 特徴

北部の海岸部から南部の山間部まで1000m近い比高差があり、変化に富む地形には様々な生物が生息する。

オオサンショウウオの様に太古から姿がほとんど変わっていないといわれる生き物や、絶滅危惧種に指定されるオオイタサンショウウオ等が生息している。九州では唯一のオオサンショウウオ生息地が宇佐にあり、院内地域では幼生や卵も確認されており、比較的安定した生息地として貴重である。

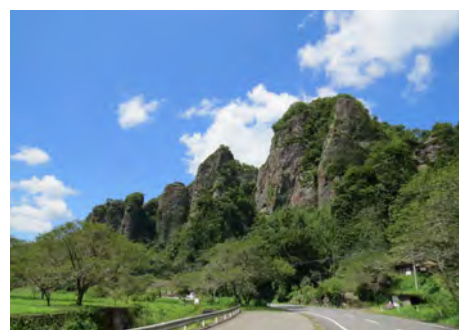
【植物】

A 指定等文化財

宇佐神宮社叢（国天記）、鹿嵐山のツクシシャクナゲ群落、山蔵のイチイガシ、畳石のオトメクジャク（いずれも県天記）、西椎屋大銀杏、東椎屋のイチイカシ、エヒメアヤメ自生地、小稲のオトメクジャク、寒水のムクノキ（いずれも市天記）がある。



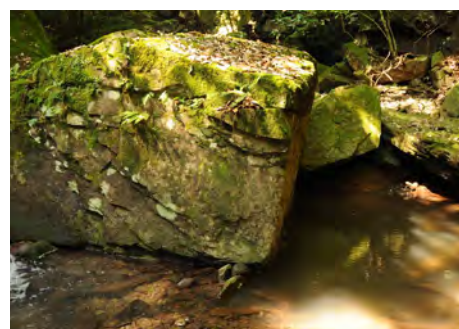
国名勝 耶馬溪（龍泉寺の滝の景）



国名勝 耶馬溪（仙ノ岩の景）



特天 オオサンショウウオ



国天記 オオサンショウウオ生息地



国天記 宇佐神宮社叢

B 未指定文化財

御許山のアカガシ林は鎮守の森として守られたアカガシ - ミヤマシキミ群集の典型的林分であり、宇佐地域の標高 500 ～ 600 m 程の山地に発達した潜在植生をよく残しており貴重である。

C 特徴

人類の活動が活発化する以前の潜在植生を良好に残すといわれるのが宇佐神宮社叢と御許山のアカガシ林であり、これは宇佐神宮の杜として古来守られてきたことに由来する。

オトメクジャクは水田の畦畔や石垣等に生育するシダ植物で、日本では大分県のみ生育が確認されている。エヒメアヤメは切り開かれた山地の斜面に自生する多年草で、大分県は自生地以南限にあたる。これらの希少植物は従来、人間が里山で暮らすことで共生してきた物である。

【地質鉱物】

A 指定等文化財

駅館川・恵良川の^{えら}鰐穴群、伊呂波川^{おうれつ}鰐穴(ともに市天記)の2件がある。

B 未指定文化財

深見川をはじめとする安心院、院内両地域に広がる津房川層から出土するミエゾウ、サンバーシカ、オオサンショウウオ等の動植物化石およびその産出地がある。

C 特徴

出土する動植物化石やその産出地は、宇佐の山間部にかつて巨大な湖沼があったことを示している。鰐穴は河床が長い時間をかけて浸食されてできるもので、河川の歴史や旧地形等を物語る。これらの文化財は宇佐の古環境を考える上でも重要である。



県天記 山蔵のイチイガシ



県天記 鹿嵐山のツクシシャクナゲ群落



市天記 エヒメアヤメ自生地



市天記 駅館川・恵良川の鰐穴群



未指定 出土したミエゾウの化石

⑧文化的景観

選定された文化財はないが、未指定文化財としては6件が把握されている。

【自然景観】

平田井路や広瀬井路といったかんがい施設や、近世の新田開発等により形成された広大な水田では、米と麦の二毛作が行われており、田園風景は四季を通じて移り変わる。

宇佐平野の中央部から見渡すと、御許山^{おもとさん} (647 m)、大蔵山^{おおぞうさん} (543 m)、和尚山^{かしょうざん} (327 m)、妙見山^{みょうけん} (444 m)、鹿嵐山^{かならせやま} (757 m)、稲積山^{いなづみ} (406 m)、八面山 (659 m、中津市) といった山に加えて、晴天時には由布岳^{ゆふ} (1,583 m、由布市) や両子山^{ふたごさん} (720 m、国東市) といった山並みを一望出来る。広大な平野の奥に、100 万年前の火山活動や 10 万年前の火山活動で形成されたと考えられる多様な山並みが広がる風景は、宇佐を特徴づける景観の一つである。

これらの山々は海上・陸上の様々なルートで宇佐を訪れる人々のランドマークとしても機能しただけでなく、古代には信仰の対象としても重要視された。事実、御許山や稲積山の山上からは、信仰に関する遺構や遺物も発見されている。



天福寺奥院からみた山並み



鹿嵐山



鳥居橋と妙見山



麦秋の宇佐平野と山並み

【歴史的景観】

安心院地域や院内地域の山間部に目を向けると、急峻な河川にかかる数多くの石橋や、斜面に営まれた棚田等が特徴的であり、平野部とは全く違う風景が広がる。また、石橋や鰻絵^{こてえ}といった地域の人びとがかつて荷った産業や交通等を示す文化財がまとまって残されており、独特な文化的景観を形成している。

院内地域には鳥居橋や荒瀬橋、分寺橋^{ぶじき}等、様々な形態や歴史を持つ石造橋が少なくとも75基あるだけでなく、棚田や段々畑の土留として石積みも多く利用される。

その中でも、院内町滝貞地区^{たきさだ}と同小平地区^{こびら}の間を流れる滝貞川に掛かる両合川橋を挟んで、斜面を利用した棚田が残る。滝貞地区の棚田は江戸時代末頃にさかのぼる可能性もあり、当地域の土木技術の高さがうかがえるだけでなく、現在も棚田が維持されており、生業と根付いた景観がある。

安心院地域には鰻絵をもつ民家、土蔵等が集中しており、近代産業としての養蚕業の名残を感じることができる。

四日市地区には東西別院が麓を並べ商家が立ち並ぶ門前町、宇佐地区には勅使街道や碁盤の目状に広がる町割りと関連する社寺が残る。

⑨伝統的建造物群

選定された文化財はなく未指定文化財も把握していない。

⑩文化財保存技術

A 指定等文化財

国選定保存技術伝統建築工匠の技の保持団体である、一般財団法人全国伝統建具技術保存会、公益社団法人全国社寺屋根工事技術保存会の正会員の所属する事業所が市内に所在する。

中でも、屋根桧皮づくり及び屋根桧皮葺きの技術は県選定保存技術保持者となっている。

B 未指定文化財

長洲の初盆行事で使用される御殿灯籠の制作者は現在1名のみであり、将来的な技術継承が懸念される。

C 特徴

宇佐神宮にある社殿の大部分は桧皮葺であり、伝統的な技法をもつ職人による修理が行われている。



両合川橋と棚田



安心院地区の鰻絵が残る町並み



四日市地区の門前町



夕日の指す勅使街道（光の参道）



県選定 屋根桧皮づくり及び屋根桧皮葺きの技術

⑪その他(地名・伝承)

『古事記』(712年編纂)や『日本書紀』(720年編纂)には、日向(宮崎県)から出立し豊予海峡を越えた神武天皇一行を、宇佐国造の祖とされるウサツヒコ・ウサツヒメが一柱騰宮(又は足一騰宮)という建物でもてなしたという記述(『古事記』中巻、『日本書紀』第三巻)がある。小部遺跡(国史跡)からは古墳時代の豪族居館跡が発見され、川部・高森古墳群(国史跡)には6基の前方後円墳が連続的に築かれていることから、古墳時代の宇佐には記紀の記述のモデルとなったような有力者(豪族)が存在したことが伺える。宇佐神宮・妻垣神社・和尚山そばの花立池が一柱騰宮推定地となっている。

景行天皇が九州を行幸した際に、菟狭川(駅館川)の川上にいる鼻垂と呼ばれる大和政権への抵抗勢力を平定したという記述(『日本書紀』第7巻)もあり、深見小学校区にあるハナグリ洞穴は鼻垂の住居跡という伝承もある。

宇佐宮弥勒寺の初代別当を務めた僧であり、『続日本紀』(797年編纂)にも登場する法蓮に関する伝承地が、院内地域の高並地区に多く残る。

平安時代につくられた法律書である『延喜式』(967年施行)には古代の駅家として「宇佐」と「安覆」の記載がある(『延喜式』28巻)。「駅館」という地名は駅家が設置されていたことに由来するとされており、また、安心院という地名の由来の一つが安覆であるとされる。



宇佐神宮に建つ一柱騰宮顕彰碑



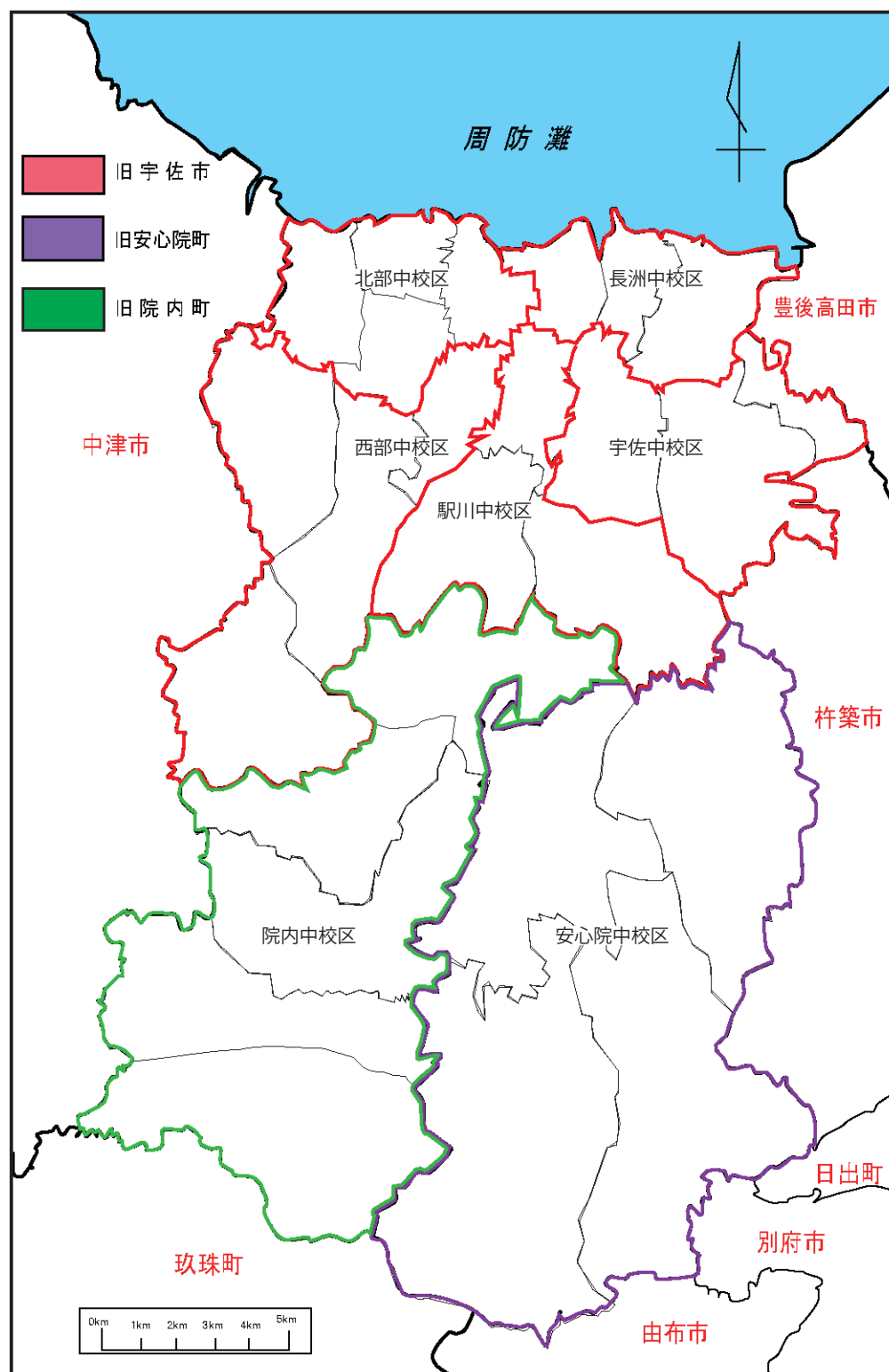
和尚山そばに建つ神武東遷の顕彰碑



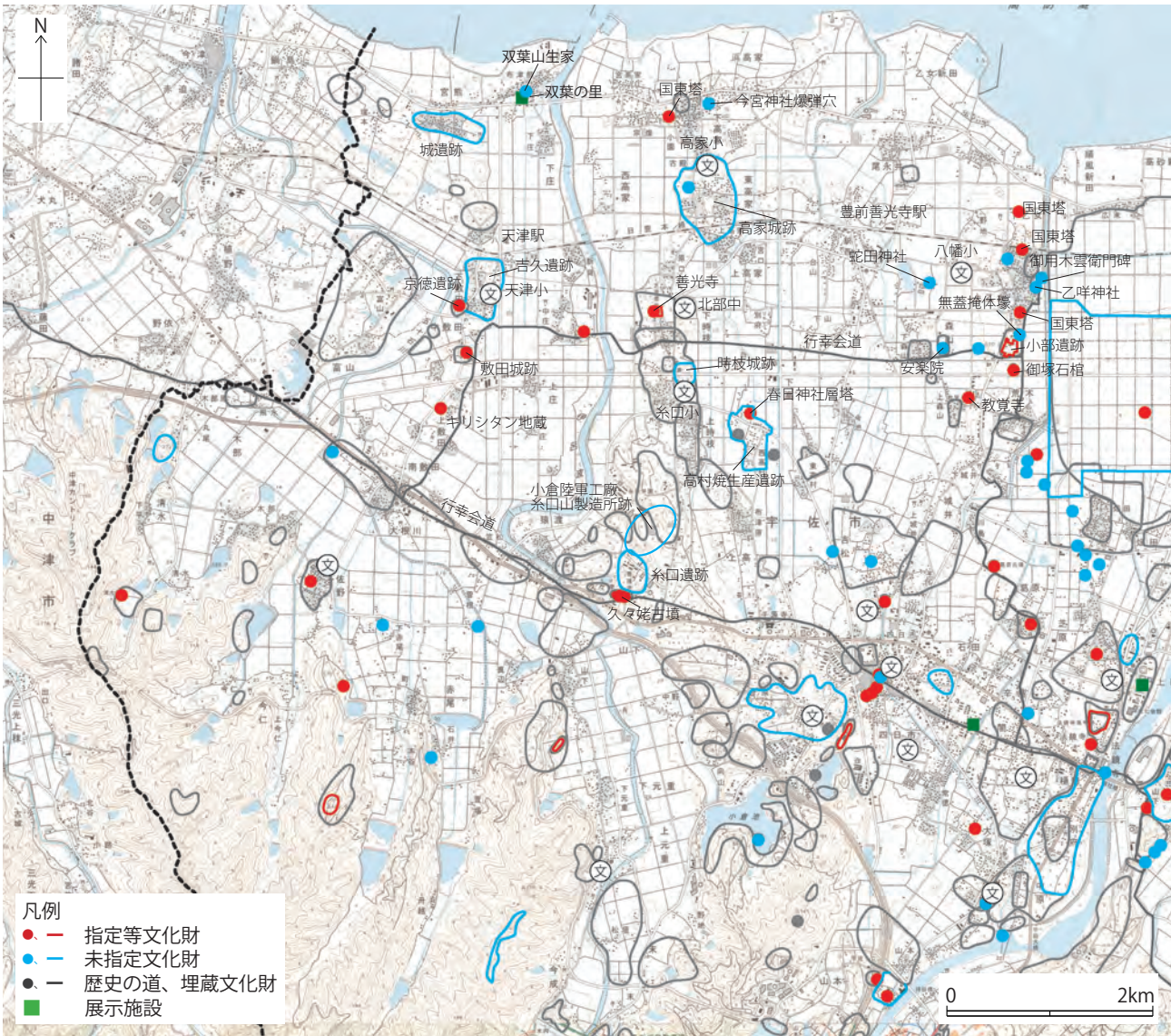
高並地区のひめ松

第3節 中学校区別の文化財の概要

現在、宇佐市内には7つの中学校区がある。河川・山等の自然地形、近世以前の集落や街道等を基として、明治時代から戦後までに形成された市町村の境界が、校区の境界としても残されている。中学校区は地域住民にも広く浸透している行政的な範囲であるため、地形、文化財の分布や特徴等を中学校区ごとに把握しておくことで、地域における文化財の保存・活用に役立てる。



中学校区の区分



北部中学校区の主な文化財位置図 (S=1/60,000、国土地理院発行 1/25,000 地形図に加筆)



重文 善光寺本堂



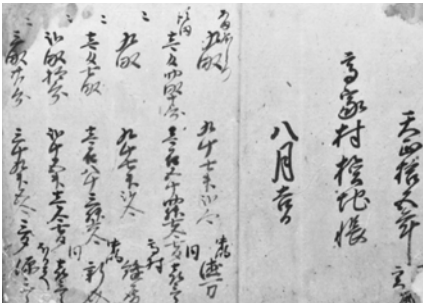
国史跡 小部遺跡



県史跡 久々姥古墳



双葉の里



市有文 検地帳(写)



未指定 教覚寺本堂

(2) 西部中学校区

【地形等】

中津市からつながる丘陵部に位置する^{ながみね}長峰小学校区、急峻な山間部から成る麻生小学校区、山間部から延びる丘陵とその谷間に形成された横山小学校区、丘陵の端部にある低位段丘と平野からなる四日市南・四日市北小学校区からなる。

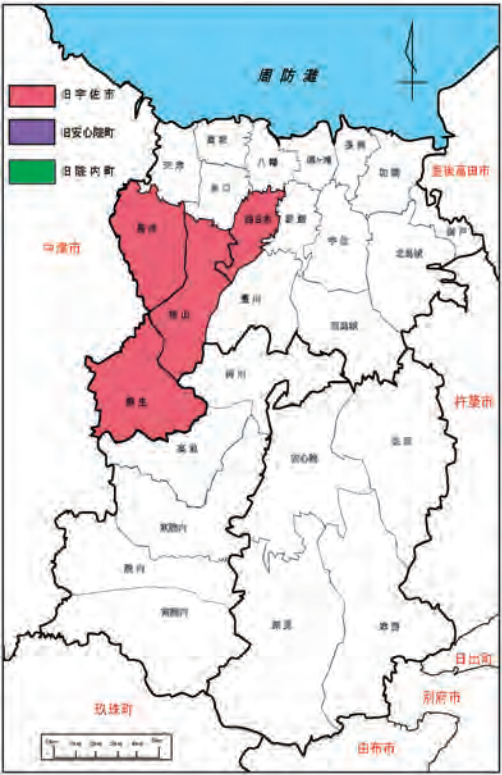
【主な文化財等】

耶馬溪(^{せんがんざん}仙岩山の景・^{こうやどう}高野堂の景)がある麻生地区の急峻な山間部から延びる丘陵部には、今成横穴墓群、貴船平・下裏山横穴墓群、四日市横穴群等の装飾をもつ横穴墓群が多数分布し、平野部には^{くずわら}葛原古墳、扇塚古墳等の円墳、光岡城跡、丸尾城跡等の中世山城が分布する。

信仰の対象であったと考えられる^{いなづみやま}稲積山周辺には、天福寺奥院、^{おぐらのいけ}小倉池廃寺跡、^{みょうらくじ}妙楽寺経塚、妙楽寺板碑等の古代から中世にかけての信仰関連の文化財が集中する。

在地領主の渡辺氏が開いた^{さくらがわ}桜岡神社周辺では、近世に毎月四日に市が開かれ、後には浄土真宗の東西別院も開かれて人々の交流の拠点となった。現在も門前町としての町割りが残されており、おとりこしや桜岡神社の祭等の伝統行事が行われる。

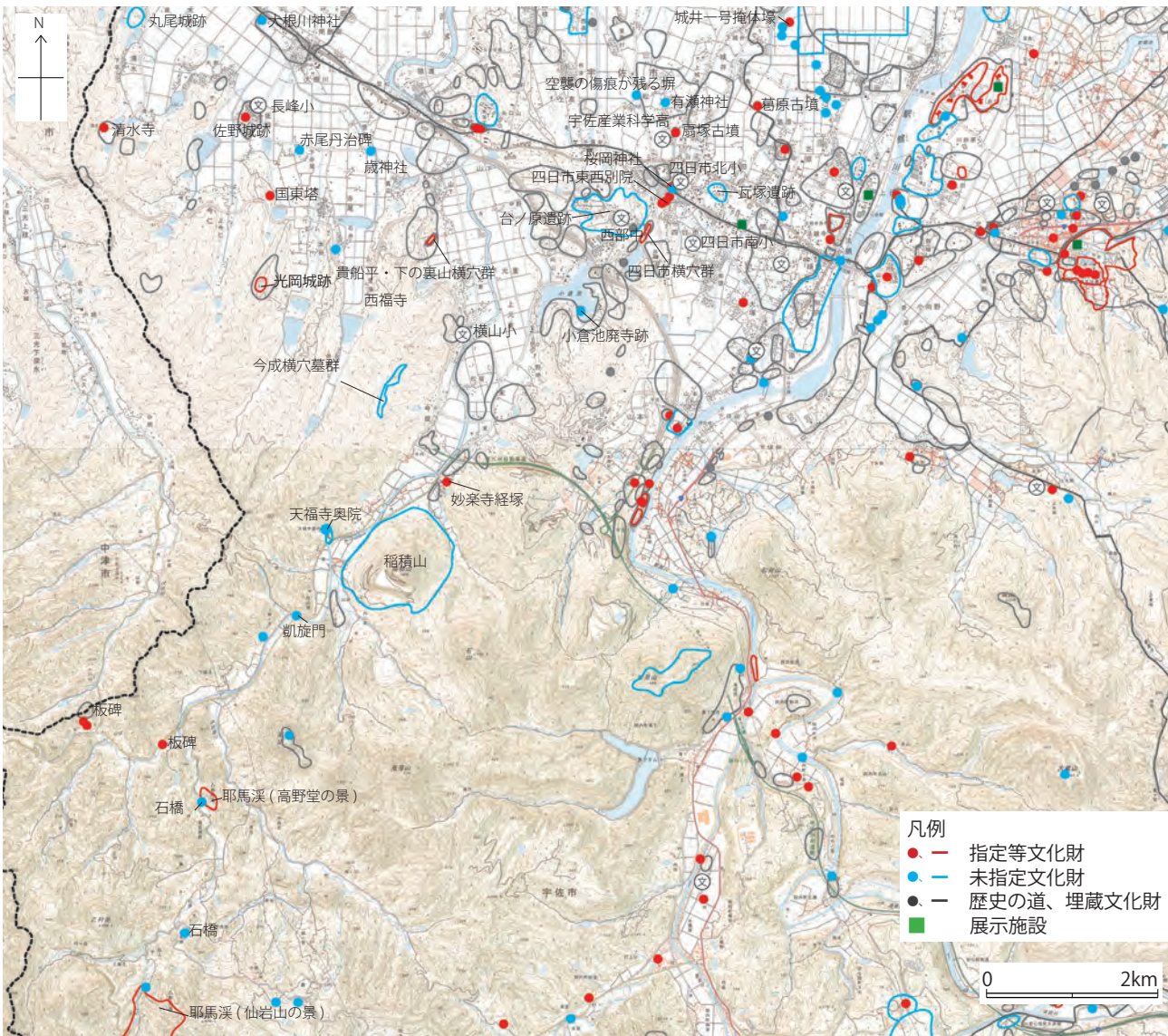
近代には、宇佐海軍航空隊の施設として掩体壕が多数築かれ、^{じょうい}城井一号掩体壕をはじめ4基の掩体壕が地域に残る。宇佐航空隊を標的とした空襲も行われ、傷痕が残る民家も四日市北小校区にある。



西部中学校区の主な文化財

小学校区	国指定・選定	県指定・選定	市指定・選定	国選択、登録	県選択	市選択、登録	未指定	展示施設等
長峰		光明寺板碑 光岡城跡	十一面千手観音像(清水寺) 今仁恕子文書 今仁共有文書 古寺敵知氏所蔵文書				桂掛井路 赤尾丹治の碑 六十塚古墳 丸尾城跡 佐野城跡 御蔵所跡 清水寺文書	
四日市北	葛原古墳	—	六地藏尊板刻像(華藏寺) 葛原古墳出土遺物 扇塚古墳 四日市陣屋跡 城井一号掩体壕	【登録】 真宗大谷派四日市別院本堂一棟 本願寺四日市別院本堂ほか14件		—	平田井路 有瀬神社 瓦塚遺跡 門前町の町並み 伊勢山塾跡	平和資料館
四日市南	四日市横穴群	四日市別院(東本願寺)山門	能面(桜岡神社) 渡辺文書 麻生文書 緒方文書 豊前国宇佐郡四日市村年代記等	—		—	平田井路 桜岡神社 成吉神社 台ノ原遺跡 門前町の町並み	—
横山	天福寺奥院塑像残欠*	稲積山石柱塔婆* 天福寺奥院仏像群* 妙楽寺板碑 妙楽寺木造阿弥陀如来坐像附木造仏 貴船平・下の裏山横穴群 妙楽寺経塚 妙楽寺経塚出土遺物*	梵鐘(法音寺) 山村文書	—		—	稲積山 今成横穴墓群 小倉池廃寺跡 天福寺奥院 中村城跡	—
麻生	耶馬溪(高野堂の景、仙岩山の景)	—	宝塔(個人) 板碑(個人、地区) 伊呂波川蔵穴 麻生神楽	—		—	麻生豊 日露戦争の凱旋門 蓑虫山人絵日記 高尾城跡	—

※ 大分県立歴史博物館で常設展示 ※2 大分県立埋蔵文化財センターで常設展示



西部中学校区の主な文化財位置図 (S=1/80,000、国土地理院発行 1/25,000 地形図に加筆)



国名勝 耶馬溪(高野堂の景)



重文 天福寺奥院塑像残欠



国史跡 葛原古墳



県史跡 光岡城跡



国史跡 四日市横穴群



国登録 真宗大谷派四日市別院本堂

(3) 駅川中学校区

【地形等】

駅館川左岸の低位段丘から平野部の境にある豊川小学校区、
駅館川右岸の台地と左岸の平野部にある駅館小学校区がある。
御許山からのびる丘陵部に西馬城小学校区があり、御許山が
かつて馬城峰と呼ばれた名残がある。

【主な文化財等】

駅館川と古代官道の一部と考えられる放生会道等が交差する
位置にあるため、弥生時代以前から交通の要衝として機能した
と考えられる地域である。

駅館川兩岸に川部・高森古墳群、野口遺跡、上原遺跡、
別府遺跡、岩金遺跡等の弥生時代から古墳時代の遺跡があり、
重要遺跡が密集する。

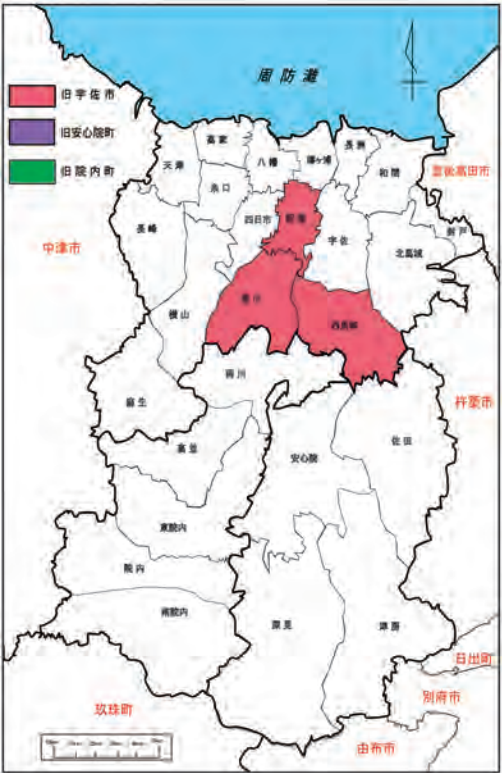
駅館という地名は『延喜式』に記された宇佐駅があった名残
とされており、別府遺跡では大型建物跡、穴井遺跡では文字の
書かれた土器等が出土している。

西馬城小学校区には佐田小学校区につながる街道があり、行
幸会の際なども利用された。

法鏡寺廃寺跡、虚空蔵寺跡、鷹栖観音堂、御許山等の古代から中世にかけて成立した寺院や宇佐宮八箇社の酒井泉神社・郡瀬神社等、信仰関連文化財が集中し、鷹栖観音鬼会等の伝統的な行事も残る。

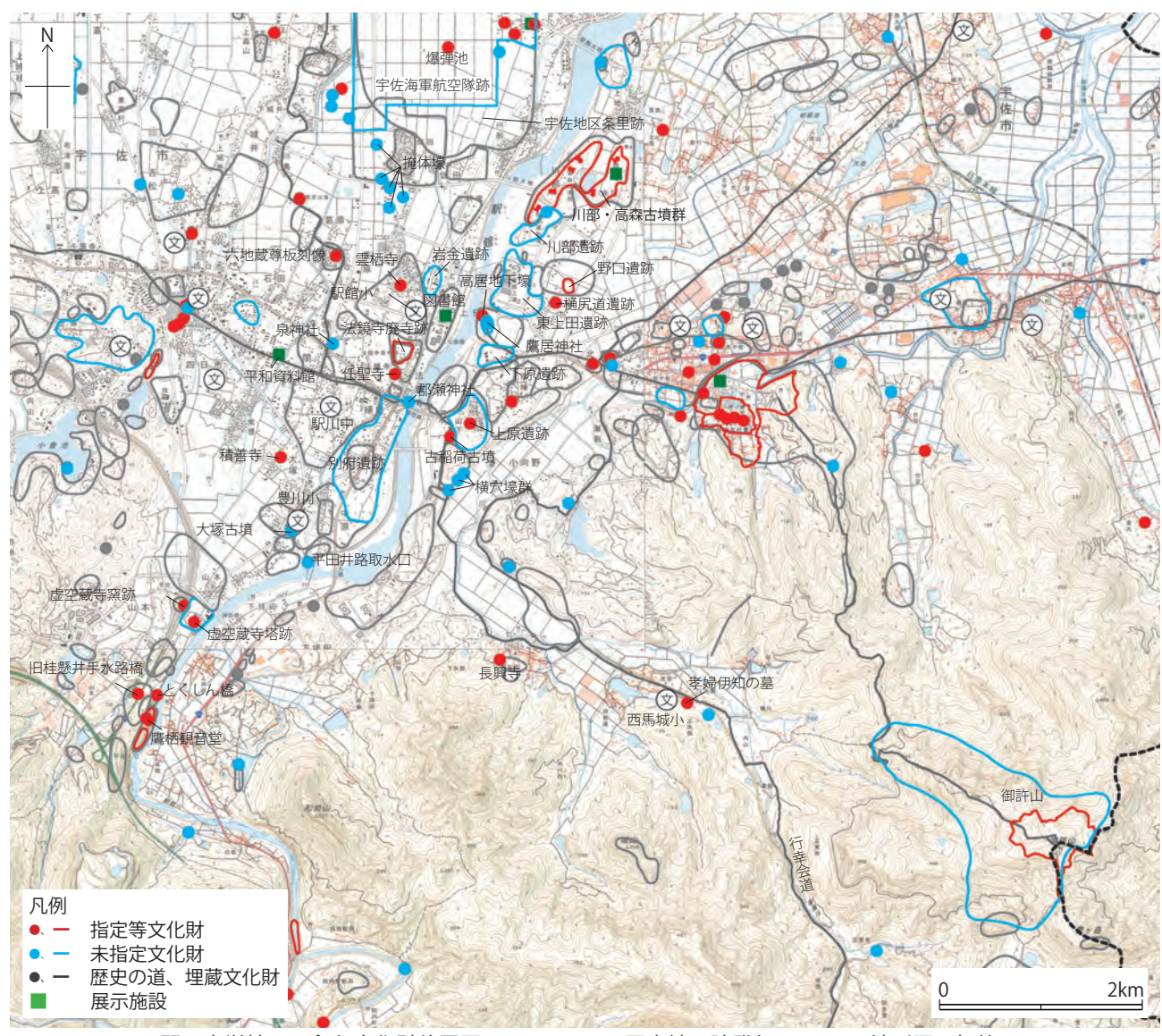
平田井路を通して駅館川から引かれたかんがい用水は、校区内だけでなく、北部中学校区、西部中学校区等広範囲に水路が巡っており、宇佐の米作りに欠かすことのできないものである。

宇佐地区条里跡の中心に近代に築かれた宇佐海軍航空隊も一部が校区内にあり、畑田地区掩体壕群等の戦争遺構が残る。



駅川中学校区の主な文化財

小学校区	国指定・選定	県指定・選定	市指定・選定	国選択、登録	県選択	市選択、登録	未指定	展示施設等
駅館	法鏡寺廃寺跡 川部・高森古墳群	木造阿弥陀如来坐像 (任聖寺) 法鏡寺古瓦 石文 古稲荷古墳 上原遺跡 樋尻道遺跡 野口遺跡	地藏石仏(任聖寺) 辛島文書 広崎文書 小野家所蔵文書 吉村文書 奥田家文書 宇佐郡中津領矢頭組 略絵図 十一面千手観音立像 (雲栖寺) 高居地下壕 宇佐海軍航空隊関係 爆弾池 庚申塔(2件)	—	—	—	酒井泉神社 郡瀬神社 東上田遺跡 川部遺跡 岩金遺跡 畑田地区掩体 壕群 宇佐海軍航空 隊跡	図書館 平和資料館
豊川	—	とくしん橋 虚空蔵寺塔跡 虚空蔵寺一号瓦窯跡 蛭子ヶ原古墳	宝篋印塔(積善寺) 矢治文書 虚空蔵寺木造仏像 鷹栖観音堂木造仏像 旧桂掛井手の水路橋 鷹栖観音堂地域 鬼面	—	—	【選択】 鷹栖観音の鬼 会	平田井路(取 水口) 別府遺跡 大塚古墳 虚空蔵寺跡 花立池(神武 東遷伝承地)	—
北馬城	宇佐神宮境内(御許 山地区)	—	不動尊像(個人) 木造釈迦如来坐像(長 興寺) 矢部文書 孝婦伊知の墓	—	—	—	矢部城跡 御許山山城跡 御許山のアカ ガシ林	—



駅川中学校区の主な文化財位置図 (S=1/60,000、国土地理院発行 1/25,000 地形図に加筆)



国史跡 法鏡寺廃寺跡

国史跡 川部・高森古墳群(免ヶ平古墳)

県史跡 虚空蔵寺塔跡

駅館川と辛島井堰

市選沢無民 鷹栖観音の鬼会

市史跡 孝婦伊知の墓

(4) 長洲中学校区

【地形等】

柳ヶ浦小学校区・^{ながす}長洲小学校区・^{わま}和間小学校区からなる。北側全域が周防灘に面する海浜部とその後背地の低位段丘からなる地域で、駅館川を隔てて柳ヶ浦小学校区と長洲小学校区に分かれる。

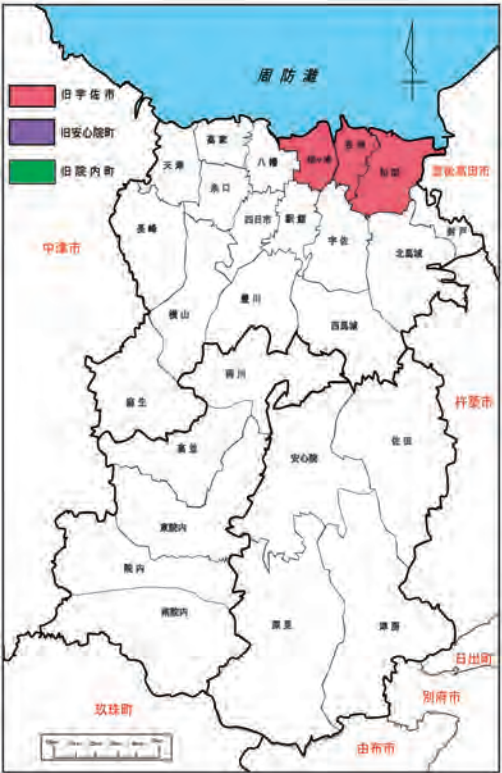
長洲小学校区の海岸部は現在も漁港であり、近代以降は柳ヶ浦駅・長洲駅といった鉄道も敷設され、海上・陸上交通の拠点として機能した地域でもある。

【主な文化財等】

宇佐神宮の祭事である放生会に関連する文化財として、西貝神社、和間神社、放生会道等がある。

宇佐海軍航空隊の主要施設が建てられた柳ヶ浦小学校区と隣接する長洲小学校には、宇佐航空隊関連の文化財が最も集中する地域であり、落下傘整備所、耐弾式コンクリート造建物、発動機試運転場、電信室跡、海軍棧橋といった建造物や、柳ヶ浦小学校のコンクリート塀や柳田清雄の碑といった空襲の傷痕が多く残る。

海浜部の生活をしめす文化財として、石ひび跡や長洲の初盆行事等の他に、古墳時代の大型円墳である高倉古墳がある。



長洲中学校区の主な文化財

小学校区	国指定・選定	県指定・選定	市指定・選定	国選択、登録	県選択	市選択、登録	未指定	展示施設等
柳ヶ浦	—	—	木造毘沙門天立像 中須賀村等絵図 宇佐海軍航空隊落下 傘整備所 宇佐海軍航空隊耐弾 式コンクリート造建 物 宇佐海軍航空隊跡発 動機試運転場 五百羅漢・仏足石(東 光寺) 庚申塔	—	—	蓮光寺生き残り門* 宇佐海軍航空 隊忠魂碑 柳田清雄顕彰 碑* 旧三洲国民学 校コンクリ ート塀* 宇佐海軍航空 隊正門門柱	御蔵所跡 電信室跡 本家津島屋 「総督」酒蔵跡 宇佐地区条里 跡*	宇佐空の郷 柳ヶ浦駅
長洲	—	高倉古墳	長洲村分間図	【選択】 長洲の初盆行 事	—	【登録】 長洲地蔵菩薩 立像	長洲神社 石ひび跡 南一郎平旧宅 長洲城跡 御蔵所跡	—
和間	—	光明寺木造聖観音立 像	橋津組出光村絵図控 附同村明細書 西貝神社	—	宇佐神宮の放 生会	—	和間神社 放生会道	—

※ 「宇佐海軍航空隊関係」を省略して記載



長洲中学校区の主な文化財位置図(S=1/60,000、国土地理院発行 1/25,000 地形図に加筆)



市史跡 宇佐海軍航空隊落下傘整備所



国選択無民 長洲の初盆行事



市史跡 西貝神社



宇佐空の郷



未指定 石ひび跡



未指定 和間神社

(5) 宇佐中学校区

【地形等】

寄藻川に沿って、西から順に宇佐小学校区・北馬城小学校区・封戸小学校区が広がる。御許山や津波戸山（豊後高田市）から延びる舌状台地と谷間の小河川によって地域が区切られる。

【主な文化財等】

宇佐神宮と大分県立歴史博物館が校区内にあるため、指定等文化財が最も集中する地区である。

縄文時代や古代には現在よりも海岸線が南にあったことを示す文化財として、石原貝塚、立石貝塚、和気清麻呂の船繋石等がある。

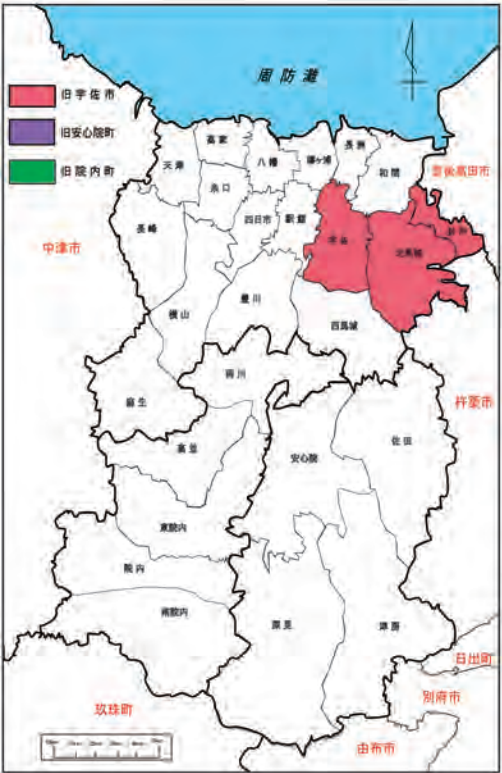
川部・高森古墳群には前方後円墳6基が集中しており、古墳時代の宇佐を治めた累代の有力者の墓域と考えられている。

8世紀に現在の位置に社殿が建てられた宇佐神宮では、放生会や行幸会といった大規模な祭事も行われ、勅使街道、放生会道、行幸会道等が宇佐神宮を中心として放射状に伸びる。

宇佐宮の最盛期には九州一円に荘園を有していたが、封戸という地名には荘園であったことの名残がある。

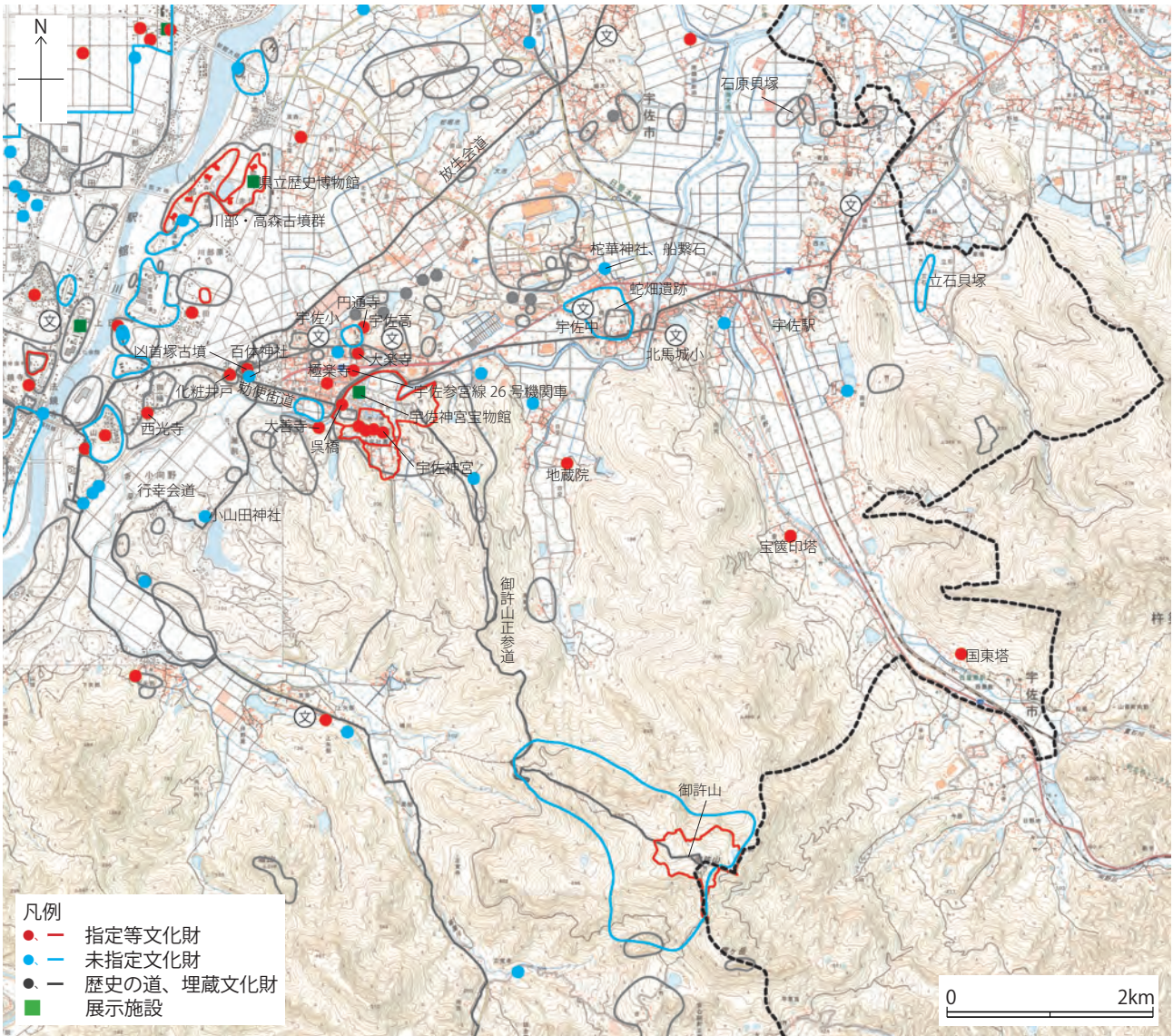
宇佐神宮の境内地にかつてあった弥勒寺は明治時代の廃仏毀釈で消失したが、その仏像群は大善寺や極楽寺といった近隣の寺院に残されている。

宇佐参宮線鉄道では宇佐駅から宇佐神宮、または豊後高田市方面に線路が引かれ、昭和40(1965)年に廃線になるまで多くの人が利用した。宇佐参宮線で使用された車両が宇佐参宮線26号機関車である。



宇佐中学校区の主な文化財

小学校区	国指定・選定	県指定・選定	市指定・選定	国選択、登録	県選択	市選択、登録	未指定	展示施設等
宇佐	宇佐神宮本殿 銅鐘、木造神像、白鞘入剣、宇佐宮神領大鏡、宇佐神宮造営図、豊前国宇佐宮絵図、宇佐神宮境内、宇佐神宮社叢（宇佐神宮） 孔雀文馨 木造弥勒仏及両脇侍、木造四天王立像（大楽寺） 附綾本著色法華経絵（同応永本）二曲屏風 木造薬師如来坐像（大善寺） 綾本著色法華経絵（旧宇佐神宮神輿障子絵） 四曲屏風 免ヶ平古墳出土遺物 川部・高森古墳群	梵鐘、五鈷杵、絹本著色仏涅槃図（大楽寺） 小山田文書 永弘文書 八幡宇佐宮御託宣集 北辰神社、高倉、西大門、南中楼門、呉橋、神輿附襖絵二枚、弥勒寺古瓦、御許山町石、宇佐神宮御神能、宇佐神宮能衣裳類ほか（宇佐神宮） 五所家刀 永弘家刀 宇佐参宮線26号機関車 凶首塚古墳 屋根桧皮づくり及び桧皮葺きの技術 ほか34件	宇佐神宮短刀・脇差、幣板、金銅鈴、鰐口、宇佐神宮所蔵文書、八幡縁起絵巻、銅戈ほか（宇佐神宮） 三千仏図、舍利塔、観世音菩薩立像、大楽寺文書、六地藏石幢（大楽寺） 髪結浄土曼荼羅、仏舍利塔、極楽寺阿弥陀如来像（極楽寺） 木造阿弥陀如来立像、神子禪師栄尊の頂相頭部残欠（円通寺） 木造地藏菩薩坐像（崇福寺） 旧弥勒寺講堂脇侍（大善寺） 釈迦如来立像（西光寺） 庚申塔（伏田地区） ほか9件	—	宇佐神宮の御田植祭 宇佐神宮の放生会 宇佐神宮鎮疫祭	—	小山田神社 百体神社 勅使街道 放生会道 行幸会道 御許山正参道 椎根津彦神社（神武東遷伝承地）	大分県立歴史博物館 宇佐神宮宝物館 宇佐市文化財資料室（展示は未実施）
北馬城	宇佐神宮境内（御許山地区）	金丸宝篋印塔	不動明王立像（地藏院） 国東塔（個人）	—	—	—	陀鼻神社 出光文書 和気清麻呂の船繋石 御許山のアカガシ林 御許山正参道 和気城跡 吉水寺跡	—
封戸	—	—	—	—	—	—	後山岩屋 石原貝塚 立石貝塚 横田国臣	—



宇佐中学校区の主な文化財位置図 (S=1/60,000、国土地理院発行 1/25,000 地形図に加筆)



国宝 宇佐神宮本殿



国史跡 宇佐神宮境内
国天記 宇佐神宮社叢



国史跡 宇佐神宮境内 (御許山)



重文 木造弥勒仏及両脇侍



県有文 宇佐参宮線 26 号機関車



未指定 石原貝塚出土土偶

(6) 安心院中学校区

【地形等】

安心院小学校区・深見小学校区・佐田小学校区・津房小学校区からなる。

駅館川の上流部にあり九州山地から続く山間部を主体とするが、佐田川、津房川等の河川で谷間が形成されており、安心院小学校区では比較的大きな安心院盆地が広がっている。

【主な文化財等】

由布市や別府市につながる南東側の山間地では、エヒメアヤマ自生地、畳石のオトメクジャク、山蔵のイチイガシ、津房川の動植物化石出土地といった天然記念物が多い。

深見小学校区、津房小学校区には東椎屋の滝の景、龍泉寺の滝の景(通称、福貴野の滝)、仙ノ岩の景が耶馬溪の構成要素となっている。

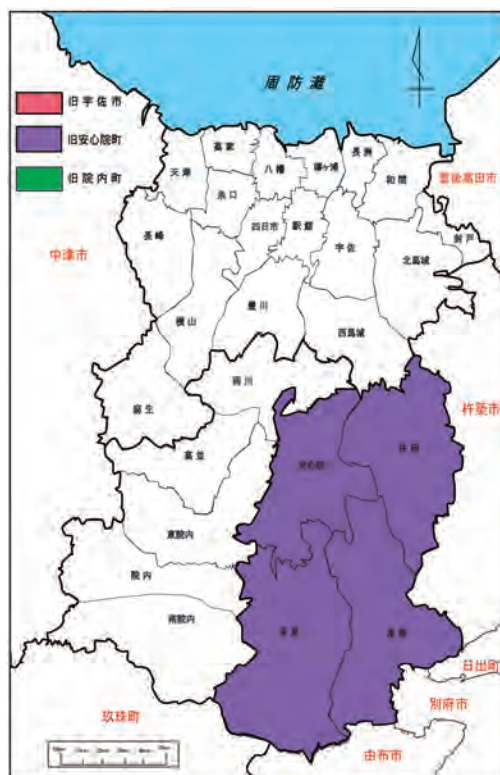
三口田遺跡からは石製の帯飾りが出土しており、『延喜式』に記された安覆駅の推定地の一つとなっている。周辺の丘陵部には宮ノ原遺跡、大平石棺墓群、宗禅寺遺跡、下市百穴等の弥生時代から古墳時代にかけての遺跡や、佐田城跡、龍王城跡、飯田城跡等の中世の山城が集中しており、安心院盆地周辺が古来交通の要衝であったことが伺える。

信仰に関する文化財としては南光寺金剛力士像や檜本磨崖仏、下市磨崖仏、佐田社板碑、大年社板碑、桂昌寺地獄極楽等の仏教関連文化財や、巨石を祀る佐田の京石、三女神社、妻垣神社等がある。

民俗文化財では安心院神楽や庭入りと呼ばれる盆行事等が残っている。

賀来惟熊、賀来飛霞に代表される賀来一族をはじめ、偉人も多数輩出しており、賀来飛霞採葉記や図譜等の記録資料や、墓、顕彰碑等が残る。

近代以降、斜面を利用した養蚕が盛んになるにつれて、鍔絵をもつ住居、商家が多く造られ、中学校区一円に分布する。鍔絵は現在でも新たに造られることがあり、地域の習俗として根付いている。



国名勝 耶馬溪(東椎屋の滝の景)



国名勝 耶馬溪(仙ノ岩の景)

安心院中学校区の主な文化財

小学校区	国指定・選定	県指定・選定	市指定・選定	国選択、登録	県選択	市選択、登録	未指定	展示施設等
安心院	—	石造五輪塔（最明寺） 下市磨崖仏	荘板碑 普賢延命菩薩坐像（神徳寺） 山上文書 妙菴寺明岩鏡照像、 陶製地藏菩薩坐像（妙菴寺） 古荘家住宅 龍王城の図 龍王城跡 妻垣神社奥宮巨石 宮ノ原遺跡 飯田城跡 重松家別邸一棟 安心院神楽 ほか6件	—	—	【登録】 細川幸隆廟所	三女神社 妻垣神社 三口田遺跡 鍔絵	安心院支所 盆地ギャラリー
深見	耶馬溪（龍泉寺の滝の景、仙の岩の景）	畳石のオトメクジャク	光勝寺手洗鉢 大巖寺千手観音立像 助太之墓附宝篋印塔 小嶋家文書 助太之墓附宝篋印塔 今井橋 佐田秀長歌 塔ノ本宝塔 佐田秀墓 鳥越城跡 寒水のムクノキ	—	—	【登録】 白山神社遺跡	大巖寺の木彫 仏群 寒水観音 鍔絵 ハナグリ洞穴	—
津房	耶馬溪（東椎屋の滝の景）	木造金剛力士像 檜本磨崖仏	旦尾板碑 尾立板碑 若宮社楼門 金子自仏作品 矢野文書 若林文書 金竜寺地藏菩薩像 多仏石幢 土肥宝塔 桂昌寺地獄極楽 帆足万里詩碑 東椎屋のイチイガシ エヒメアヤメ自生地	—	—	—	鍔絵 動植物化石出土地	—
佐田	—	佐田社板碑 大年社板碑 山蔵のイチイガシ	西原寺跡宝塔 佐田神社両部鳥居 岩男是命作「シェパード」 大砲模型 帆足万里詩幅 佐田文書 飯田文書 八幡宇佐宮御託宣集 京石 反射炉碑 佐田城跡 賀来惟熊碑 賀来有軒・佐之・飛霞墓	—	—	—	佐田神社 毘沙門橋 毘沙門天像 鍔絵 赤井城跡	—
全域	—	—	庭入り	—	—	—	—	—



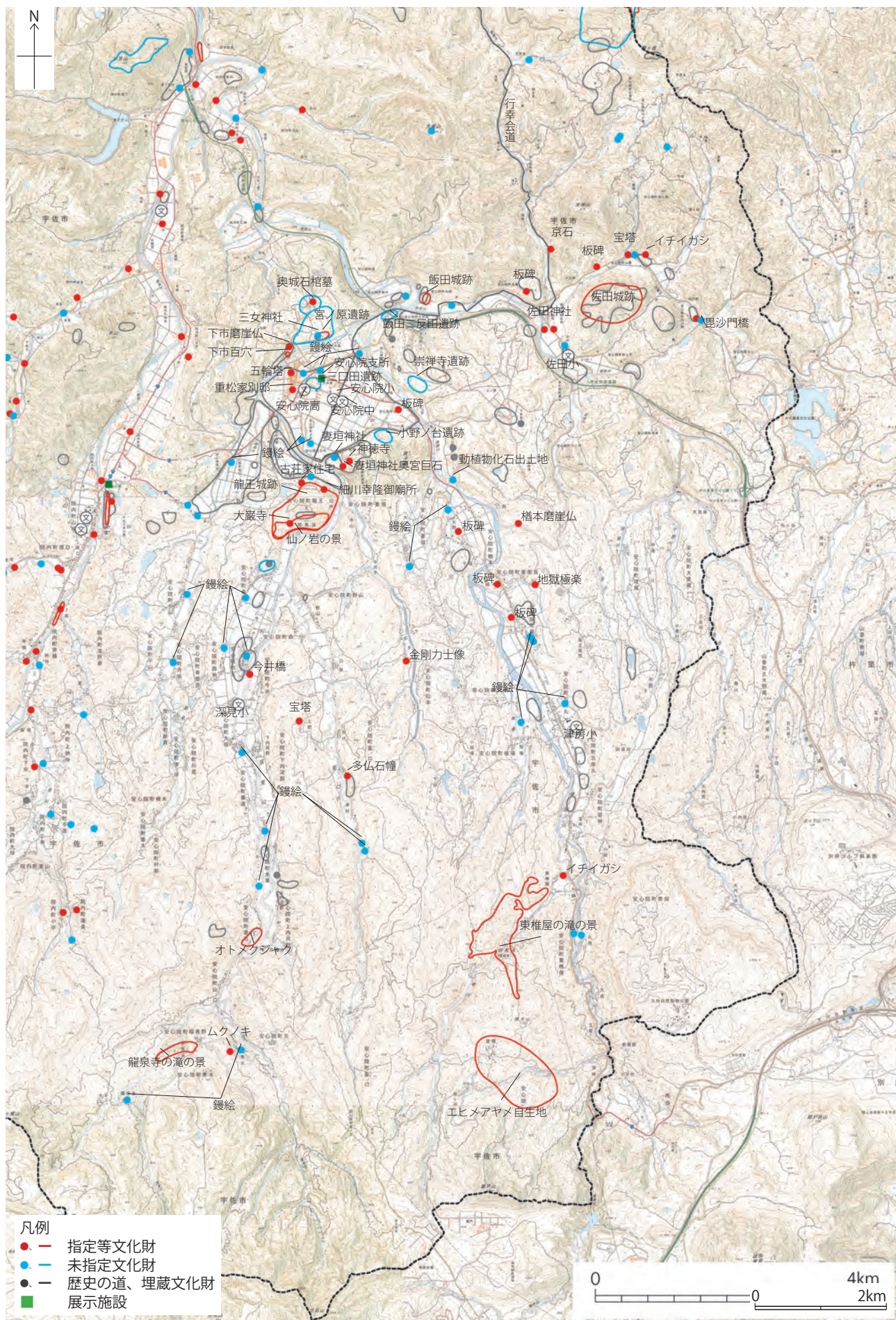
市史跡 重松家別邸



県史跡 檜本磨崖仏



県天記 山蔵のイチイガシ



安心院中学校区の主な文化財位置図 (S=1/80,000、国土地理院発行 1/25,000 地形図に加筆)

(7) 院内中学校区

【地形等】

駅館川の上流部に位置する。恵良川、高並川、日岳川、温見川等の駅館川の支流が急峻な谷間を流れる。

それぞれの河川流域の河岸段丘に集落や水田が形成され、明治時代にふたがわ両川村・高並村・東院内村・院内村・南院内村 5つの村となった。

戦後の統廃合により小学校区は院内北部小学校・院内中部小学校・南院内小学校の3つとなっているが、上記の5つの地域区分は現在でも踏襲されており、まちづくり協議会等の活動範囲となっているためここでもその区分を採用する。

【主な文化財等】

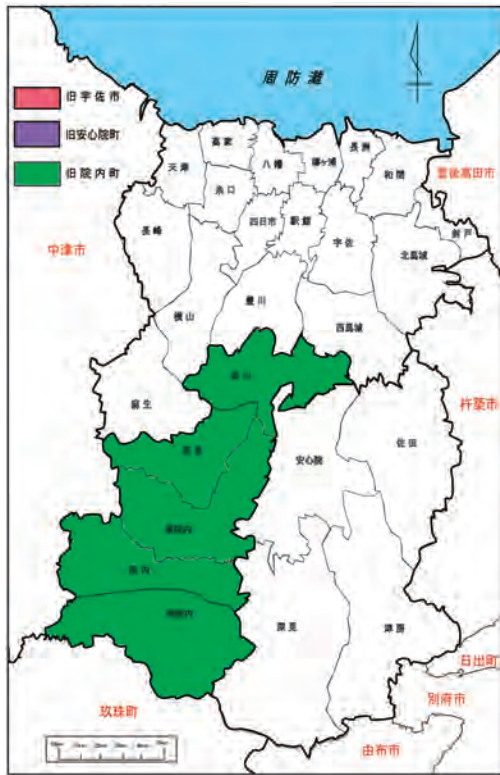
やばけいようけつぎょうかいがん たつきり
 耶馬溪溶結凝灰岩で形成された岩盤が浸食されてできた岳切
 溪谷や西椎屋の滝、余りの滝等の景勝地がある。

南部にある岡川や恵良川の流域では、生きた化石ともいわれるオオサンショウウオが多数生息しており、南院内地区全域がその生息地に指定されている。

信仰関連の文化財として、龍岩寺奥院礼堂の三尊像や小坂地区の塑像不動明王坐像等の仏像や、豊富に産出する安山岩や溶結凝灰岩等の石材で造られた宝塔、国東塔、石幢等の石造文化財がある。また、宇佐宮弥勒寺の初代別当を務めた僧、法蓮に関する伝承地が高並地区に多く残る。

近代になると、院内で採れる石材を利用した石橋が多数築かれ、急峻な谷間を渡ることが容易になり、地域の人びとの交流も広がった。アーチ橋、桁橋をあわせて少なくとも 75 基の石橋が現在でも残されている。これらの石橋の建造は、松田新之助に代表されるような地元の石工が担っており、郷土の偉人の功績も知ることができる。

無形の民俗文化財も多くあり、日岳神楽、十ヶ平神楽^{じゅうがひら}、北山神楽が伝承されている。



重文 木造薬師如来坐像、ほか（龍岩寺）



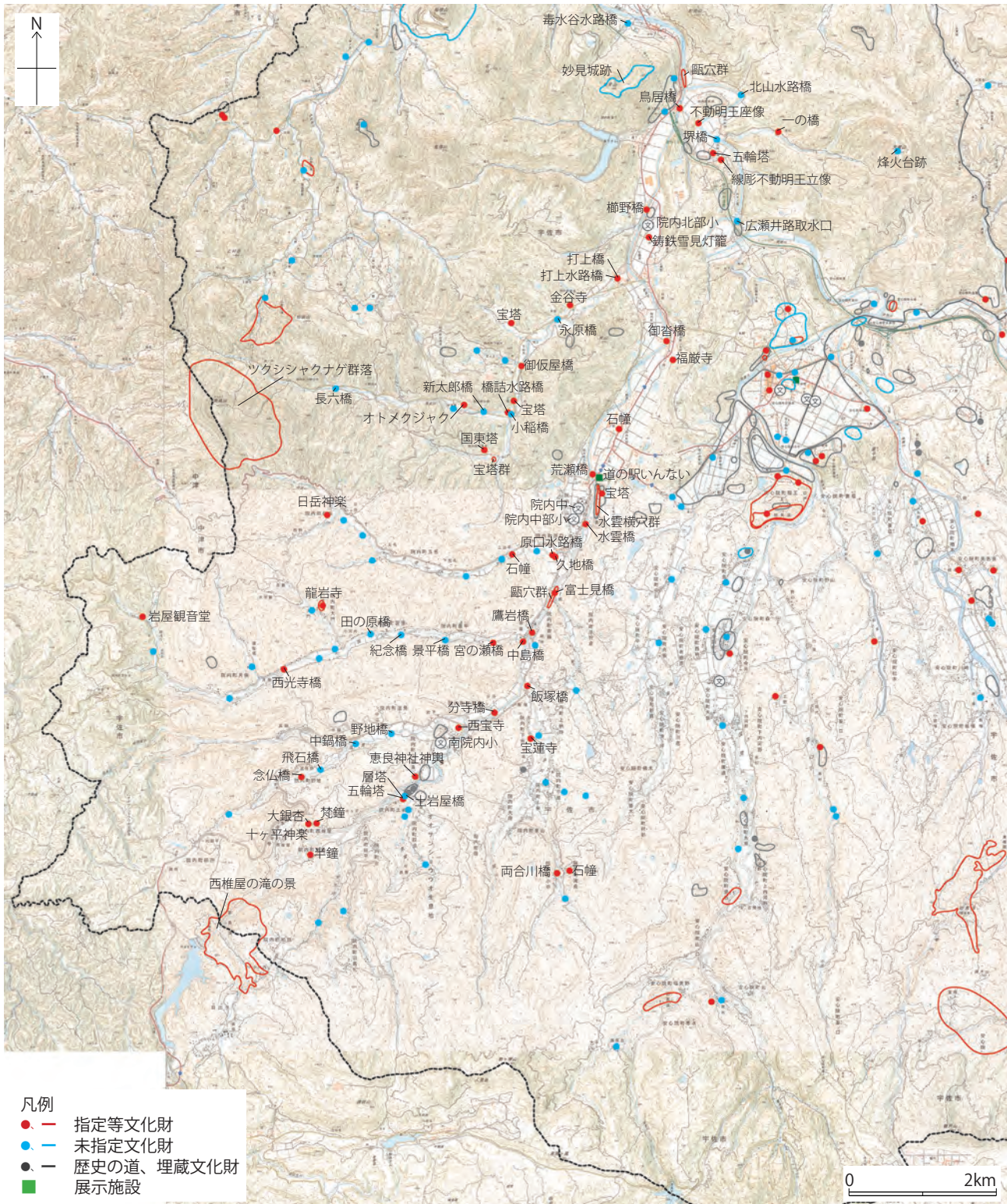
国無民 豊前神楽(日岳神楽)



国特天 オオサンショウウオ

院内中学校区の主な文化財

地区	国指定・選定	県指定・選定	市指定・選定	国選択、登録	県選択	市選択、登録	未指定	展示施設等
両川	—	蓮華寺跡五輪塔 鳥居橋	塑像不動明王坐像 石造線彫不動明王立像 一の橋 杉園家鑄鉄雪見燈籠 駅館川・恵良川の甌穴群 北山神楽	【登録】 櫛野橋	—	【登録】 沖の鍔絵 櫛野の鍔絵	毒水谷水路橋 北山水路橋 堺橋 妙見城跡 広瀬井路取水口 大蔵山烽火台	—
高並	—	鹿嵐山のツクシヤクナゲ群落	岩本家石造宝塔 吉祥寺石造異形国東塔 木造毘沙門天立像、 木造宝冠釈迦如来坐像（金谷寺） 打上橋 塔の原石造宝塔 御飯屋橋 大弓家墓地石造宝塔群 小稲のオトメクジャク	【登録】 橋詰水路橋	—	【登録】 法蓮法器塚	打上水路橋 永原橋 小稲橋 長六橋 新太郎橋 法蓮の伝承ほか	—
東院内	豊前神楽（日岳神楽）	覚正寺支坊石幢 御沓橋	副氏石造宝塔 荒瀬橋 久地橋 教蓮寺六地藏石幢 水雲横穴古墳群 福厳寺閻魔洞	【登録】 水雲橋	—	—	鍔絵 福厳寺羅漢橋 水雲橋 原口水路橋 副城跡 ほか	道の駅いんない
院内	木造阿弥陀如来坐像、 木造不動明王坐像、 木造薬師如来坐像、 龍岩寺奥院礼堂（龍岩寺）	木造十二神将（龍岩寺）	略縁起木版、きざはし、龍岩寺境内（龍岩寺） 定別当岩屋観音堂鰐口 近藤家石造宝塔 西光寺橋 富士見橋 小野家木造十二神将立像 宮の瀬橋	【登録】 鷹岩橋 中島橋	—	—	鍔絵 景平橋 記念橋 田の原橋 岩屋観音焼仏 藤群神社のスギ 岳切溪谷 ほか	—
南院内	オオサンショウウオ生息地 豊前神楽（十ヶ平神楽）	滝貞石幢 銅造厨子入菩薩形立像	木造阿弥陀如来立像、 宝蓮寺読誦石塔（宝蓮寺） 木造釈迦三尊坐像 恵良神社神輿 分寺橋 来鉢の大絵馬 来鉢の半鐘 緒方家石造五輪塔 緒方家石造層塔 大龍寺跡梵鐘 西宝寺本方便法身尊影、西宝寺輪蔵（西宝寺） 飯塚橋 西椎屋大銀杏	【登録】 両合川橋 念仏橋	—	—	鍔絵 野地橋 中鍋橋 飛石橋 土岩屋橋 恵良城跡 両合棚田 ほか	—



院内中学校区の主な文化財位置図(S=1/80,000、国土地理院発行 1/25,000 地形図に加筆)



県有文 鳥居橋



県天記 鹿嵐山のツクシシヤクナゲ群落



県有文 滝貞石幢

第3章 宇佐市の歴史文化の特徴

第1章・第2章で述べたとおり、宇佐市内には人類誕生以前から現代にいたるまで、歴史・自然・生業・人物・伝統芸能といった様々な要素があり、文化財類型は多岐に渡る。宇佐市の歴史文化は、大きく下記の3点が複雑に重なりながら構成されている。

(1) 豊かな自然が生み出した宇佐の暮らしと文化

南北に長く、急峻な山地から伸びる河川とその下流部に形成された広大な宇佐平野が遠浅の周防灘につながるという変化に富む地形は、仙ノ岩や仙岩山の様な奇岩・奇峰、東椎屋の滝や福貴野の滝等を生み出ただけでなく、オオサンショウウオをはじめとする様々な動植物の生息域となっている。

院内地域や安心院地域の山間部では、溶結凝灰岩や安山岩などの地場で産出する石材を使用した石塔、棚田、石橋などが多数造られた。石橋の大部分は現在でも生活道として使用されており、地域に根付いている。近代には斜面を利用した養蚕業が盛んになり、鋳絵をもつ住居も多く建てられた。

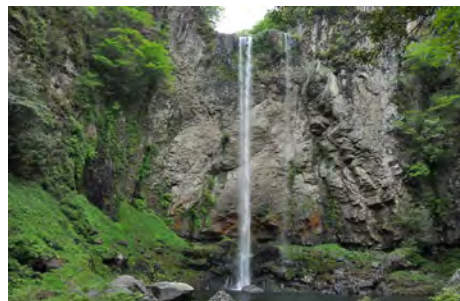
駅館川下流の宇佐平野は、古墳時代以前は海であったと思われるが、古代の辛島井堰の設置や平安時代の平田井路の開削などをととして、広大な水田地へと変化した。一方で、駅館川東側の台地を潤すための広瀬井路の開通は、台地上の人々が求めてやまなかった豊かな暮らしを実現した。広大な水田の奥に御許山、妙見山、稲積山といった信仰の対象となった山々が位置するという宇佐の特徴的な風景は、水路の開削などに携わった数えきれない人々の手によって築かれたものである。

海浜部では、御殿灯籠とも呼ばれる絢爛豪華な据灯籠を使用する長洲地区の盆行事や、豊前海の潮の満ち引きを利用した伝統漁法石ひびの跡などから、漁村の生活や信仰を知ることが出来る。

宇佐の人々がどのような場所に暮らしたかは、近世以降の村絵図に描かれており、地震や日照りといった自然災害、井路から水を引くための村と村の取り決めといった暮らしの様子等、具体的な内容が古文書から読み取れる。

一方で、人々の祈りや習俗については、修験道の流れをくむといわれる豊前神楽や、村ごとの神社の祭といった形で残される。山間部を中心に行われる庭入り等の盆行事は古い形態を残すと考えられており、信仰の変化を考える材料にもなりうる。

広大な平野があるだけでなく、年間を通じて周防灘から安定的に風が吹く宇佐は飛行場としても最適な場所であった。そこに建設された宇佐海軍航空隊は、太平洋戦争末期には特攻隊の訓練も行われ、度重なる空襲で大きな被害を受けた。市内に残る戦争遺構や収集した遺品等の資料からは、戦時下の人々の暮らしや、日常を破壊する戦争を身近に感じ、考えることができる。



龍泉寺の滝の景（福貴野の滝）



オオサンショウウオ



駅館川と平田井路



豊前神楽



宇佐平野と米軍の空襲でできた爆弾池

(2) 境界と交流の地 宇佐

山と海に挟まれた宇佐は、古来より海上・陸上を問わず交通の要衝であった。

弥生時代後期の集落遺跡である別府遺跡^{びゅう}からは、国内で唯一として知られる朝鮮式小銅鐸^{しょうどうたく}が出土した。朝鮮半島から伝来した小銅鐸が、最終的に宇佐の地にたどり着いた理由は定かではないが、人々の交流の結果であることは明白である。

古墳時代以降はさらに活発となり、瀬戸内海を介した交流の拠点の一つとして機能し、畿内や北部九州の勢力等のどちらからも影響を受けていることが小部遺跡や赤塚古墳などの遺跡から見て取れる。

古代になってもその状況は健在で、虚空蔵寺跡^{こくぞうじ}や法鏡寺廃寺跡^{ほうきやうじはいじ}といった8世紀代に成立した古代寺院からは、仏教という先進的な文化を宇佐の人々がいち早く受け入れていた様子がうかがえる。虚空蔵寺跡から出土した埴^{せんぶつ}仏^{なまみほつじ}は、南法華寺(奈良県)出土の埴仏と同型とされる一方で、法鏡寺廃寺跡からは新羅系の軒丸瓦が出土するといったように、国内外の様々な地域から文化が伝わっており、宇佐の文化の複雑性を示している。

695年頃に豊前国が設置され、宇佐は豊前国の最南端に位置するようになった。この頃に成立した八幡神は国家の重大事件にも何度も登場し、やがて国家の守護神として位置付けられ、勢力を拡大した。また、古代の官道である西海道駅路の一部は宇佐を通っており、延喜式には宇佐駅・安覆駅^{あしふ}と記述されており、駅館・安心院といった地名はその名残ともいわれる。

室町時代から戦国時代の動乱期には、豊前と豊後の国境である宇佐は大内氏と大友氏あるいは黒田氏と大友氏といった諸勢力^{みつおかじやう}の争いの場となり、見晴らしの良い山上には光岡城や佐田城、妙見岳城^{みょうけんだけじやう}、龍王城等の山城、平地部には敷田城^{しまだじやう}や時枝城といった館が多数築かれた。

江戸時代には大分県全域で小藩分立となったが、宇佐でも天領・島原藩領・中津藩領・宇佐宮領・時枝領といった様に細かく分けられた。この分立は、近代以降も市町村の区割りや小学校区として一部が残るなど、大きな影響があった。一方で、近年では小学校区単位での地域づくりが推進される等、地域住民のまとまりや自治会の取り組みなどに引き継がれている。



小部遺跡



赤塚古墳と奥に見える豊前海



法鏡寺廃寺跡と駅館川



光岡城跡



四日市陣屋門

(3) 神と仏の宇佐八幡文化

様々な文化が混じりあいながら 8 世紀初頭に成立した八幡神への信仰や神仏習合の思想を基に、宇佐神宮や弥勒寺の仏教徒が国東半島六郷満山等へ進出していく過程で生み出された、宇佐・国東を中心とした文化は【宇佐八幡文化】と呼ばれる。

宇佐八幡文化は、日本・朝鮮・中国交通における瀬戸内航路の中継基地であった宇佐の地に生まれたものであり、畿内・朝鮮・中国のいずれでもない独自のものとして、西国を代表する文化と評価されることもある※¹。

725 年に現在の地に社殿が建てられて間もなく、神宮寺である弥勒寺が境内に造営され、神と仏が一体となった神仏習合を先導し続けた。宇佐神宮で現在でも行われる仲秋祭(放生会)や鎮疫祭(御心経会)等の祭事では僧侶らが読経する場面があり、八幡神のもつ仏神という性格を示している。

宇佐八幡宮神託事件(道鏡事件)や東大寺の大仏建立といった国家の重大事件の際には八幡神の出した託宣が重要視され、国家の守護神としての地位を確立していく中で信仰を全国的なものへと拡大した。日本の神社の中で最も多いといわれるのが八幡神を祭る神社であり、その総数は 4 万社を超えるとされる。

御許山は弥勒寺の初代別当であった法蓮をはじめとする僧侶の集団が修行したことをきっかけに、9 世紀ごろから天台宗の修行場として機能し、国東半島の六郷満山の奥の院としても発展した。

宇佐神宮と御許山以外にも、八幡信仰までにたどった鷹居神社や小山田神社をはじめとする宇佐八箇社(薦神社は中津市、田笛社は豊後高田市に所在)や、百体神社や和間神社等の放生会関連の神社、宇佐神宮周辺の寺院、勅使街道や放生会道といった信仰の道等、八幡神への信仰の成立と発展を示す様々な文化財が宇佐市内だけでなく、国東半島や旧豊前国の広範囲に分布する。

宇佐は八幡神の成立という歴史の舞台となった土地である。御許山を含む宇佐神宮の神域に誕生した八幡神が仏教と融合し八幡大菩薩となり、神と仏の両方の性格を有する思想として、平安時代には国東半島にも広まった。

宇佐八幡文化に関連する数々の文化財は、宇佐だけでなく豊前・豊後の人びとによって生み出された物であり、その影響は宇佐市のみならず大分県や九州、ひいては日本各地に及んでいる。



宇佐神宮



木造薬師如来坐像(大善寺)



宇佐神宮の神輿



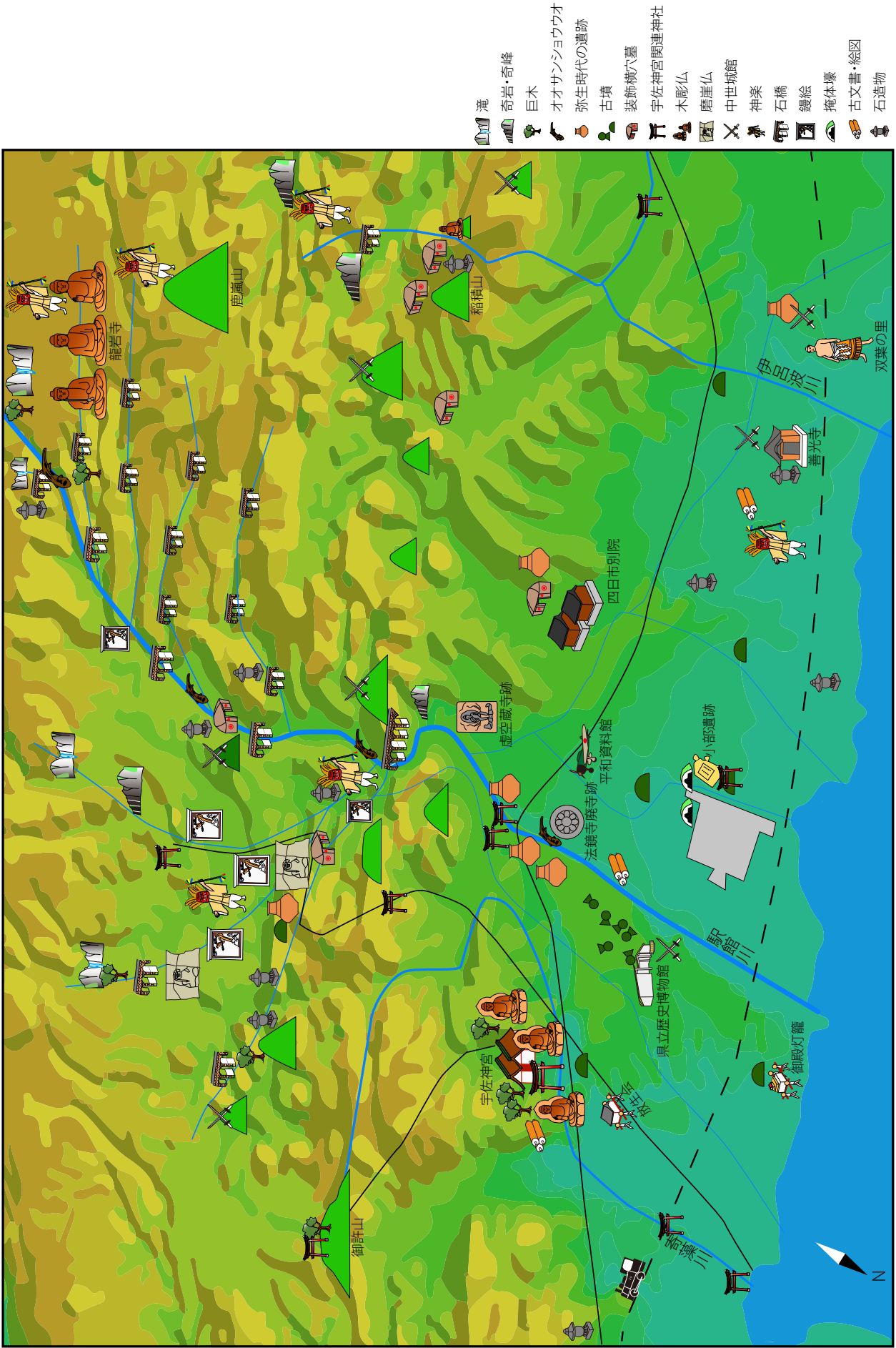
宇佐神宮周辺の町なみと勅使街道



小山田神社

※1 中野幡能 1976「八幡文化の歴史的背景」『八幡文化の秘宝』新人物往来社

宇佐の歴史文化のイメージ



第4章 文化財の保存・活用に関する現状

第1節 文化財の調査に関する現状

(1) 市町史編纂時の調査

現在の宇佐市を構成する旧宇佐市・旧安心院町・旧院内町では、それぞれで市史・町史(町誌)が編纂された。有形文化財、社寺等についてはいずれの市町でも悉皆的な調査が行われたが、民俗文化財等については掲載されていないか、部分的な記載にとどまっている等記述に差異がある。最も新しい『院内町史』でも昭和58(1983)年刊行であり、平成以降の研究成果等は反映されていない。新たな市史の刊行等は未定である。

合併以前に宇佐市史の普及版として『宇佐の歴史』(1976)や『宇佐ふるさとの歴史』(2020)が刊行されており、平成27年には市町村合併10年を記念して、安心院地域と院内地域の歴史等も含めた『新・宇佐ふるさとの歴史』が刊行された。

(2) 大分県、宇佐市が実施した調査

①有形文化財

【建造物】

文化庁の実施した『近代遺跡調査報告』(2018年刊行。以下、刊行を省略)では、院内の石橋群が報告された。大分県が実施した調査として、『大分県の近世社寺建築』(1987)、『大分県の近代化遺産』(1994)、『大分県の近代和風建築』(2013)、『大分県の中世石造物』(全4冊、2013-2017)等の報告書が刊行されており、それぞれのテーマに応じて未指定文化財を含む主要建造物等の調査が行われた。

院内地域に残る石橋は宇佐市と地域住民協働で詳細に調査され、管理用の台帳が作成された。一方で、宇佐地域と安心院地域の石橋では詳細調査が実施されていない。

宇佐海軍航空隊に関する遺構の整備に向けて、『宇佐海軍航空隊跡保存整備計画書』を策定し、未指定文化財を含む戦争遺構の把握を行ったが、安心院地域、院内地域は対象外であったため把握ができていない。

【絵画、彫刻、工芸品】

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館(現、大分県立歴史博物館。以下、風土記の丘資料館)が実施した調査成果に基づき、『宇佐国東の寺院と文化財』(1990)が刊行され、市内の寺院が所蔵する仏像、仏画、仏具等が把握された。

絵画としては、市町史の編纂時に把握された資料に加えて、蓑虫山人絵日記(未指定)の複製本及び解説書を宇佐市が刊行した(1988、1993)。

彫刻として中世以前の仏像等については把握されているが、近世以降の文化財については把握調査等も未実施である。

工芸品の内、刀剣や神社の神輿等については指定文化財は把握できているが、未指定文化財の把握調査等は実施していない。

【書籍、典籍、古文書等】

昭和27(1952)年から同59(1984)年まで継続的に大分県教育委員会から刊行された『大分県史料』(全37巻)の内12巻が宇佐市内の文書資料に関する内容で、宇佐神宮関連文書、滝貞文書、恵良文書、香下文書、佐田文書、飯田文書、廣崎文書、緒方文書、元重文書、清水寺文書等の文書が収録された。

宇佐市が刊行した『宇佐近世史料集』(全5巻)には、山口家文書、橋津家文書、田口家文書、中島家文書が翻刻、収録された。

【考古資料】

指定文化財以外の考古資料についての把握調査、発掘調査で出土した重要遺物リストの作成が必要である。重要遺物だが、報告書が刊行されていない資料も多数ある。

【歴史資料】

宇佐神宮関連の絵図等は詳細調査を実施し、『史跡宇佐神宮境内保存管理計画書』(1992)の中で製作年代等が記載されたが、絵図に特化した報告書等は未刊行である。

賀来飛霞^{ひか}図譜、賀来飛霞採葉記(ともに市指定)は安心院町教育委員会により目録作成や詳細調査が行われ、大分県先哲資料館が『大分県先哲叢書 賀来飛霞資料集』(2021)として刊行された。

未指定の絵図等については、宇佐地域では一定程度把握調査が行われているがリスト化されておらず、安心院地域と院内地域では町史編纂時以降の把握調査等は未実施である。

【美術工芸品全般】

国・県指定の有形文化財(美術工芸品)では、県教委が主導して3年を目途に所在地、所有または保管状況等の確認調査として現地確認や聞き取り等を実施している。直近では、令和4(2022)年度に実施した。

市指定文化財等については、市教委と宇佐市文化財調査委員とで、有形文化財や記念物を対象として3年から4年を目途に上記と同様の現状確認調査を実施している。直近では令和2(2020)年に実施した。

②無形文化財

宇佐神宮御神能は下記の民俗文化財ともに調査され、報告されたほか、記録映像を平成14(2002)年に作成した。未指定の無形文化財等についての把握調査等は未実施である。

③民俗文化財

【有形】

宇佐神宮御神能衣裳類については調査を実施したが報告書は未刊行である。未指定文化財を含む有形民俗文化財の把握調査等は実施していない。

【無形】

文化庁が実施した『大分県の^{こてえ}鍔絵習俗』についての報告書では、宇佐市全体で220件の鍔絵が把握された。大分県実施の調査として『大分県の民俗』(1965)、『安心院の庭入り』(1981)等の報告書や、風土記の丘資料館実施調査として『大分県の祭礼行事』(1995)等が刊行された。

記録作成が必要な文化財として長洲の初盆行事(国選択)があり、記録映像は作成したが、聞き取りや文献調査等の詳細調査は未実施であり、課題である。

④記念物

【遺跡】

発掘調査が実施され、報告書が刊行されている遺跡は川部・高森古墳群^{こべ}、小部遺跡、宇佐神宮境内(弥勒寺地区)、法鏡寺廃寺跡(いずれも国指定)、野口遺跡^{ひじりみち}、樋尻道遺跡^{みょうらくじ}、妙楽寺経塚(いずれも県指定)、宇佐海軍航空隊関係爆弾池(市指定)等がある。

宇佐神宮境内(弥勒寺以外、国指定)、上原遺跡^{うえのはる}、京徳遺跡^{きょうとく}、光岡城跡(いずれも県指定)、城井一号掩体壕^{じょうい}、宇佐海軍航空隊落下傘整備所、宇佐海軍航空隊耐弾式コンクリート造建物(いずれも市指定)等では、発掘調査報告書の刊行が必要である。

上記の内、法鏡寺廃寺跡は現在整備工事実施中であり、宇佐海軍航空隊関連の史跡は保存整備工事が完了しており、整備報告書の刊行も必要である。

大分県が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書は、大分県教育委員会から昭和 28(1953) 年以降継続的に刊行されている。市内の遺跡についても、県立高校や東九州自動車道(宇佐別府道路)等の建設に伴う発掘調査が行われ、^{だいのほる}台ノ原遺跡、^{はんだにたんた}飯田二反田遺跡、笠松遺跡等の報告書が刊行された。未指定文化財を含む分布調査としては『大分県の装飾古墳』(1995)、『大分県の中世城館』(全3冊、2002-2003)『大分県の近世遺跡』(2022)の他、歴史の道調査として『^{ぎようこうえ}行幸会道』、『^{ほうじょうえ}放生会道』、『峰入りの道』、『勅使街道』(いずれも1981)がそれぞれ報告書が刊行されており、勅使街道については『宇佐大路』(1991)として風土記の丘資料館も追加調査を実施した。

宇佐市(合併以前の旧宇佐市、旧安心院町を含む)が実施した発掘調査報告書(概要報告書含む)は、令和4(2022)年9月時点で90冊の報告書が刊行されている。一方で、発掘調査を実施したにも関わらず、報告書が刊行できていない遺跡も多数あり、計画的な刊行が必要である。

【名勝地】

^{やばけい}耶馬溪の保存管理方針を策定するための調査を大分県教育委員会が実施し、『名勝耶馬溪保存管理計画報告書』(2011年)が刊行された。

【動物・植物・地質鉱物】

令和2(2020)年から同3(2021)年にかけて『大分県の天然記念物』(全3冊)が刊行されており、未指定文化財を含む天然記念物の調査結果が報告された。

宇佐市では、オオサンショウウオの生息状況等を確認するための調査を毎年実施している。平成28(2016)年には『特別天然記念物オオサンショウウオ及び天然記念物オオサンショウウオ生息地保存管理計画書』を刊行した。オオサンショウウオの生息状況調査や幼生調査等は計画書刊行後も継続している。平成28年から同29年にかけて、宇佐神宮社叢の植生調査、大径木や危険木の調査等を実施し、報告書として刊行した。前述した史跡の保存活用計画と合わせて保存・活用の方針を定めた。

⑤文化的景観

文化庁が刊行した『農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告書』(2005)では、院内町石橋群、両合棚田、安心院町の農村集落と鍔絵が調査対象となった。

「宇佐市景観計画」ではさらに、歴史的な景観を形成する地区として四日市門前町地区、宇佐神宮周辺地区、宇佐海軍航空隊周辺地区、豊前善光寺周辺地区等が景観区域とされたが、それぞれの景観を構成する要素の詳細調査等は未実施である。

⑥伝統的建造物群

宇佐市内では伝統的建造物群となりうるような地区の有無を把握する調査は未実施である。

(3) 研究者・研究機関・所有者・民間団体等による調査

①個人による調査

宇佐市における学術的な考古資料の報告や発掘調査として最古の事例は、大正年間の中山平次郎による弥勒寺跡の瓦に関する報告や、梅原末治によって行われた赤塚古墳の報告が該当する。

文化財の豊富な宇佐市では尾立維孝、大隈米陽、小野精一、中野幡能、入学正敏、中山重記、今戸公德等の研究者・郷土史家が多数輩出され、それぞれが歴史や文化に関する著書、石造文化財に関する悉皆的な調査成果、古文書の翻刻本等を残した。現在でも、宇佐神宮と八幡信仰、仏教美術、四日市東西別院、近世水路、宇佐海軍航空隊、宇佐神宮社叢、オオサンショウウオ等の様々な文化財を対象として、市内外を問わずプロやアマチュアの研究者・郷土史家による研究が行われている。

②大学、県外の博物館等の研究機関による調査

昭和 20(1945) 年代から同 40(1965) 年代には、大分県から委託を受けた別府大学等による弥勒寺跡、法鏡寺廃寺跡、虚空蔵寺跡、東上田遺跡等の調査が実施された。

天福寺奥院の仏像群は、昭和 50(1975) 年に東京国立文化財研究所が詳細調査を実施し、同研究所の研究紀要で詳細が報告された。

安心院動物化石群の発掘調査は滋賀県立琵琶湖博物館主導で実施され、2冊の報告書が刊行された。

豊前神楽は福岡県と大分県の一部にまたがる地域に残る神楽であるため、九州歴史資料館が主体となって調査が実施され、報告書が刊行された。

③社寺・民間団体等による調査

【社寺史】

宇佐神宮に関連する古文書、由緒等は非常に多いが、それらを集成、時系列順に翻刻して掲載した『宇佐神宮史』(全 16 巻、1974-2007) が宇佐神宮から刊行され、寺院の由緒や文化財等をまとめた寺史として『宇佐宮大楽寺』(1987)、『豊前森山教覚寺の歴史』(2007)、『豊前善光寺史』(2009) 等がそれぞれの所有者により刊行された。

【民間団体、地域住民】

宇佐の文化財を守る会が刊行する会報誌『宇佐の文化』には、地域の地名、歴史、絵図の解説等が掲載され、令和 5(2023) 年 1 月時点で 126 号が刊行され、今後も刊行される予定である。

豊の国宇佐市塾は、双葉山や麻生豊、南一郎平、清瀬保二といった郷土の偉人や宇佐海軍航空隊に関する資料や証言を収集した『宇佐細見読本』を刊行し、近年は米国から購入した空襲映像の解析等も行っている。

大分県建築士会宇佐支部では、四日市西別院の建造物基礎調査、有形文化財建造物の被災に備えたデータベースとマップの作成、宇佐海軍航空隊関連遺構の詳細調査、飛行場全体や格納庫をはじめとする居住施設の復元案及び模型作成等を実施した。

近年、宇佐市が取り組みを推進している小学校区単位での地域コミュニティ組織(まちづくり協議会)では、郷土に残る文化財のリストアップ、マップ作成、郷土史の刊行等を進める団体もある。

(4) 文化財の把握状況等

前述した各種調査により、現時点での文化財の把握状況の現状をまとめたのが以下の表である。文化財の類型を基本として、詳細調査等が行われているものは個別欄を設定し、合併以前の旧市町を単位とした地域ごとに状況を記載した。

表 文化財調査状況一覧

凡例 ◎：未指定を含むリスト作成等の把握調査（以下、把握調査）を実施し、把握した文化財の大部分で詳細調査実施済み
○：把握調査を実施し、詳細調査を一部の文化財で実施済み
☆：把握調査は実施していないが、一部の指定等文化財について詳細調査を実施
△：把握調査のみ実施
×：把握調査も未実施

文化財の種類と分類				調査状況			現状
				宇佐	安心院	院内	
有形文化財	建造物	建築物	社寺	○	○	○	・未指定文化財を含む把握調査は市町史編纂時に実施済み ・詳細調査は主要社寺のみ実施 ・宇佐神宮の西大門、南中楼門等の詳細調査が必要である
			住宅等	○	○	○	・県教委が近代和風建築の把握調査、詳細調査実施済み
		土木 構造物	石橋	△	△	◎	・院内地域では定期点検等も実施しているが、宇佐地域・安心院地域では所在の把握にとどまっており、具体的な調査等は未実施のことが多い ・宇佐・安心院地域の石橋について台帳作成等が必要である
			戦争遺構	○	×	×	・宇佐海軍航空隊の遺構は一部で詳細調査を実施済みだが、それ以外の遺構については未調査 ・安心院・院内地域では把握調査も未実施 ・宇佐海軍航空隊関連以外の戦争遺構に関する把握調査等が必要
			水路	○	×	△	・平田井路、広瀬井路等の把握調査のみ実施
		石造物		◎	◎	○	・県教委が中世までの石造物は把握調査実施済み
	美術工芸品	絵画		○	△	△	・未指定文化財を含む把握調査は市町史編纂時に実施済み
		彫刻		○	○	○	・寺院の所蔵する仏像等について、未指定文化財を含む把握調査を実施済み ・一部重要資料は詳細調査実施済み
		工芸品		☆	△	△	・寺院の所蔵する仏像等について、未指定文化財を含む把握調査を実施済み
		書籍・典籍		○	△	△	・指定文化財を含む把握調査は県史、市町史編纂時に実施済み
		古文書		○	○	○	・把握調査を実施後、重要資料は翻刻されて書籍化している
		考古資料		△	△	×	・宇佐、安心院地域では発掘調査を実施したが、未報告の資料が多い ・院内地域では発掘調査件数が少なく、把握が不十分である ・発掘調査報告書の刊行が必要である
		歴史資料		○	☆	△	・宇佐地域、院内地域では把握調査実施済み ・安心院地域では絵図等の把握調査が未実施だが、賀来飛霞関連資料は目録作成、翻刻等が行われている

凡例 ◎：未指定を含むリスト作成等の把握調査（以下、把握調査）を実施し、把握した文化財の大部分で詳細調査実施済み
○：把握調査を実施し、詳細調査を一部の文化財で実施済み
☆：把握調査は実施していないが、一部の指定等文化財について詳細調査を実施
△：把握調査のみ実施
×：把握調査も未実施

文化財の種類と分類		調査状況			現状	
		宇佐	安心院	院内		
無形文化財		☆	×	×	・把握調査は未実施 ・宇佐神宮御神能は記録映像を作成済み ・安心院、院内地域は該当なしのため調査未実施	
民俗文化財	有形の民俗文化財	☆	×	×	・未指定文化財の把握調査は未実施	
	無形の民俗文化財	習俗等	△	○	○	・鍔絵、安心院の庭入り、院内地域の習俗等は調査が実施済み ・長洲の初盆行事について調査が必要である ・安心院、院内地域でも習俗等の追加調査は未実施
		祭事等	○	○	○	・調査報告書作成済み ・宇佐神宮関連の祭事については詳細調査が実施された
		神楽	◎	◎	◎	・福岡県教育委員会が把握調査、詳細調査を実施済み
記念物	遺跡	○	○	△	・未指定文化財を含む把握調査は実施済み ・宇佐、安心院地域では発掘調査を実施したが、未報告の資料が多い ・院内地域では発掘調査件数が少なく、詳細調査が不十分である	
	名勝地	☆	☆	☆	・県教委が名勝耶馬溪で詳細調査を実施済み ・未指定文化財の把握調査は未実施	
	動物	△	△	○	・大分県教委が把握調査済み ・オオサンショウウオの詳細調査を毎年実施している	
	植物	○	△	△	・大分県教委が把握調査済み ・宇佐神宮社叢の詳細調査実施済み ・宇佐神宮社叢のモニタリングが必要である ・御許山のアカガシ林について詳細調査が必要である	
	地質鉱物	△	○	△	・大分県教委が未指定文化財の把握調査済み ・安心院動物化石は報告書作成済み	
文化的景観		×	○	○	・安心院地域、院内地域の一部で調査実施 ・宇佐地域では景観要素等の調査が未実施	
伝統的建造物群		×	×	×	・把握調査未実施	
その他（地名・伝承）		×	×	×	・把握調査未実施	

第2節 文化財の保存に関する現状

(1) 文化財保護法の対象となる文化財の現状

①有形文化財

【建造物】

市内で歴史的な建造物が最も集中するのは宇佐神宮の境内地であり、宇佐神宮本殿（国宝）や北辰神社・南中楼門・西大門・高倉・呉橋（いずれも県指定）の他にも、未指定の社殿や門等多数の建造物が史跡の構成要素となっている。

平成25年から平成27年にかけて、宇佐神宮本殿の屋根桧皮葺替・塗装塗替え・錆金具修理等の大修理が行われた。境内にある社殿等については随時修理を行っているものの、建造物の数が多く、桧皮葺屋根の老朽化や塗装の退色等の経年劣化が進んでいる。

宇佐神宮に次いで指定等文化財の建造物が多いのは四日市地区である。東別院では、平成24年（2012）度から同27（2015）年度にかけて、本堂（国登録）の修理が行われた。一方で、西別院でも本堂をはじめとする建造物で老朽化が見られるが、修理等には至っていない。

この他に、善光寺本堂（国指定）や古荘家住宅（市指定）等の建造物では部分修理等が実施されたものの、財政面での問題等があり解体修理や耐震補強等の工事は未実施である。

院内地区に75基が集中する石橋群について、宇佐市都市計画課と地域住民が協働して台帳、点検や保守に関するマニュアルを作成し、2～3年を目途に定期点検を実施して石橋の健全度等を確認している。なお、現状は目視と写真記録による点検だが、必要に応じて3次元計測等の手法も必要と考えられる。

市内の各所に分布する石造物では、表面の風化やコケの繁殖等が進行しているものもある。多角的に写真を撮ることで3次元モデルを作成するフォトグラメトリー等の技術を使用しながら、形態・碑文等についての記録を作成しておくことが重要である。

【美術工芸品】

大分県立歴史博物館と宇佐神宮では、温湿度管理のできる収蔵庫や展示室で保管されている。刀剣は定期的な手入れが不可欠であるが、取扱いのできる人材が限られていることは将来的な懸念材料である。

寺院が所蔵する仏像や個人所有の古文書については、定期的に所有状況や状態の確認を実施しており、今後も継続することが重要である。



国宝 宇佐神宮本殿の修復工事



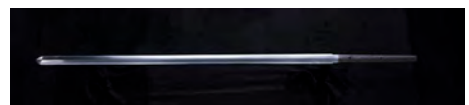
県有文 宇佐神宮西大門修理のための調査



市有文 古荘家住宅



石橋の定期点検



重文 白鞘入剣

②無形文化財

宇佐神宮御神能^{ごしんのう}（県指定）は毎年 10 月に宇佐神宮で実施されている。宇佐神宮御神能保存会等による継承への取り組みも行われているが、後継者の育成が課題である。

③民俗文化財（有形）

宇佐神宮能衣裳類（県指定）や御許山茅刈入許可証（市指定）は美術工芸品と同様、宇佐神宮の収蔵庫で保管されている。

東光寺五百羅漢や庚申塔（ともに市指定）の様な石造文化財については詳細調査は行われていない。

④民俗文化財（無形）

神楽の継承団体は市内に 6 社（日岳神楽、十ヶ平神楽、北山神楽、麻生神楽、高家神楽、安心院神楽）があり、この他に小学校の課外活動として子ども神楽を行っている学校もある。コロナ禍で村祭り等が実施されない場合もあり、奉納神楽等の披露の場が縮小していた。令和 4 年には村祭り等も行われつつあるが、継承への影響は今後も注視する必要がある。

宇佐神宮の御田植祭^{おたうえ}、放生会^{ほうじょうえ}、鎮疫祭^{ちんえきさい}といった祭事は毎年実施されているが、コロナ禍の影響を受けて規模縮小した部分もある。なお、放生会については文化庁の Living History 事業の補助を受けて、室町時代の放生会を再現する試みも実施され、高精細映像等で記録が行われた。

市内一円に分布し安心院地域に特に集中する鰻絵^{こてえ}は個人住宅に付属する装飾であり、家屋自体の老朽化や所有者の高齢化・不在、台風等の自然災害による剥落等による劣化も課題だが、家屋の解体時に取り外して保存修復の上、保管されているものもある。

長洲^{ながす}の初盆行事（国選択）では、御殿灯籠^{ごてんどうろう}とも呼ばれる豪華絢爛な灯籠を用いた行事が今でも行われているが、灯籠の制作者が一団体しかおらず、継承等について懸念がある。また、詳細な調査は行われていないため、記録作成等が必要である。

安心院地区や院内地区で行われる初盆行事「庭入り」については大分県教育委員会が調査を行った。近年は、少子高齢化等の影響もあり行わない集落も増えつつある。

民俗文化財全般に言える課題として、少子高齢化により行事等が行われなくなっているものもあり、記録作成等が必要である。

⑤記念物

【遺跡】

史跡宇佐神宮境内の大部分は宇佐神宮の境内地や宮迫地区住民の居住地、国有林等であり、史跡内建造物の老朽化、宮迫地区や御許山地区の僧坊跡の石垣の損傷等、様々な課題がある。それら



県指定無形 宇佐神宮御神能



市指定有民 五百羅漢



市指定無民 麻生神楽



県選択無民 宇佐神宮の放生会



安心院地区の鰻絵

の課題を把握し、今後の保存・活用の方針を決定するために、『史跡宇佐神宮境内・天然記念物宇佐神宮社叢保存活用計画』を策定した。

史跡を保護するために公有化したのは、川部・高森古墳群・法鏡寺廃寺跡・小部遺跡（いずれも国指定）、上原遺跡・野口遺跡・樋尻道遺跡・京徳遺跡・光岡城・榎本磨崖仏・下市磨崖仏（いずれも県指定）、城井一号掩体壕・高居地下壕・宇佐海軍航空隊関係爆弾池（いずれも市指定）等である。

法鏡寺廃寺跡は史跡指定地の85%以上が公有化済みで、『史跡法鏡寺廃寺跡保存管理計画』や『史跡法鏡寺廃寺跡整備基本計画』等に基づき、現在史跡整備を実施中である。史跡整備完了後には、整備報告書の刊行が必要である。

小部遺跡（国指定）は指定地の大部分が民有地であり、現在公有化に向けての取り組みを進めている。公有化や整備等も視野に入れた保存活用計画の策定が必要である。

城井一号掩体壕をはじめとする宇佐海軍航空隊の関連遺構は、未指定の遺構も含めて『宇佐海軍航空隊保存整備計画』を策定しており、第3節で後述するように遺構整備を実施しているが、整備報告書が刊行できていないため、報告書の作成が必要である。

民有地内にある史跡は、葛原古墳・四日市横穴墓群（ともに国指定）、凶首塚古墳・虚空蔵寺一号窯跡・切寄瓦窯跡（いずれも県指定）、桂昌寺跡地獄極楽・龍王城跡・西貝神社・福厳寺閻魔洞・龍岩寺境内・敷田城跡（いずれも市指定）等がある。所有者または地域住民による管理が行われているが、高齢化や人口の減少等により管理が難しくなりつつある史跡もある。

歴史の道について、大分県教育委員会が「六郷満山峰入りの道」についての調査等を実施した。御許山正参道については、林道として利用されている舗装道と登山道として利用される未舗装道等で構成されている。御許山にある六坊跡付近の道では石畳等も敷かれているが、石材の抜けやズレ等も大きく、記録作成が必要である。

【名勝地】

耶馬溪として市内の7箇所が指定されており、大分県が『名勝耶馬溪保存管理計画報告書』（平成23年策定）に方針等が明記された。樹木の繁茂により岸壁が見えなくなる等、景観の悪化が問題となっている。

【動物・植物・地質鉱物】

オオサンショウウオ（国特別）とオオサンショウウオ生息地（国指定）では、生息状況等の確認のために、毎年調査を実施している。また、『特別天然記念物「オオサンショウウオ」及び天然記念物



記念物の保存活用計画書等



国史跡 法鏡寺廃寺跡



市史跡 宇佐海軍航空隊関係爆弾池



国名勝 耶馬溪（仙ノ岩の景）



御許山正参道

「オオサンショウウオ生息地」保存管理計画』で保存管理方針等を示している。一方で、オオサンショウウオの死亡個体等が発見される場合もあり、その際は死体を回収し、剥製や骨格標本の制作、CTスキャンによる3次元モデル作成等を実施している。

天然記念物指定を受けている植物では、豪雨や強風等による枝折れ、転倒等が生じる場合がある。平成3(1991)年に発生した台風19号で宇佐神宮社叢の樹木が多数倒れて甚大な被害が発生した。この他にも、豪雨や強風で山蔵のイチイガシの枝折れや、宇佐神宮境内での大径枝の落下等が発生している。

宇佐神宮社叢の管理については、史跡と天然記念物の双方を保存・活用するために前述の保存活用計画の中で一体的に検討し、ゾーニングによる樹木等の管理方針を定めた。

(2) 文化財保護法の対象外の文化財の現状

①地名・伝承

『古事記』・『日本書紀』に記された神武天皇東遷時の一柱騰宮については、戦前に国威発揚の一環で推定された物である。戦後に詳細な調査等を行われていない。

『延喜式』に登場する宇佐駅の推定地である別府遺跡・瓦塚遺跡では発掘調査で大型掘立柱建物や金銅製帯飾りが出土し、安覆駅推定地の三口田遺跡からは石製帯飾りが出土している。別府遺跡・瓦塚遺跡については報告書が刊行されているが、三口田遺跡は報告書の刊行が必要である。

②文化財を構成要素に含む文化庁以外の認定制度

【世界かんがい施設遺産】

世界かんがい施設遺産である平田井路と広瀬井路は、認定前に既存の水路と古文書や絵図の記録との照合等の調査を実施した。

どちらの水路も近現代にコンクリート製の水路となっているが、取水口や分水といった主要経路は築造当時から変わっていないことが明らかとなった。



オオサンショウウオの3Dモデル



瓦塚遺跡と三口田遺跡から出土した帯飾り



平田井路の分水



広瀬井路取水口

第3節 文化財の活用に関する現状

(1) 普及・啓発・情報発信

【史資料の公開・提供等】

刊行した調査報告書等を基に、市民や研究者、研究機関、マスコミ等からの問合せや資料の閲覧等の要望にも対応している。

【学校教育・生涯学習・企業研修等】

宇佐市教育委員会や大分県立歴史博物館では、宇佐海軍航空隊の歴史や宇佐に残る戦争遺構、平田井路・広瀬井路等のかんがい施設遺産、オオサンショウウオ、郷土出身の偉人の功績といった様々な内容について、小中学校等の地域学習や公民館等で開催される高齢者学級、民間団体や市内企業による研修等に際して講師の派遣等も実施している。

【博物館・展示施設等】

文化財等に関する展示施設として、大分県立歴史博物館、宇佐市平和資料館、双葉の郷、宇佐神宮宝物館等がある。

それぞれの施設で企画展等が開催され、普及啓発に大きな役割を果たしている。なお、宇佐市平和ミュージアム（仮称）についても建設を推進しているが、物価や人件費の高騰や新型コロナウイルス感染流行（以下、コロナ禍）等の影響を受けて建設には至っていない。

この他に、宇佐市民図書館渡綱記念ギャラリー、戦争遺構めぐり拠点施設「宇佐空の郷」、宇佐市役所安心院支所盆地ギャラリー、道の駅いんない等では小規模ながら展示用のスペースがあり、歴史文化に関する情報発信の場としても利用されている。

【史跡公園・ガイダンス施設・解説サイン等の整備】

史跡川部・高森古墳群はその周辺を含む一体が宇佐風土記の丘として整備されており、歴史博物館の展示資料と合わせて見学することで、宇佐の古墳時代についてより詳しく学ぶことができる構成となっているだけでなく、公園内に植えられたサクラやショウブ等の植物により四季の移ろいを感じることができる。一方で、樹木の繁茂により肝心の古墳が見えない箇所もあり、保存・活用に関する新たな計画等も必要となっている。

風土記の丘に隣接する宇佐市総合運動場では、古代ふれあい広場として川部遺跡で検出された古墳の復元整備が行われている。

上原遺跡や野口遺跡、樋尻道遺跡、京徳遺跡等の弥生時代の遺跡が史跡公園として保存・整備されているが、説明サイン等の老朽化もあり、設備の更新が必要となっている。

戦争遺構としては、城井一号掩体壕・高居地下壕・宇佐海軍航



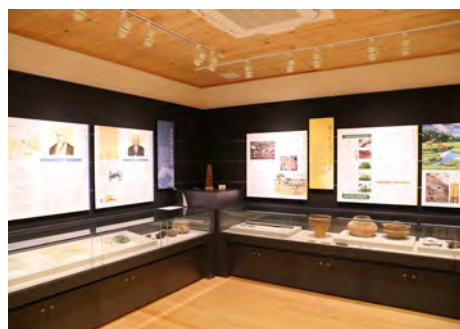
マスコミへの発表



観光ガイドの会の研修への職員派遣



宇佐市平和資料館



安心院支所盆地ギャラリー



宇佐市総合運動場 古代ふれあい広場

空隊関係爆弾池・宇佐海軍航空隊落下傘整備所・同耐弾式コンクリート建造物・同発動機試運転場等で整備が完了しており、前述の平和資料館とあわせて多くの見学者が訪れている。

東西別院が^{いらか}藁を並べる門前町である四日市地区と、勅使街道や宇佐神宮周辺の町割りなどが良く残る宇佐地区では、街なみ環境整備事業として石畳風の舗装や沿道の住宅や店舗等の外観整備・電線地中化等の景観整備が実施された。

75基もの石橋が集中する院内地域では、主要幹線からそれぞれの石橋に誘導するためにサインがそれぞれ設置されているだけでなく、鳥居橋・^{みくつ}御沓橋・荒瀬橋・^{ぶし}分寺橋では石橋を見学するためのビューポイントの整備や年間を通じた夜間のライトアップ等を行っている。一方で、解説サインや照明設備の老朽化等が見られ、将来的に機器の更新が必要である。

鰻絵が多く分布する安心院地域では、鰻絵のある家屋への誘導表示等が設置されている。



城井一号掩体壕 平和学習への対応



電線地中化後の勅使街道

【現地説明会・発掘体験・修復現場公開等の開催】

各種開発に伴う記録保存のための発掘調査や史跡整備のための保存目的調査等を実施する際に、現地説明会や発掘体験等を実施することもある。市民からの関心は高く、近年では小部遺跡の発掘調査現地説明会で約100名、城井一号掩体壕発掘調査現地説明会で約150名の参加者があった。

過去には、宇佐神宮や四日市別院等の建造物修理に合わせた修復現場を公開し、それと関連した町めぐり等のイベントも開催された。今後も継続することが重要である。



分寺橋のライトアップ

【インターネットでの情報発信方法】

文化財所有者や宇佐市観光協会等が整備している各種のホームページ等で文化財や観光名所等の情報発信が行われているが、個別の文化財の情報発信は不足している。

宇佐市の収集した戦争関連資料は、令和5(2023)年1月時点で4,000点を超える。その中で、台帳登録等の整理が終了した資料をデータベース化し「宇佐市戦争関連資料検索」としてインターネット上で公開している。一方で、台帳登録等が未完了な資料も多くあり、計画的な整理等が必要となっている。

整備が完了した宇佐海軍航空隊関連遺構を中心に、周辺や内部を360°カメラで撮影し、インターネット上で公開する「宇佐市戦争遺構めぐり体験(VR)」や、宇佐海軍航空隊関連遺構の見学に特化したスマートフォン用アプリ「うさんぽナビ」を配信する等の取り組みを実施している。



小部遺跡 発掘調査の現地説明会



戦争関連資料検索システム

(2) まちづくり・地域振興

宇佐の文化財を守る会や安心院縄文会、豊の国宇佐市塾等の文化財に関連する団体では、文化財に関する講演会・学習会等の開催だけでなく、郷土の歴史文化等に関する会報誌や書籍等を発行する等、幅広い取り組みが実施されている。

小学校単位を基本として設置されている各地区のコミュニティ組織(まちづくり協議会等)では、地域の歴史や文化財についてのマップ作成・神社の鳥居銘文の集成・郷土史に関する書籍の刊行といったソフト面や、文化財を見学するために駐車場・説明板・危険箇所への手すり設置・ウォーキングコースの設定といったハード面の双方で様々な取り組みが実施されている。

(3) 観光・商工振興

【観光】

宇佐市で最も観光客が訪れるのは宇佐神宮であり、年間100万人以上の参拝客が訪れる。大分県でも有数の観光地であり、宇佐市の観光施策の中でも重要な位置づけにある。

市内には、宇佐神宮関連文化財以外にも、宇佐海軍航空隊の遺構群、昭和の大横綱「双葉山」に関する資料館である「双葉の里」、院内の石橋群、安心院の鰻絵群、県立歴史博物館と風土記の丘といった、歴史や文化に関する名所や施設が多数あるが、観光客の誘導がうまくできていない場合も多い。宇佐神宮周辺の文化財等を含めた周遊ルートの開発や周遊方法の検討が必要である。また、コロナ禍以前は、宇佐神宮には外国人観光客も多数訪れていた。アフターコロナを見据え、外国人観光客にもわかりやすいような文化財や歴史についての解説文の作成、情報発信等の取り組みを宇佐市都市計画課等が進めており、今後も継続することが重要である。

宇佐市観光協会では、宇佐市観光ガイドの会等と連携して、宇佐神宮や宇佐海軍航空隊の戦争遺構、四日市の門前町めぐり、安心院地区の鰻絵めぐり、院内石橋めぐりなどへの観光ガイドの派遣を実施している。また、近年重要視されている体験型観光のために整備された、観光ガイドとともに早朝の宇佐神宮を巡る「宇佐神宮早朝参拝」、電動自転車で安心院の鰻絵や院内の石橋等の観光地を巡る「E-bikeで行く安心院・院内 里山ライド」といったプログラムの中で文化財の見学等が組み込まれている。

【商工振興】

江戸時代以来の門前町である四日市地区では、ひな祭り(3月)や七夕まつり(8月)といった年中行事や、東西別院で行われる法要「おとりこし」(12月)に合わせた各種イベント等が開催されている。



宇佐の文化財を守る会の会報誌



豊の国宇佐市塾が刊行した書籍



まちづくり協議会が整備した説明板



大分県立歴史博物館



観光協会が実施した体験型プログラム
(御許山トレッキング)

また、宇佐地区、長洲地区、安心院地区、院内地区でも、それぞれの地区にある神社の恒例祭等に合わせて夏祭りが開催されており、商工会やライオンズクラブ等の団体が運営にあたっていたが、長引くコロナ禍を受けて規模の縮小あるいは行事自体の中止が続いている。



四日市地区で行われるおとりこし

ようこそ、深見へ。

深見地区は、大分県宇佐市安心院にある。人口約1500人の小さな集落です。深見に来たらぜひ、美しい山、川、田園風景を眺めながら、気の向くままに車や徒歩でまちをめぐり、ゆっくりと過ごしてみてください。春は桜、夏はぶどう、秋はお稲穂、冬は紅葉など、四季折々の自然や食、伝統行事で温かくお迎えします。深見の良きや田舎の楽しさを、少しでも知っていただけたら幸いです。

RECOMMEND SPOT

深見の四季 FOUR SEASONS in FUKAMI

春 山の青さが美しい桜ロードに 夏 2年に一度、避暑地の涼を満喫する行事 秋 10月頃、各地でお稲穂の祝い 冬 老人クラブが主催のしめ縄で新年を迎えます

1 福見野の滝 高さ55m、国指定名勝の滝。滝の真下から見ることもできる。新緑の滝と呼ばれている。⑤見学自由

2 湧水観音 太水や自然災害から守る地区をまつたといわれる観音。パワースポットとして親しまれている。⑤見学自由

3 深見の稲田 美しい稲田の風景が広がる農地地区。春は5月頃から見頃。お米（やまね）の収穫シーズンをドライブするのがおすすめ。

4 釜ノ口の本棚 昭和30年といわれる本棚。4月上旬には夏祭りの花火を眺めながら、涼風を浴びながら。⑤見学自由

5 丸山山アランチ 丸山山頂上に建つ、高さ約7mの赤いアランチ。丸山山頂上にある一軒家である。⑤見学自由

6 深見温泉 安気の温泉。源泉、源泉の熱湯スベスベ。⑤13:00～21:00 (10～3月20:00まで) ⑥入浴費 大人300円、小・中学生150円

7 宇佐市地域交流ステーション 旧深見中学校を改修した交流施設。集落や周辺の歴史を学ぶことができる。⑤0538-44-4544 (深見地区まちづくり協議会)

8 安心院米小さなワイン工房 (百笑一喜) 地産・安心院産ぶどうにこだわった、個性派ワイナリーの醸造所。⑤12:30～16:30、土・日・曜日は9:00～16:30

9 栗樹園カフェ歩くように/安心院農園 自家製フルーツを使った季節のメニューを提供。8～10月まではぶどう狩りも。⑤11:00～16:30、日～水曜(ぶどう狩り期間中は無休)

10 温泉 安心院には古くから多くいたことなどから、温泉のある事が知られる。大地区には「湯島温泉」など4つの温泉が点在している。

11 今井橋 橋長約38m。深見川に架かる、立派な3連アーチの石橋。新緑や紅葉に映える。⑤見学自由

12 cakes+cafe 深見堂 季節120年の古民家カフェ。地元産食材を使った洋菓子とジビエ料理が楽しめる。⑤10:30～18:00、火・水曜

13 深見五重の塔 赤木高野氏が深見への遷葬の念をこめて建立したお寺の塔。地元のライトアップも行われる。⑤見学自由

14 山の翁 深見町赤木高野氏65歳のひらき。大小の岩の山。4月の第1日曜日は花見祭りが行われる。⑤見学自由

15 ハナグサ洞穴 山の洞から深見川を挟んだ向かい側にある。約200歳の洞穴。洞内にいるお寺「ハナグサ洞」の住僧さんといわれている。

FUKAMI MAP

深見地区まちづくり協議会 2020年2月発行

まちづくり協議会が作成したパンフレット

Illustrated Map of Usa Jingu Shrine and Surrounding Area

Learn More About Usa

Scan the QR codes to visit the official website for more information!

Shinto Sites

1 Kurehashi Bridge 2 Nishi Sando Path 3 Usa Torii Gate 4 Jogu (Upper Shrine) 5 Hyakudan Stairs 6 Wakamiya Jinja Shrine 7 Gogu (Lower Shrine) 8 Togu Jinja Shrine 9 Hishigata Pond 10 Tongu 11 O'o Jinja Shrine 12 Go'o Jinja Shrine 13 Otori Gate 14 Shinkyo Bridge 15 Mt. Omoto 16 Site of Mirokuji Temple

Early Syncretic Worship Sites

17 Hyakutai Jinja Shrine 18 Kyoshuzuka Tumulus 19 Kesho Ido Wells 20 Ukiden

Buddhist Sites

21 Daizenji Temple 22 Gokurakuji Temple 23 Dairakuji Temple 24 Entsuji Temple

People & Places

25 Oga no Higi no Mikoto 26 Chokushi Kaido Road 27 Steam Locomotive 28 Nakamise Shopping Street

Illustrated Signboards (Festivals of Usa Jingu Shrine, etc.)

1. Chin'ekisai Festival 2. Reisai (Annual Festival) 3. Rokugo Manzan Pilgrimage 4. Hokke Hakko Ritual 5. Goshinkosai Festival 6. Suganuki Purification Rite 7. Mukaeko Ritual 8. Nina Hojo Ritual 9. Honden Senzasai Ritual 10. Rinji Hobeisai Ritual 11. Chokushi Kaido Road 12. Sumo Wrestler Futabayama 13. Usa Hachiman Railway Station 14. Minomushi Sanjin's Illustrated Diary

宇佐神宮・勅使街道・宇佐町周辺の文化財を紹介する英語版パンフレット

第4節 文化財の防災・防犯に関する現状

(1) 災害の発生状況と被災後の措置

①地震

平成 17(2005) 年 3 月 20 日に発生した福岡県西方沖地震では国宝宇佐神宮本殿等の建造物のひび割れ等が発生した。

平成 28(2016) 年 4 月 16 日の熊本地震では、地震による被害として宇佐神宮の建造物のひび割れ・史跡宇佐神宮境内宮迫地区の石垣が一部崩落するといった被害が発生した。

令和 4 (2022) 年 1 月 22 日に発生した日向沖地震では、国宝宇佐神宮本殿の塗装に亀裂が生じる等の被害が発生した。



地震でひび割れた宇佐神宮本殿 (令和 4 年)



台風で被害を受けた宇佐神宮社叢 (平成 3 年)



落下した宇佐神宮社叢の樹木 (平成 30 年)



台風で崩落した念仏橋と護岸 (令和 4 年)

②豪雨災害・台風

平成 3 (1991) 年に発生した台風 19 号で、史跡宇佐神宮境内 (御許山地区) や天然記念物宇佐神宮社叢^{しゃそう}の樹木の広範囲にわたる転倒等が発生し、史跡の構成要素である石段や建造物等にも大きな被害が生じた。被災箇所については、災害復旧事業を実施して復旧した。この他にも、西貝神社 (市史跡) で樹木の転倒や、教覚寺本堂 (未指定) で屋根の一部が破損する等、市内各所で大規模な被害が発生した。

平成 5 (1993) 年に発生した台風第 13 号では、院内地域で石橋^{きょうづか} (京塚橋、田平橋^{たのひら}) が崩落するといった大きな被害が生じた。崩落した石橋は復旧できず、失われた。

平成 15(2003) 年に発生した台風 10 号では宇佐神宮の上宮がある小椋山斜面が崩落し、宇佐神宮社叢に被害が生じた。崩落した斜面では、土壌を保護するために重機による搬出等为避免、現地での樹木の玉切等を実施した。

令和 4 (2022) 年に発生した台風 14 号では、宇佐神宮境内と宇佐神宮社叢の樹木の枝折れ、念仏橋 (国登録有形) の壁石や周辺の護岸が崩落する等の被害が発生した。

③土砂災害・落石等

平成 27(2015) 年 2 月には名勝耶馬溪^{やばけい} (仙ノ岩^{せんのいわ}の景) で落石が発生したほか、同年 7 月には福厳寺閻魔洞^{ふくごんじ}において岩盤の崩落が発生した。どちらも人的被害はなく、後日落石等は撤去された。

④盗難・故意のき損等

昭和 54(1979) 年に、県指定有形文化財である妙楽寺阿弥陀如来^{みょうらくじ}像が盗難の被害にあった。この仏像は未だ発見されていない。



盗難にあった妙楽寺阿弥陀如来像

(2) 文化財の防災・防犯に関する取組み

①文化財防火デー

毎年1月26日前後に、宇佐神宮本殿・善光寺本堂・龍岩寺奥院礼堂・大楽寺・大善寺・四日市東別院山門において、所有者・宇佐市消防本部・宇佐市教育委員会社会教育課による消防設備の点検や消火訓練等を実施し、防災意識の向上を図っている。

②文化財パトロール

大分県教育委員会が委嘱した文化財保護指導員による年間を通じた文化財パトロールが行われている。国・県の指定等文化財だけでなく、地域の重要遺跡等についても見回りを行っており、文化財自体の保存状態だけでなく、維持管理や説明板の整備等についての所見もある。



文化財防火デー 消火訓練



文化財防火デー 消防設備の点検

第5節 文化財保護の体制に関する現状

(1) 宇佐市の文化財保護のあゆみ

高度経済成長期を迎えた昭和40(1965)年代には、宇佐市でも工場や学校等の新設、大規模圃場整備といった開発が行われ、東上田遺跡、台の原遺跡等で発掘調査が実施された。一方で、川部・高森古墳群だけでなく宇佐神宮周辺までを含めた一帯を「宇佐風土記の丘」として保存・整備する構想が立案され、文化財専門職の配置が求められた。

昭和46(1971)年4月、大分県教育委員会に文化室が設置されるのと同時に、宇佐市教育委員会に文化財係がそれぞれ設置された。これは大分県下では最も早い文化財専門部署の設置であり、同時に文化財専門職員も採用された。同年8月には、民間団体である「宇佐の文化財を守る会」が発足し、官民で連携した文化財の保護が図られた。

文化財保護の機運が官民ともに高まる中で、昭和51(1976)年には全国初となる「文化財保護都市」を宣言し、市議会で承認された。宣言の実現に向けて、考古学や文献史学を専攻した文化財専門職員の採用も定期的に行われた。

昭和56(1981)年には大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館(現、大分県立歴史博物館)が開館した。この時期には県と市で連携した各種文化財の調査等も多数実施された。

平成3(1991)年には旧宇佐市では、大分県下で初となる文化課が設置され文化財保護と文化振興の両立が図られ、文化会館を利用した展示等も行われた。

平成17(2005)年に合併で現在の宇佐市が誕生する以前、旧安心院町では文化財専門職員としての採用はなかったが、考古学を専攻した職員が配置され開発に伴う発掘調査等を担った。一方で、旧院内町では開発自体が少ないこともあり、専門職員は配置されなかったものの、教育委員会職員によりオオサンショウウオの生息状況調査等が継続的に実施された。

合併後、機構改革により平成22(2010)年からは社会教育課文化財係となり、現在に至っている。

(2) 文化財保護の体制に関する現状

現在、宇佐市の文化財保護行政を主管しているのは教育委員会社会教育課文化財係である。

令和5(2023)年度3月時点で係員5名(係総括1名、一般職2名、専門職2名)が配属されている。専門職員の年齢構成をみると30代1名、20代1名のみであり、経験豊富なベテラン職員がいずれも異動あるいは退職したため、近年一気に若年化した。専門職員の専攻はいずれも考古学であり、文献史学や民俗学、建造物、美術工芸品、天然記念物等に対する専門的な所見が必要となる場合は、有識者に意見を求めて事業等を実施している。

宇佐市内にある多種多様な文化財に関する市民からの要望や問合せへの対応、各種開発に対する発掘調査や過年度調査の報告書作成、戦争遺構やかんがい施設等を活用した地域学習への職員派遣、宇佐神宮や四日市別院等の有形文化財建造物の修理、法鏡寺廃寺跡や小部遺跡等の史跡公有化と整備、オオサンショウウオの生息状況調査等、業務は多岐にわたりながら年々増加しており、個別の文化財に対する調査等が十分に行えないのが現状である。

専門職員の計画的な採用や、考古学以外の専門分野に精通した職員の配置、地域住民や関係機関と協働による調査に向けた予算の確保等を要望していくことが必要である。